

平成30年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一,山崎 勝之,皆川 直凡
7	教職共通科目	30032200	現代の諸課題と学校教育	青葉 暢子,麻生 多聞,立岡 裕士,町田 哲,山本 準,原 卓志,坂本 有芳,黒川 衣代
8	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治
9	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏,塩路 晶子,木村 直子,高原 光恵,田中 淳一
10	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁(嘱託)
11	人間形成	30112000	近代教育文化史演習	梶井 一暁(嘱託)
12	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
13	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
14	人間形成	30119000	教育認知心理学研究	皆川 直凡
15	人間形成	30121000	心理教育科学研究	内田 香奈子
16	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究 I	久米 禎子
17	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究 II	葛西 真記子
18	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	粟飯原 良造,今田 雄三,葛西 真記子,吉井 健治,小倉 正義,久米 禎子,川西 智也,古川 洋和
19	臨床心理士養成	30448000	臨床心理面接研究 II	粟飯原 良造
20	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	木村 昌紀(嘱託)
21	臨床心理士養成	30460000	保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)	今田 雄三,古川 洋和
22	臨床心理士養成	30461000	福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)	小倉 正義,川西 智也
23	臨床心理士養成	30462000	教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)	今田 雄三,吉井 健治,小倉 正義
24	臨床心理士養成	30463000	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	黒澤 良輔(嘱託)
25	臨床心理士養成	30466000	心理支援に関する理論と実践	久米 禎子,葛西 真記子,古川 洋和
26	臨床心理士養成	30467000	家族関係・集団・地域社会における心理支援	粟飯原 良造,川西 智也
27	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
28	幼年発達支援	30516000	こころの発達支援研究	浜崎 隆司
29	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
30	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
31	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子
32	現代教育課題総合	30637100	文化とコミュニケーション	金野 誠志,太田 直也
33	現代教育課題総合	30639100	人間と文化 II (地域研究A)	太田 直也
34	現代教育課題総合	30643200	コミュニケーションと環境	金野 誠志,谷村 千絵

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
35	現代教育課題総合	30646200	人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)	金野 誠志,谷村 千絵
36	現代教育課題総合	30647200	環境と文化	田村 和之
37	現代教育課題総合	30649200	人間と環境Ⅱ(実践研究A)	田村 和之,近森 憲助
38	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
39	特別支援教育専攻	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
40	特別支援教育専攻	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
41	特別支援教育専攻	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	高橋 眞琴
42	特別支援教育専攻	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
43	特別支援教育専攻	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
44	特別支援教育専攻	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁(囑託)
45	特別支援教育専攻	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
46	特別支援教育専攻	31171000	発達障害児生理・発達学研究	伊藤 弘道
47	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志
48	言語系	32140000	日本語Ⅰ	田中 大輝
49	言語系	32141000	日本語Ⅱ	廣田 知子
50	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
51	言語系	32147000	現代日本語演習	茂木 俊伸(囑託)
52	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	黒田 俊太郎
53	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島 明子
54	言語系	32153000	日本語教育学研究	廣田 知子
55	言語系	32154000	社会言語学研究	永田 良太(囑託)
56	言語系	32156000	日本語文法研究	田中 大輝
57	言語系	32159000	言語習得・発達論	田中 大輝
58	言語系	32161000	日本語音声表現研究	田中 大輝
59	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
60	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
61	言語系	32183000	日本語教育法研究	廣田 知子
62	言語系	32193000	教科内容構成(国語科)	村井 万里子,原 卓志,余郷 裕次,小島 明子,幾田 伸司,黒田 俊太郎,田中 大輝
63	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ(言語表現)	眞野 美穂

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
64	言語系	32228000	英米文化研究 I (文化史)	宮崎 隆義(嘱託)
65	言語系	32233000	小学校英語活動構成論	佐藤 美智子
66	言語系	32282000	初等中等英語科教育特論 I	石濱 博之(嘱託)
67	言語系	32284000	小学校英語習得論	畑江 美佳
68	社会系	33158100	歴史学研究 I	大村 拓生(嘱託)
69	社会系	33158300	歴史学研究 II	町田 哲
70	社会系	33158500	歴史学研究 III	原田 昌博
71	社会系	33158900	地理学研究 II	立岡 裕士
72	社会系	33159100	地図表現学研究	立岡 裕士
73	社会系	33159200	地図表現学演習	立岡 裕士
74	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
75	社会系	33159900	哲学・倫理学研究	齋木 哲郎
76	社会系	33160000	哲学・倫理学演習	齋木 哲郎
77	社会系	33171000	社会科教育学研究	伊藤 直之
78	社会系	33173000	社会科授業研究	梅津 正美
79	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上 奈穂
80	自然系	34123000	数理科学研究	宮口 智成
81	自然系	34124000	数理科学演習	宮口 智成
82	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之(嘱託)
83	自然系	34172000	数学科教育学研究	秋田 美代
84	自然系	34175000	数学科教材開発研究	佐伯 昭彦
85	自然系	34193000	教科内容構成(数学科)	宮口 智成,松岡 隆,成川 公昭
86	自然系	34212100	物理学特論 I	本田 亮
87	自然系	34215100	物理学特論 IV	本田 亮
88	自然系	34217000	有機化学特論	胸組 虎胤
89	自然系	34225100	生物科学特論 II	工藤 慎一
90	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀
91	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正
92	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	森 正

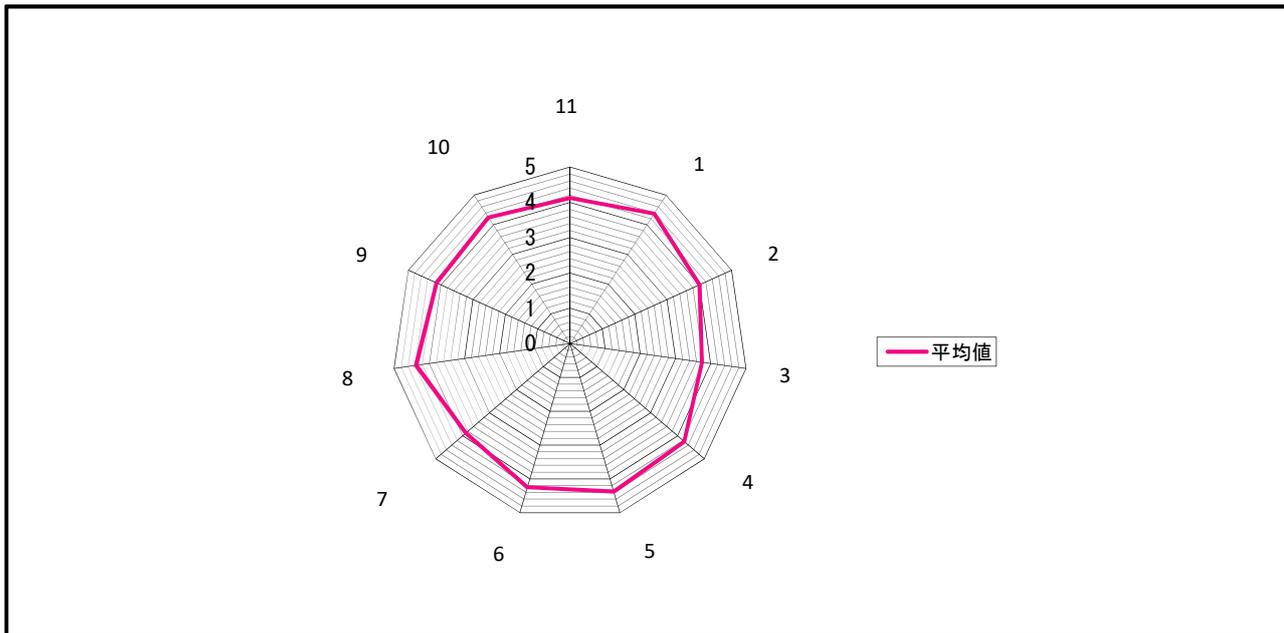
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
93	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正
94	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
95	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
96	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
97	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
98	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
99	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
100	芸術系	35227000	芸術学研究	小川 勝
101	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
102	芸術系	35293000	教科内容構成(美術科)	山田 芳明,小川 勝,鈴木 久人,野崎 窮,山木 朝彦,栗原 慶,内藤 隆
103	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
104	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
105	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
106	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典
107	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
108	生活・健康系	36171000	保健体育科教育学研究	湯口 雅史
109	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本 賢治
110	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下 晃一
111	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
113	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎 士郎,宮下 晃一
114	生活・健康系	36276000	情報科教育研究Ⅱ	森山 潤(嘱託)
115	生活・健康系	36278000	教育と情報活用	益子 典文(嘱託)
116	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
117	生活・健康系	36313000	生活経営学研究	坂本 有芳
118	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
119	生活・健康系	36317000	食生活学研究	西川 和孝,西川 章江(嘱託)
120	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
121	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
122	生活・健康系	36393000	教科内容構成(家庭科)	坂本 有芳,速水 多佳子,黒川 衣代,福井 典代,西川 和孝,金 貞均

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
123	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹,小澤 大成
124	国際教育	37181000	国際理解教育特論 I	小澤 大成,近森 憲助

# 結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割  
 評価実施日 平成30年7月18日  
 担当教員名 木内 陽一,山崎 勝之,皆川 直凡      回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	1				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4	2				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4	3				3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	4	1				4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3	1				4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	1				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	4	1	1			3.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	5					4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	5	1				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	5	1				4.1



## 教員のコメント

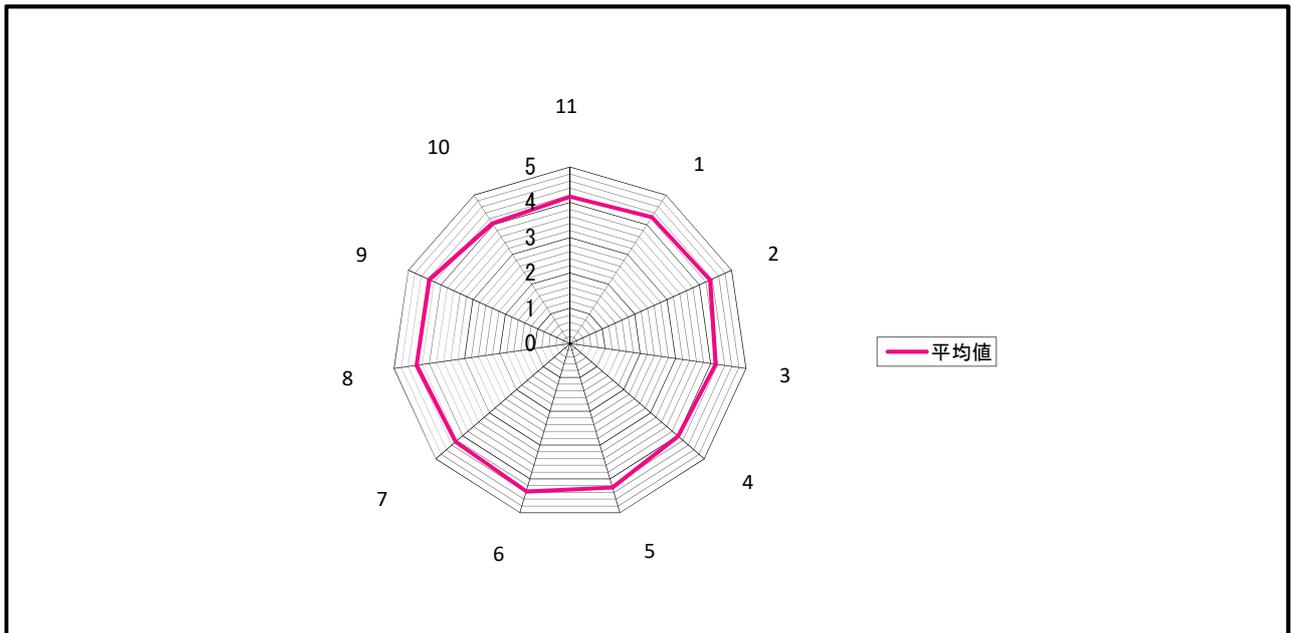
この授業は、人間形成コースの三教員がそれぞれの持ち味を生かしつつ、学校教育を見る視点を養うことを主眼としている。担当者の専攻領域は、「教育哲学」、「健康発達心理学」、「教育認知心理学」であり、学校教育を考えるには、いずれも重要な視点を提供している。とりわけ心理学担当の教員の評価が高いことが、アンケートから見てとれる。これは、心理学関係の知見を受講者が大切にしたいと考えているためと考えられるが、同時に、担当教員の授業方法の良さ(ディベートなどを活用するなど。)を示していると考えられる。このように、学校と直接的に結びついた授業内容を展開すること、授業方法の多様化は、今後の大学のあり方を考えても大切な視点であり、今後とも力を入れていきたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育  
 評価実施日 平成29年7月25日  
 担当教員名 青葉 暢子、立岡 裕士、山本 準、麻生 多聞、町田 哲原、卓志、坂本 有芳、黒川 衣代

回答者数 51 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	20	6	2		4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	21	2	3		4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	19	8	3		4.1
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	23	13	9	5	1	4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	18	5	2	1	4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	28	16	5	2		4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	22	21	7	1		4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	24	20	6			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	15	9			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	16	15	1		4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	23	7	2		4.2



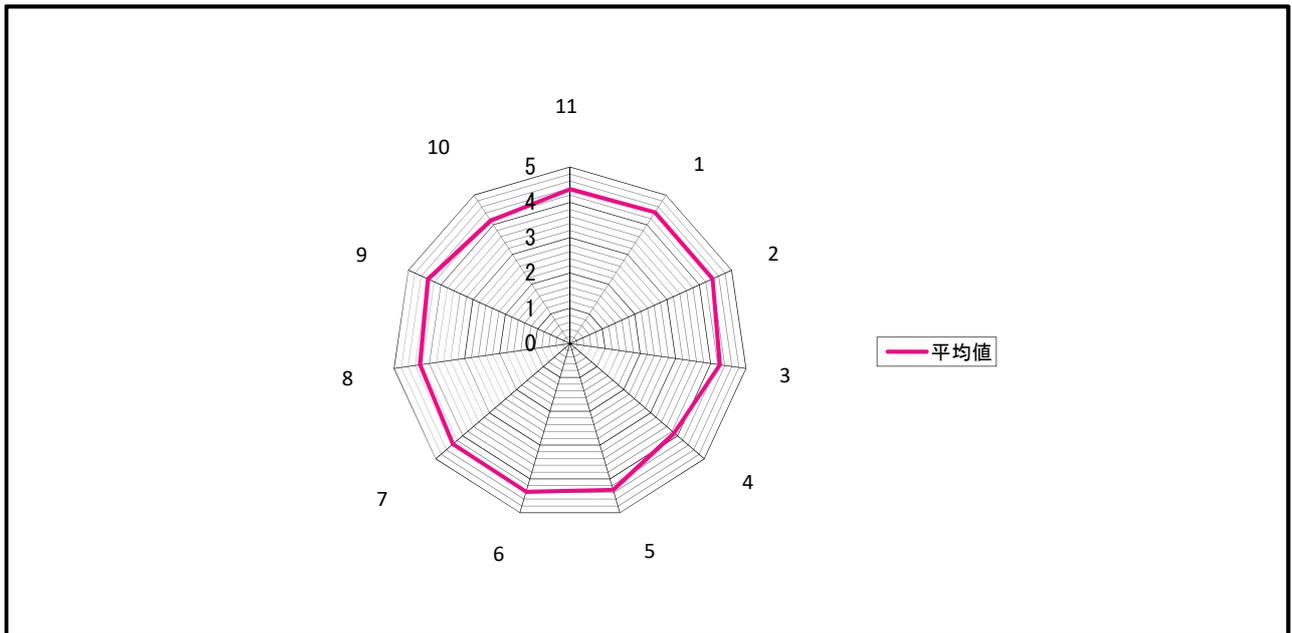
## 教員のコメント

本授業の中では多くの時間にアクティブラーニングを実施し、概ね好評だった。また、オムニバス形式で複数の教員が授業を担当したが、多くの学生が様々な視点から現代の諸課題と学校教育について考察する機会を得られたと記述しており、本授業の目的は達成できたと考える。

# 結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 小倉 正義,葛西 真記子,吉井 健治 回答者数 119 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	59	51	9				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	63	42	11	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	56	39	21	1	1		4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	28	51	35	2	1		3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	56	46	16	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	59	45	14				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	58	46	12	2			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	50	50	17	1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	59	46	11	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	38	60	19		1		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	57	50	9	2			4.4



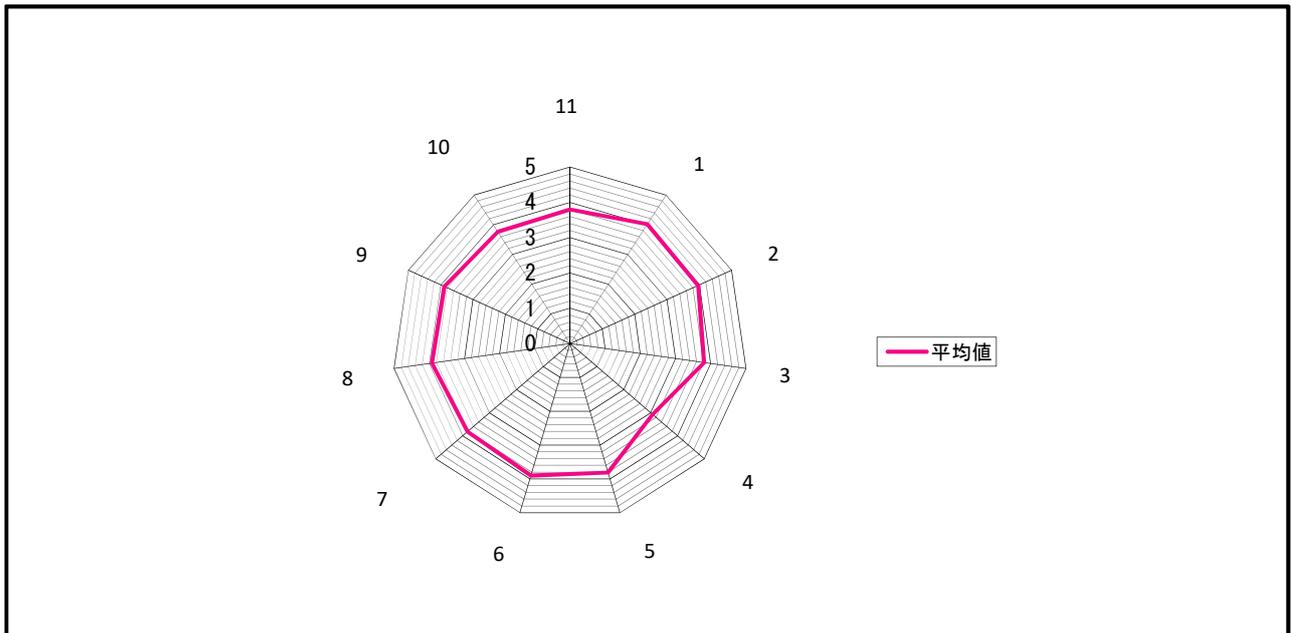
## 教員のコメント

アンケートの自由記述欄のコメントからも実践性の高さはある程度保持できたこと、3人の教員が関わっていることがプラスに働いていることがうかがわれ、昨年度からの改善点が活かされているように思われた。来年度から始まる新カリキュラムでは、同じタイトルでの授業はなくなるが、発展上にある授業として「子どもへのアプローチ」が開講される。この授業では、さらに教員が増えるので、様々な専門性の立場から、より実践に役立つ授業が展開できると考えているが、教員が増えることで話にまとまりをもたせることがやや難しくなると思われるため、改めて授業目標を意識して大講義の中で学生が積極的に参加できるような授業を実施したい。

# 結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 田村 隆宏,塩路 晶子,木村 直子,高原 光恵,田中 淳一 回答者数 105 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	30	50	22	3		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	51	23	4		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	25	45	25	7	2	3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	25	36	20	11	3.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	45	32	2	2	3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	22	57	21	4	1	3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	27	46	20	7	4	3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	27	49	25	2	2	3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	28	43	29	4	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	50	24	8	2	3.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	46	26	8	1	3.8



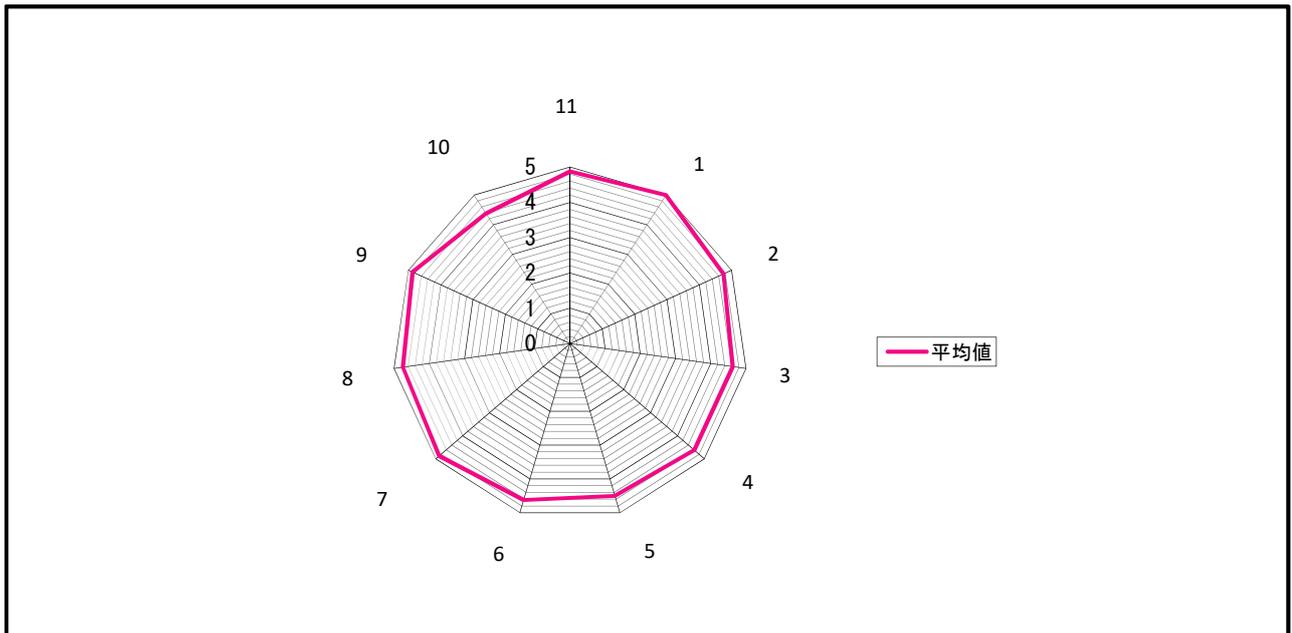
## 教員のコメント

各項目の評定値をみると、(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた以外は3.8以上であり、これらの項目内容については概ね肯定的な評価を受けている結果となった。しかしながら、(4)の項目では、中央値3(どちらでもない)を僅かに超える程度の評定値であった。この結果については、本講義が100名を超える受講生を抱えているため、アクティブ・ラーニングの実施に少なからず困難を伴うものであったことが原因の一つであったと考えられる。今後の講義では、大人数でも実施できるアクティブ・ラーニングのあり方を工夫する必要がある。また、今後改善して欲しいことに関する受講生のコメントでは、「複数の教員による授業で、内容ばバラバラであったので、全体として方向性がわかりにくかった」、「声が聞こえにくかった」、「テスト、レポートの内容の指示があいまいであった」といった内容が寄せられたことから、これらについて改善する必要がある。

# 結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究  
 評価実施日 平成30年9月13日  
 担当教員名 梶井 一暁      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	3				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1	2			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



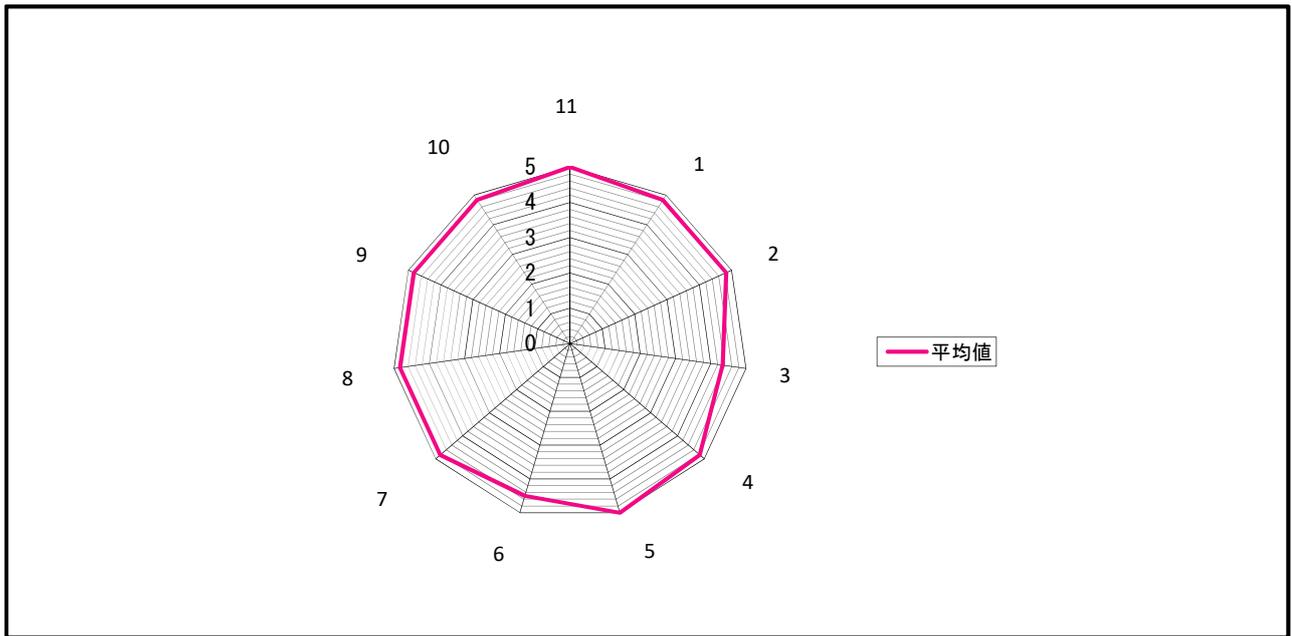
## 教員のコメント

授業はおおよそ積極的に受けとめられたものであったと評価される。集中講義であり、受講者はよく関心を向け、授業に取り組んでくれたと思う。  
 配付資料について文字ばかりでなく、絵図も含んで用意することを工夫したが、やや量が多かったかもしれないと振り返るところである。  
 今後も授業や教材の改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 近代教育文化史演習  
 評価実施日 平成30年9月27日  
 担当教員名 梶井 一暁      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	3				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



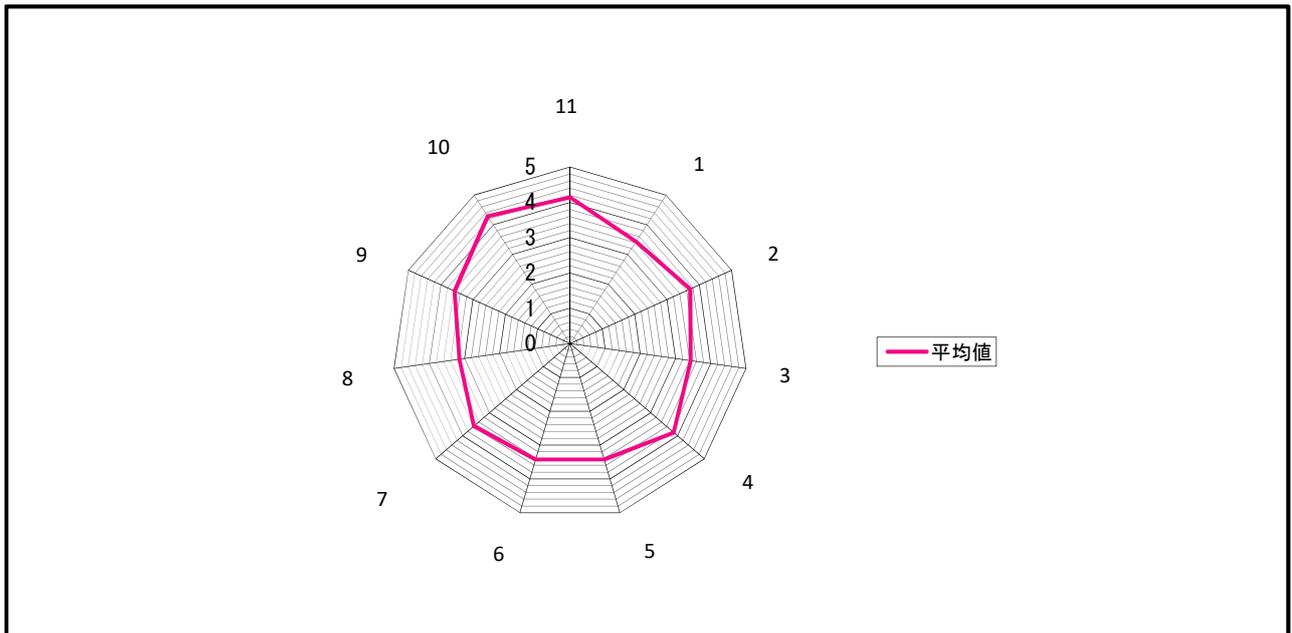
## 教員のコメント

授業はおおよそ積極的に受けとめられたものであったと評価される。集中講義として行う演習であり、短期間にフィールドワークと文献調査を組み込む忙しい日程であったが、受講者はよく主旨を理解し、うまく内容を吸収してくれたと思う。  
 フィールドワークは天候に左右されるところが懸念要素であるが、地域の観点を重視する意図から、来年度もできれば取り組みたいと思う。  
 今後も授業や教材の改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 教育哲学研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 木内 陽一      回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	1	2			3.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3		2			3.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	2	2			3.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	4	2				3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	5				3.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	3	1			3.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	3	1			3.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	3		2	1		3.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	4		2			3.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2		1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1	1			4.1



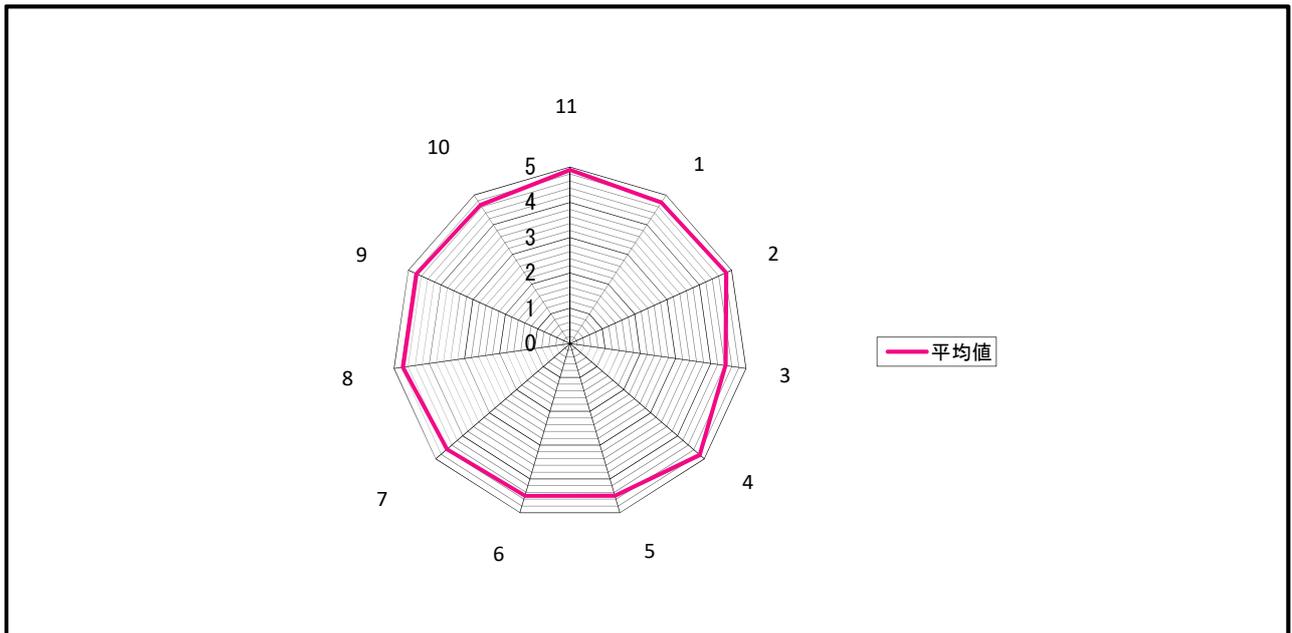
## 教員のコメント

この授業の主眼は、教育という人間の営みを、思想史的な観点から検討することにあつた。使用したテキストは、ザフランスキー『ドイツロマン主義』(法政大学出版局)であつたが、前年度ほどの議論の盛り上がりを感じられなかつたのは、やや残念に思つた。しかし、受講生にかけていると思つた知識を補いつつ、ドイツを中心とする19世紀の思想を検討し、その特質について意見を交わすことができたのは、大きな収穫であつた。思うに、教育実践力の養成には、豊富な実践経験から得られた知見とともに、教育の思想や歴史から得られた教育観も必要であらう。何よりも、大学での教員養成であるからには、学問の喜びを知つた教師として受講生が育っていくことを願わずにはいられない。

# 結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 山崎 勝之      回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	2			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4	1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	6				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



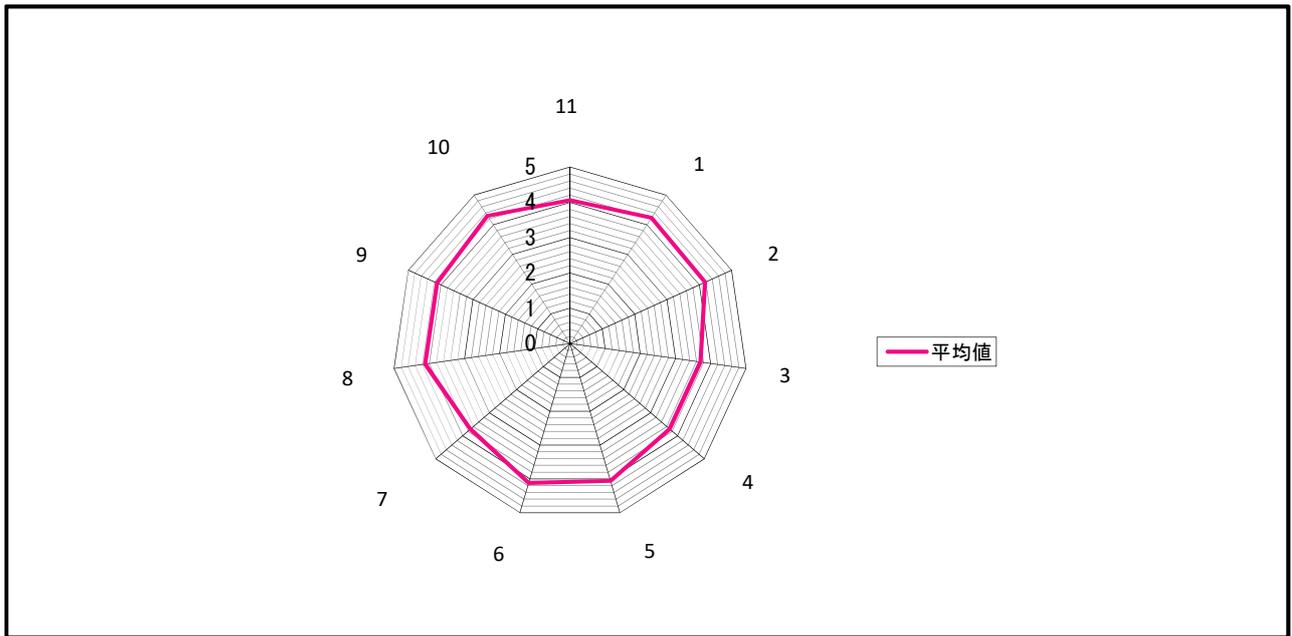
## 教員のコメント

総合評価は4.9となり、満点に近かった。受講生に高く評価され、授業者としては良かったと思う。また、受講生の授業への参加姿勢の素晴らしさに感謝したい。  
 いずれの項目も評価が高く、特に低い項目は見当たらなかったが、授業者としては反省点も少なくない。この授業の目標は高く困難で、この領域を題材に、独創的な考えを導くことができる力を養い、その考えを公表することができることを目指した。しかし、例年のことであるが、この独創性の高まりへの指導が困難を極め、短期間での育成はむずかしい。しかし、大学院での授業である以上、このことを達成することが肝要で、引き続き目下の授業構成と運営の改善を続けたい。

# 結果報告書

授業科目名 教育認知心理学研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 皆川 直凡                      回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	7	3				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	8	3				4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	7	6	1			3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	8	4	2			3.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	10	3				4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	7	4				4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	7	3	3			3.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	5	5				4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	5	5				4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	6	3				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	7	3	1			4.1



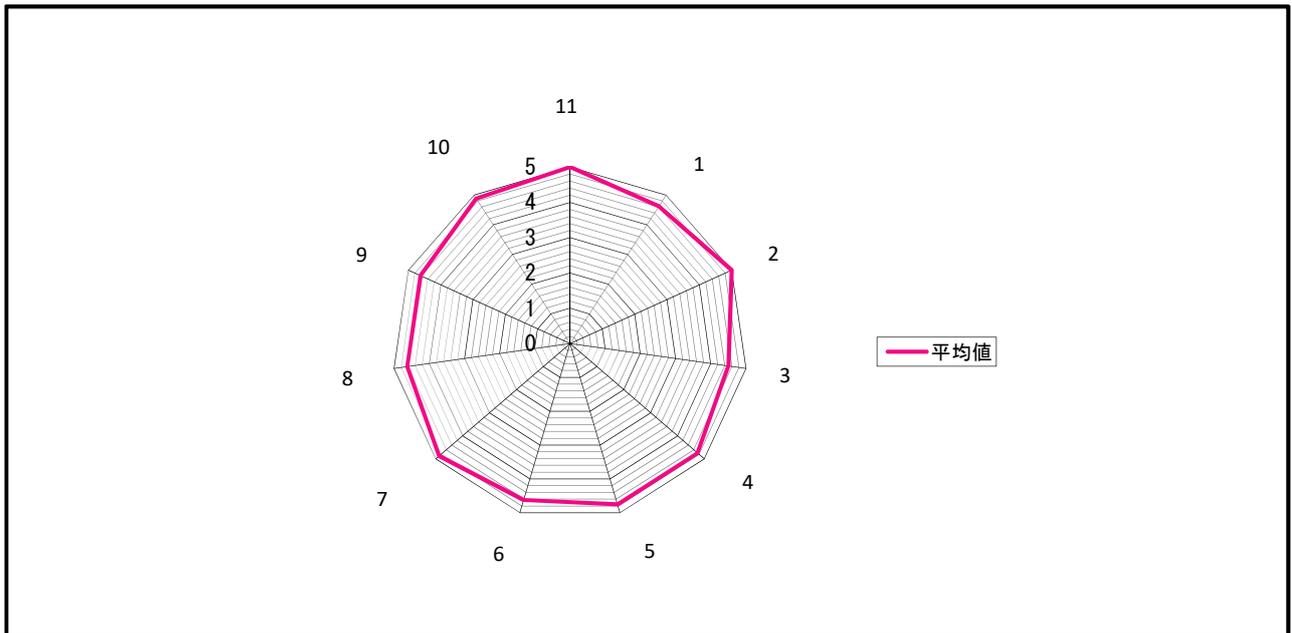
## 教員のコメント

本授業に対する総合評価は平均値が4.1であるとともに、評価4以上を選択した回答者が17名中13名(76%)を占め、さらに9名は全項目に対して4以上の評価をしたことから、おおむね良好であったと言える。一方、項目(3)・(4)・(7)では評価平均値が4を下回り、改善の方向性を指し示している。因みに、総合評価を3以下とした回答者は残りの項目も比較的低く評価していた。本科目は高い水準に目標をおく専門科目であり、すべての受講者の要望に応えることは難しいが、専門科目としての質を落とさないことを最優先に、できるかぎり多くの受講生のニーズにも応えられるよう努力したいと考える。

# 結果報告書

授業科目名 心理教育科学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 内田 香奈子      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



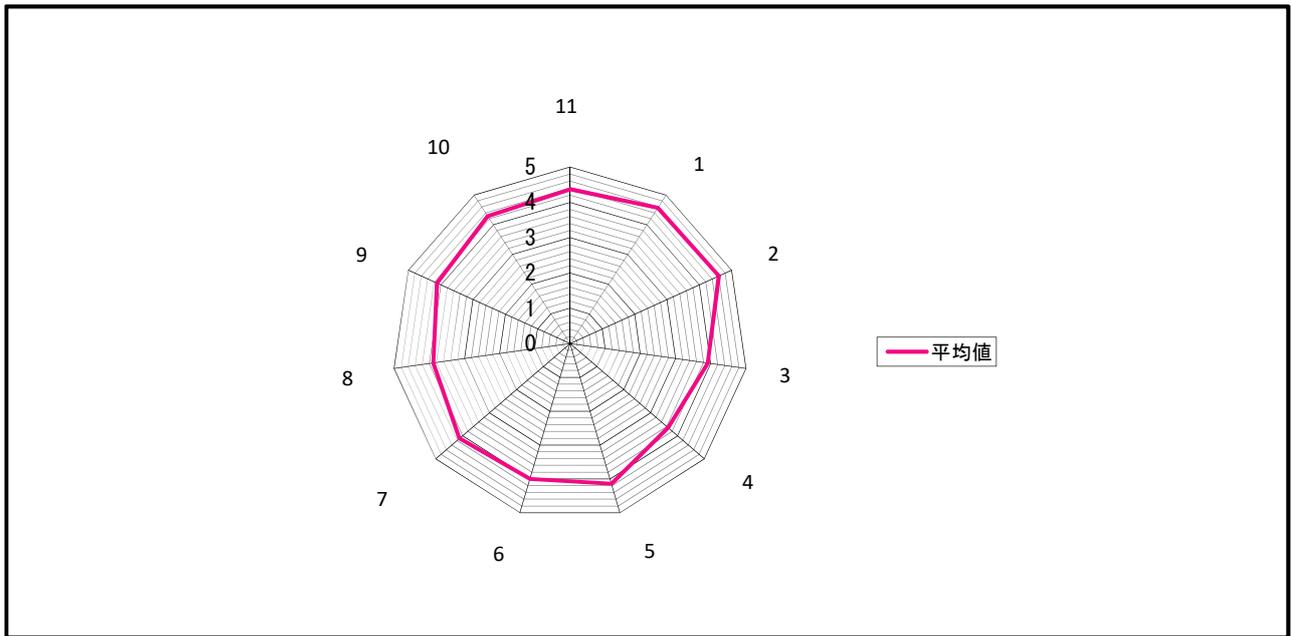
## 教員のコメント

本授業は、今年度より主に当コースの教育力、研究力をより強化するために開設された科目である。学校現場において心理教育(予防教育)を行うにあたり、自ら研究論文を読み、介入方法を模索し、そして実施した教育内容を検証するための、基礎的な力を身につけることを最大の目的としている。これらの力を身につけるため、論文探索と読解、SPSSによる分析、統計学の基礎、プレゼンテーションの方法などを、まんべんなく解説する形を取った。メールや個別の指導も行うなど、希望者には授業以外でのアプローチも行う形を取った。結果、授業評価は4.5以上、総合評価は5.0となった。反省点としては、今年度より他コースからの受講生もあり、若干学生のニーズが異なる点へきめ細やかな対応が出来なかった点である。今年度の経験を生かし、次年度も尽力したい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 久米 禎子      回答者数 35 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	21	13	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	22	12	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	9	11	1	1	3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	11	13	3		3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	19	4	1		4.1
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	12	14	6	3		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	14	13	6	2		4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	9	9	4		3.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	14	4	3		4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	14	4	1		4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	17	14	4			4.4



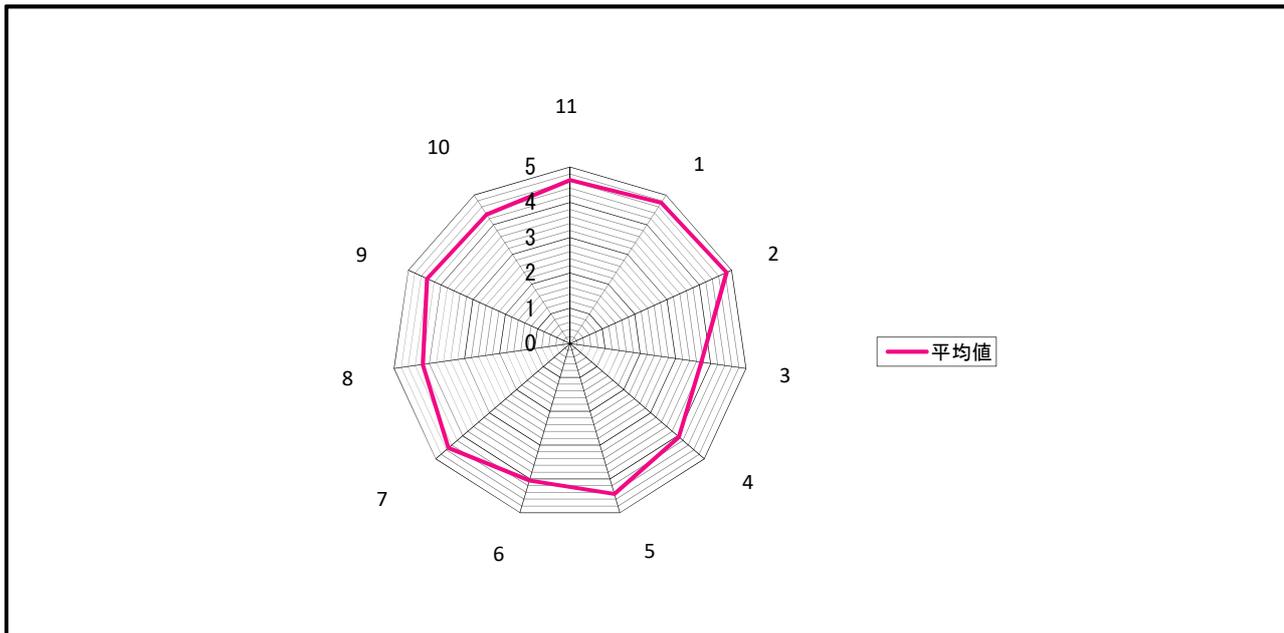
## 教員のコメント

1冊の本をていねいに読み進めていく形式は、予習復習もしやすく、講義やディスカッションをとおして理解も深まったと思われる。資料に関してはPPを使用したがる、内容はテキストに書かれているもので、あくまで授業を進めていく上での補助という位置づけであるため、紙資料としては配布しなかった。受講生から資料を配布してほしいという要望があったがる、今後、予習復習の仕方や、授業への取り組み方について、より丁寧な説明が必要と思われる。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 葛西 真記子      回答者数 38 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	32	4	1		1	4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	35	2			1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	17	6	6	6	3	3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	16	12	5	3	1	4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	20	17			1	4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	14	16	5	2	1	4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	24	12	1		1	4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	11	5	2	1	4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	23	10	4		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	13	3	2		4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	27	10			1	4.6



## 教員のコメント

本講義についての総合的な評価は4.6であり、また、4.5以上の項目も3つあった。もっとも低かった項目は毎年同じ項目であるが、「教師の実践力の育成につながる内容であった」という項目であった。この点については、授業の中で学校現場での活用については、いじめや不登校など学校の事例について話をすることはあるが、それだけでは、実践力の育成にはつながらなかったということである。しかし、本授業は、臨床心理士を目指している者が履修しており、臨床心理士の実践力を育成することを目的にしているため、今後は調整が必要である。

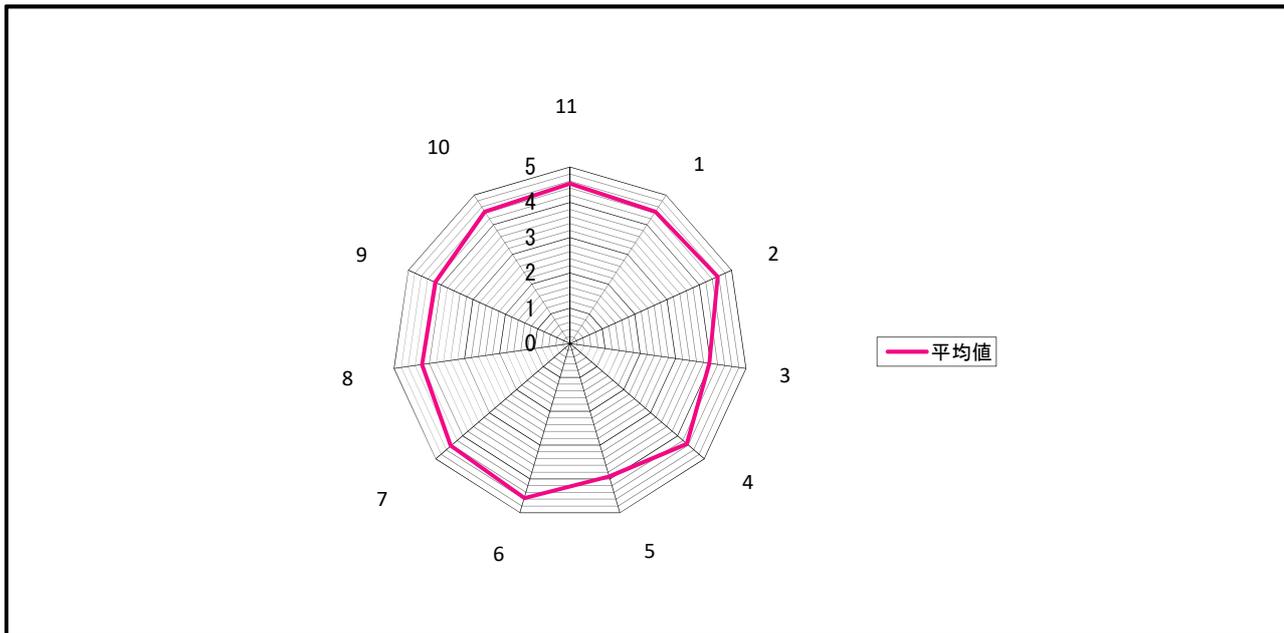
自由記述の欄で「事例があり、わかりやすかった」「自分の実践を振り返ることができてよかった」「グループでの話し合いが多く積極的に学べた」という肯定的な意見も多かったが、改善点として、「講義の内容すべての資料を配ってほしい」「スピードが速い」というのがあった。この点については、講義の内容をこれからもすべて配布するつもりはない。資料をすべて配布しないことによって、ノートをとったり、積極的にかかわれると考えている。また、資料については、フォントをあげてほしいというものもあり、これについては、対応したい。講義のスピードについては、理解が難しい学生がいるということなので、対応していきたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 栗飯原 良造 今田 雄三 葛西 真紀子 吉井 健治 小倉 正義 久米 禎子 川西 智也 古川 洋和

回答者数 30 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	13	2			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	7	3			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	9	6	3		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	14	11	4			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	8	10	1		3.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	18	11	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	5	3	2		4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	8	6	1		4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	14	4	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	10	2	1		4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	19	9	1	1		4.5



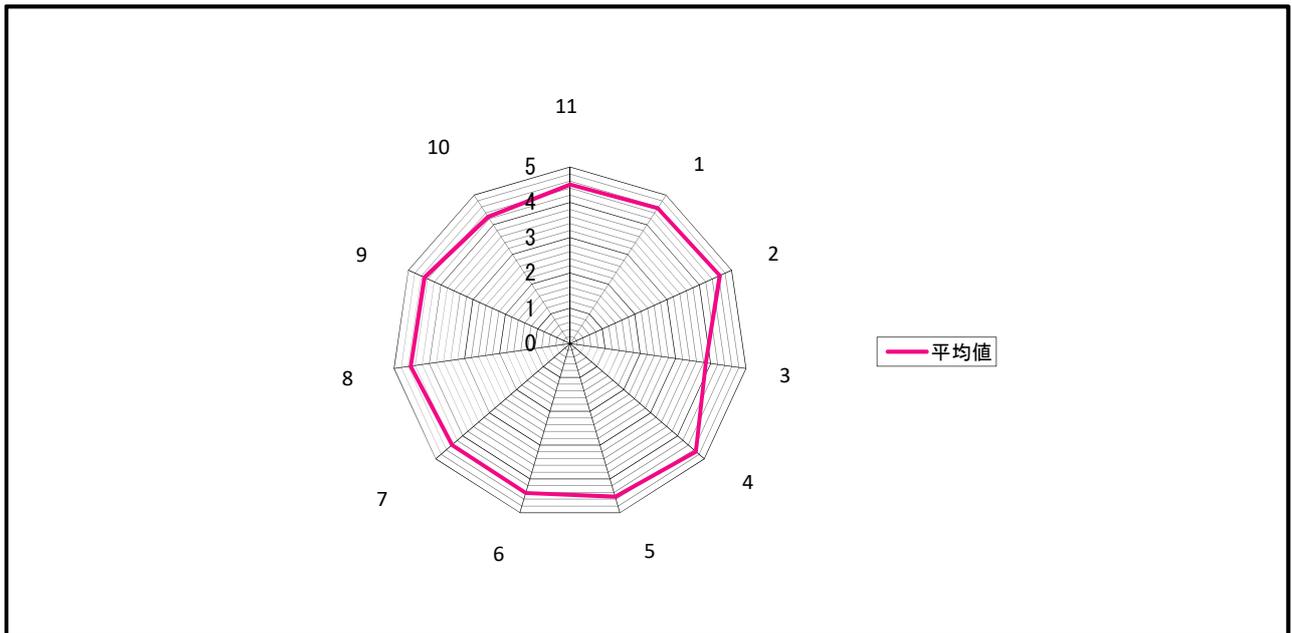
## 教員のコメント

本講義は、小グループに分かれて、各グループに担当教員が付く形式で行われた中、質問項目すべてにおいて4.0以上の評価を得た。本授業で教師が提供しているものと受講生が求めているものが一致し、満足が得られた授業であったと思われる。  
 自由記述では、受講生の8割が記述しており、その記述量も多く、異口同音に担当教員のコメントやアドバイスが役に立った、温かい言葉であった、小グループで学習なので、意見が言いやすく、教師との距離が近く温かな雰囲気であった、専門的で実践に近い学びであった、など肯定的な記述ばかりであり、受講生が学ぶ機会を得たことを積極的に肯定的に受け取っていると思われた。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 粟飯原 良造      回答者数 38 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	9	4			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	10	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	8	12	2	1	3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	29	6	3			4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	8	5			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	19	16	3			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	22	10	5	1		4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	8	5			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	21	15	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	16	6			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	9	5			4.5



## 教員のコメント

授業内容、授業の進め方、受講生が積極性について、「教師の実践力につながる」以外の項目では、4.3以上、授業に対する総合評価も4.5であった。「教師の実践力につながる」は3.9であり、1～5の各評価がありばらつきがあった。臨床心理士を養成するコースの科目であるが、心理学の知識と教育の知識とをつなぐ工夫を求められていると思われる。

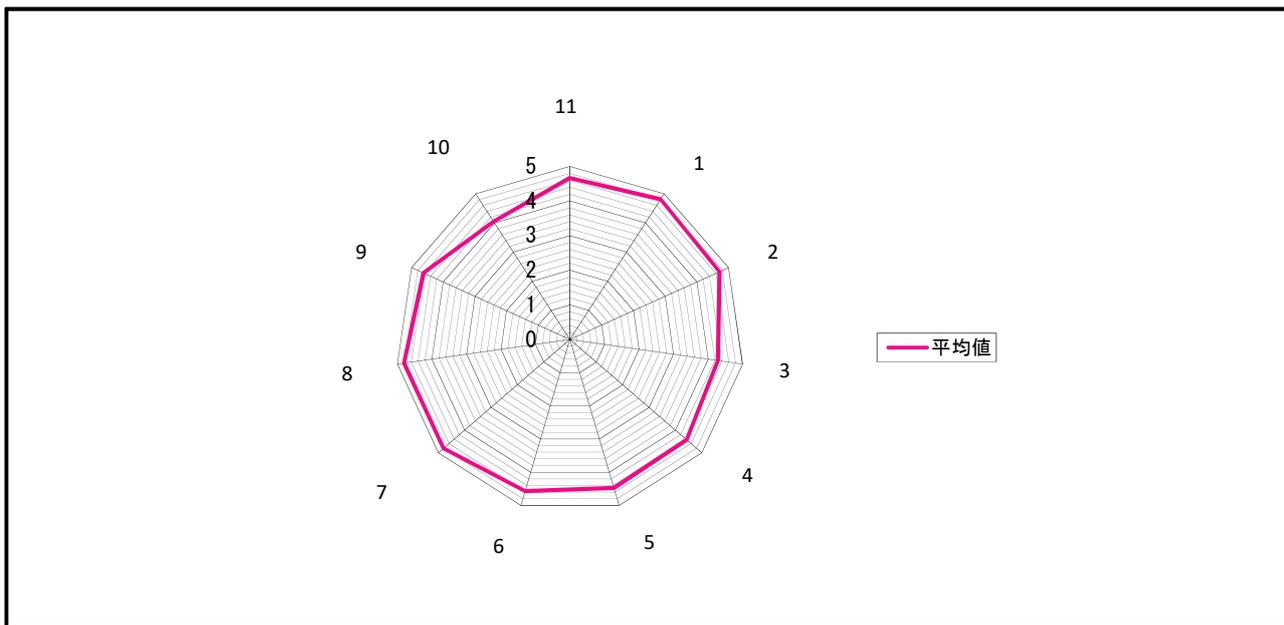
自由記述(28名)では、演習が多いので他人の意見が聞けて気づきにつながった、演習と講義がつながっているため理解が進むなどの肯定的意見が15名、作られた資料が予習や授業中の書き込みができたなど肯定的意見が6名あった。教員に対して、「権威的で傲慢である」「優しく声をかけてくれた」「先生が優しくなった」「説明が早すぎる時がある」「わかりにくかった」「演習で振り返りの時間が少なかった」「ケースに役立った」などの記述があり、肯定的意見、否定的意見もでる授業ができたと思われる。

今後も、全質問項目で高評価を得るのではなく、いわゆる受講生が「御意見」「もの申す」ことができることを大切にしていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会心理学研究  
 評価実施日 平成30年9月17日  
 担当教員名 木村 昌紀      回答者数 21 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	2	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	6				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	7	4			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	10	1			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	7	2			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	13	7	1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	17	4				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	1		1		4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	5		1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	10	2	2		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	4		1		4.7



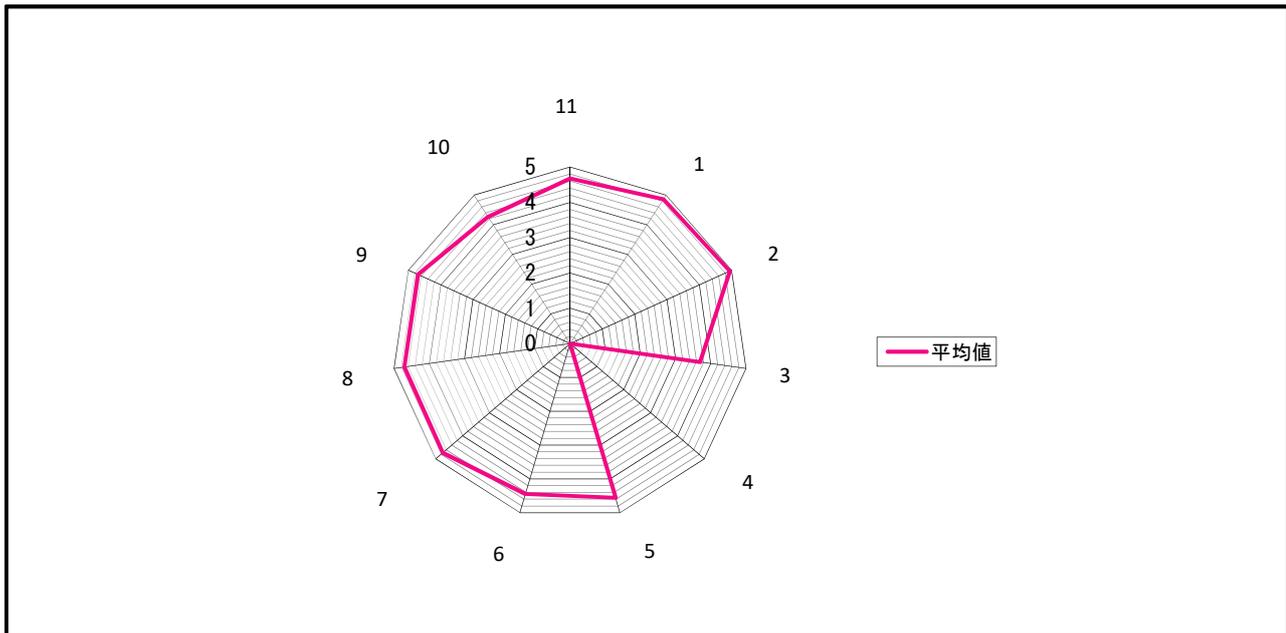
## 教員のコメント

本年度の集中講義「社会心理学研究」を担当させていただきました、木村昌紀です。今年は三年目になるのですが、これまでの課題点を踏まえて、体験型の課題や受講生同士の関わりを増やすことを心がけました。この点について、受講生の皆さんから体験課題が良かったと言ってくれて安心しました。また、より専門的な話を聞きたいとの意見を昨年いただいたことを受けて、緊急事態のコミュニケーションなど最近取り組んでいるテーマについてもお話しさせていただきました。三年目ということで慣れてきた一方で、台風による休講やプロジェクターのトラブルがあった際、機転を利かせた対応ができなかったことが反省点です。至らない点もたくさんあったと思いますが、良い評価をしてくださり、どうもありがとうございました。たくさんの受講生の皆さんから、講義内容に興味をもってくれたこと、スライドや配布資料がわかりやすかったとご意見をいただけて嬉しく感じています。講義内容に関しては、社会心理学の中で、特にコミュニケーションと対人関係について、基礎的かつ重要な内容を中心に、できるだけ幅広く、相互の関連性を意識しながら講義を心がけています。加えて、特定の分野での踏み込んだ話や、最新の知見の紹介もビデオ教材なども使いながら可能な範囲で行うようにしました。一方で、いろいろ盛り込んだ分、情報量が多くなり過ぎてしまいました。初めて社会心理学を学ぶ方には情報が多すぎて消化不良にさせてしまったかもしれません。内容を充実させながら、情報を厳選して最適を探っていきたいと思います。この反省点は、これからの講義に活かしていこうと考えています。熱心な受講生ばかりで授業もしやすく、いただいた質問やコメントで大変勉強になりました。最後に、「派生的感情(二次的感情)」について質問してくれた方が授業時にいらしたので、ここで文献を紹介します。井ノ川・山口・湯川(2016)「感情心理学研究」や櫻村・小川(2007)「筑波心理学研究」などが参考になるかもしれません。さらに学びを深めていただけたら幸いです。

# 結果報告書

授業科目名 保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 今田 雄三,古川 洋和 回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	29	5				4.9	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	32	2				4.9	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	7	10	4	1	1	3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	-	-	-	-	-	-	-
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	6	3	1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	19	13		2			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	25	9					4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	8	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	24	10					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	18	2	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	11					4.7



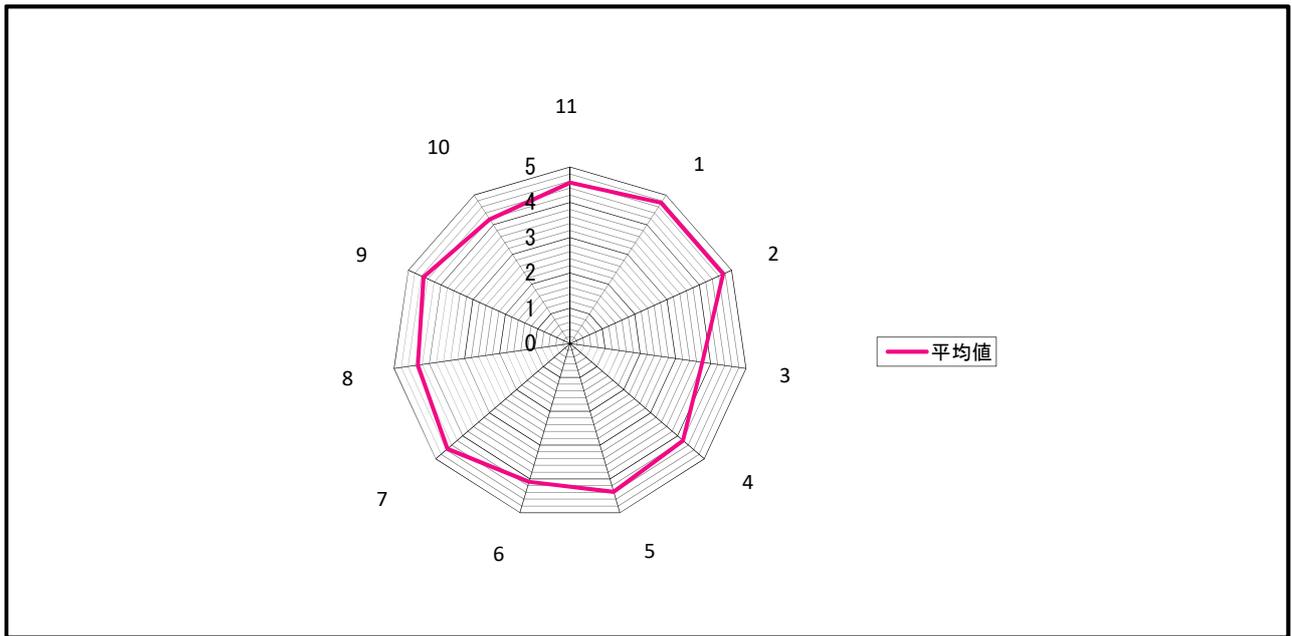
## 教員のコメント

質問10項目中9項目での評価が4.0点以上であり、総合評価(11)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」では4.7点と評価されており、本授業は総合的には受講生からは高い評価を得られたものとする。ただし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」に関する評価については3.7点、と4点に達していなかった。ただし受講者の自由記述には(3)の項目に関連する記述は含まれておらず、この項目に関し具体的な内容を検討することはできなかった。自由記述において、本授業のよかった点として「精神医学について詳しく学ぶことが出来た」「PowerPointの資料がわかりやすかった」点を評価する者が多かった。授業の改善点として、「内容が多すぎる」「ついていけないことがあった」ことを挙げている者が多かった。本授業は公認心理師取得のための必修科目であるが、受講生の大半が過去に精神医学を学んだ経験がなく、これも必修である医療機関での実習に備え、相当量の知識の習得を図る必要がある。よって基本的に教える知識量そのものを減らすことは出来ないが、今後はいかに「難しいことをわかりやすく説明する」か、更に工夫を行いたい。なお本授業ではアクティブラーニングを実施していないため、質問(4)の項目はアンケートから外している。上述したように、本授業が担っている役割を適切に果たすべく、アクティブラーニングの実施の有無にこだわるのではなく、受講生が基本的知識をきちんと習得することを主眼においた授業を展開したい。

# 結果報告書

授業科目名 福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 小倉 正義, 川西 智也      回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	9				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	7	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	9	10	3	1	3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	14	13	5	1		4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	15	3			4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	14	13	4	2	1	4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	22	10	1	1		4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	9	4	2		4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	20	12	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	17	4	1		4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	8	2	1		4.6



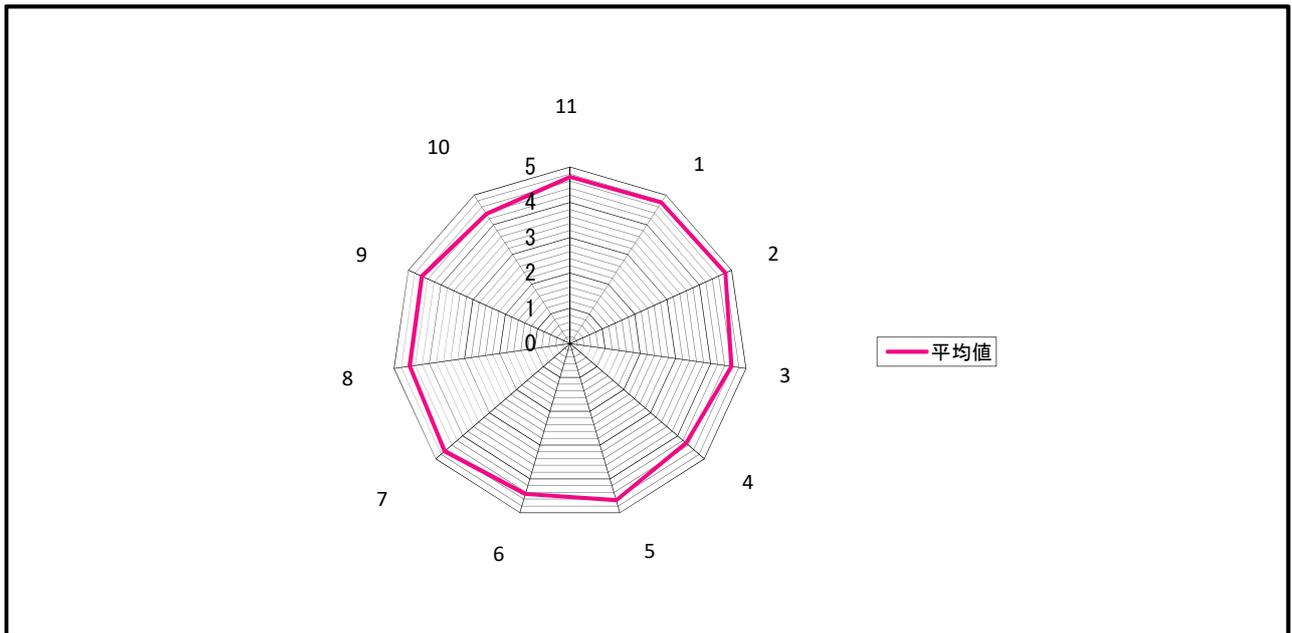
## 教員のコメント

公認心理師資格の科目として新に開講された科目であり、心理実践実習につながるために、基礎的知識の定着と事例を考える視点の養成の両方を目指して授業内容を工夫した。アンケート結果から、基礎的知識についてはもう少し整理をして提示することで学生の自主的な学習につながると考えられるので、今後配付資料や試験の在り方などを工夫したい。

# 結果報告書

授業科目名 教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 今田 雄三,吉井 健治,小倉 正義 回答者数 36 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	28	7	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	24	9	3				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	18	11	5	1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	23	11	1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	20	13	2	1			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	26	9		1			4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	23	12			1		4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	21	15					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	12	4	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	10					4.7



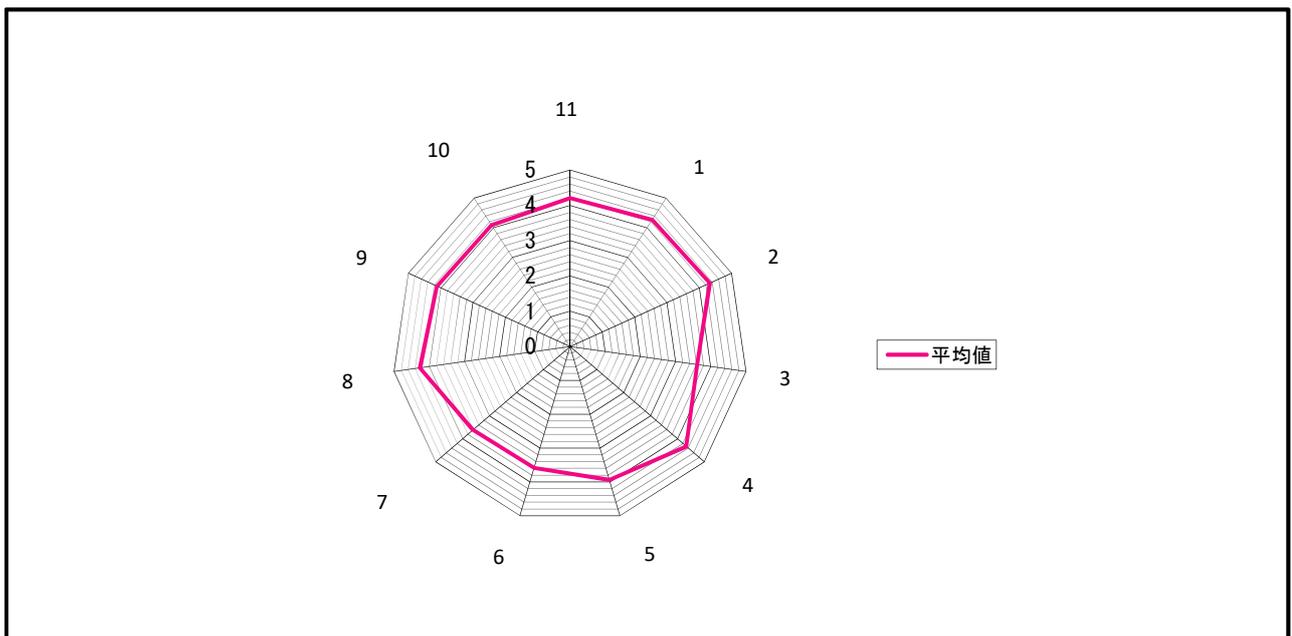
## 教員のコメント

(1)~(11)の各項目ごとの評価では11項目全てで4.5点以上を獲得し、(11)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.8点の評価を得ており、本授業は受講生から非常に高い評価を得たものと考えている。自由記述[2]の、この授業のよかった点として、教育現場での実践と結びついた内容であり、興味深く学べたという意見が多かった。自由記述[3]の、この授業の改善点としては、「特にない」という意見が多かったが、内容が多く、また試験については最後にまとめて実施するのではなく、2回に分けて実施して欲しかったという意見などもみられた。自由記述[4]の、授業への主体的・積極的な取り組みとしては、授業内でのグループワークに積極的にしたという記述が多かった。なお本授業は公認心理師における必修授業であり、また教育領域での実習に必要な基本的な知識が習得されているのかを確認するために試験を課している。試験の実施について、一部の受講者から不安があった旨の感想があったが、講義終了時に全範囲を対象に試験を実施する形式はごく一般的な形式であること、また全員が合格していたことから、次年度以降この形式を踏襲することで支障はないと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開  
 評価実施日 平成30年9月21日  
 担当教員名 黒澤 良輔 回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18	8	7	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	7	5	2		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	9	12	2	2	3.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	16	15	1	2		4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	11	11	1		3.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	10	10	6		3.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	10	10	3	2	3.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	18	10	3	3		4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	9	7	1	1	4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	15	5	2		4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	8	5	3		4.2



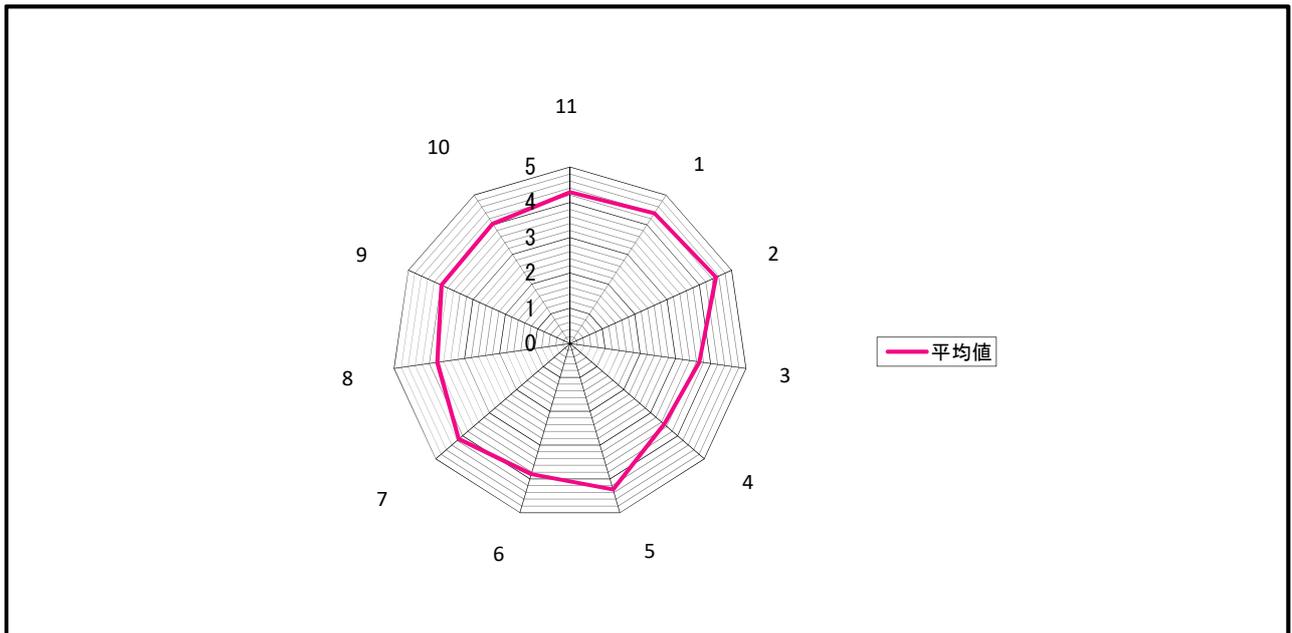
## 教員のコメント

・「臨床心理士・公認心理師」を強く意識し、「教師の実践力」という観点が必要だと反省している。次回は、教師にとって役立つ知識を意識しながら、説明したい。  
 ・予定していた授業内容が、やや多すぎたため、レジュメの中で説明を省略した部分があり、授業の進度が適切ではなかったのではないかと反省している。次回はポイントを絞り、レジュメの内容も精選して、分かりやすく説明するように心がけたい。  
 ・授業評価について、次回は、まとめテスト、小テスト、レポートを組み合わせ、明確に説明したい。

# 結果報告書

授業科目名 心理支援に関する理論と実践  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 久米 禎子,葛西 真記子,古川 洋和 回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	13	4			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	13	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	11	9	4	1	3.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	8	9	10	6	1	3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	15	3	1		4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	17	4	5		3.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	17	9	6	3		4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	14	4	7		3.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	14	5	4		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	18	5	2		4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15	16	3	1		4.3



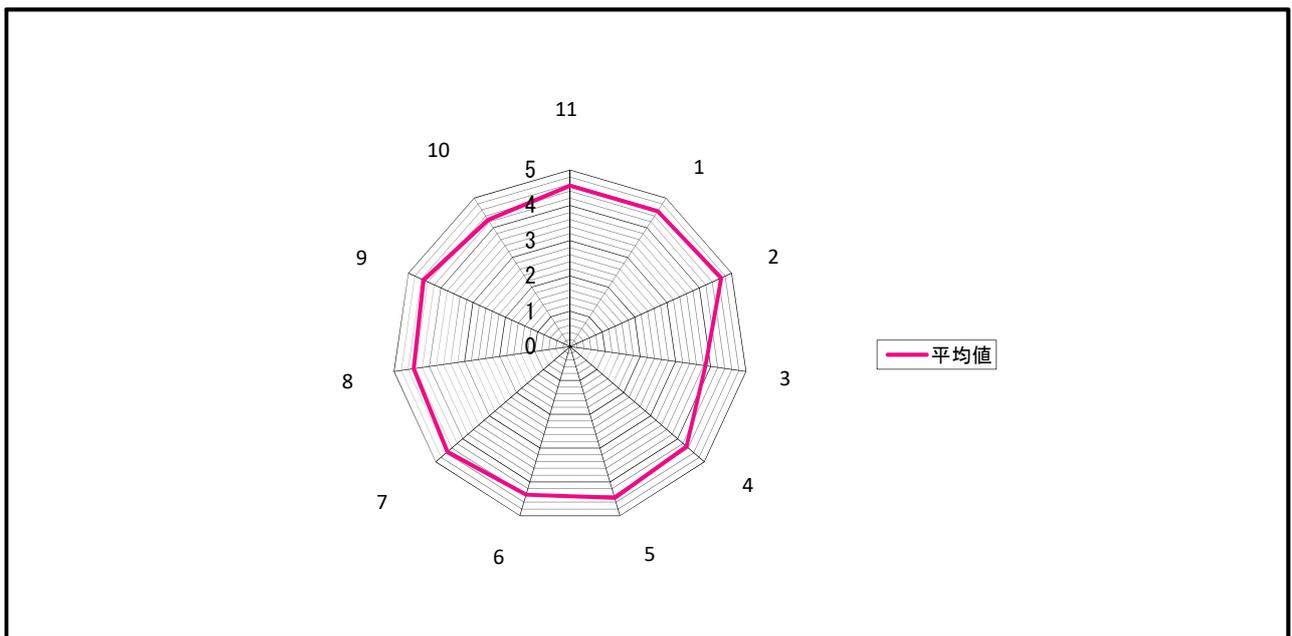
## 教員のコメント

受講生はおおむね関心をもって主体的に取り組んでいたように思われる。ただ、こちらが想定していた内容と、受講生の知識や理解度にギャップがあった部分もあった。今年度新規に開講した授業であるので、受講生の反応をふまえて今後内容やすすめ方について改善していきたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 家族関係・集団・地域社会における心理支援  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 粟飯原 良造, 川西 智也      回答者数 34 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	15				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	24	9	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	9	7	4	1	3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	15	15	2	1		4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	18				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	17	14	2	1		4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	20	13	1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	18	14	1	1		4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	19	14	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	17	4			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	21	12		1		4.6



## 教員のコメント

質問項目では、「教師の実践力につながる」3.9以外は、4.3以上の評価を受けた。なかでも専門知識を深めたが4.7と最も高く評価され、授業概要と実際の授業の一致、受講生にとって分かりやすかった、がともに4.6と評価された。総合評価も4.6であり、シラバスと授業内容が一致しており、専門知識を学びながらもわかりやすかったと思われた。

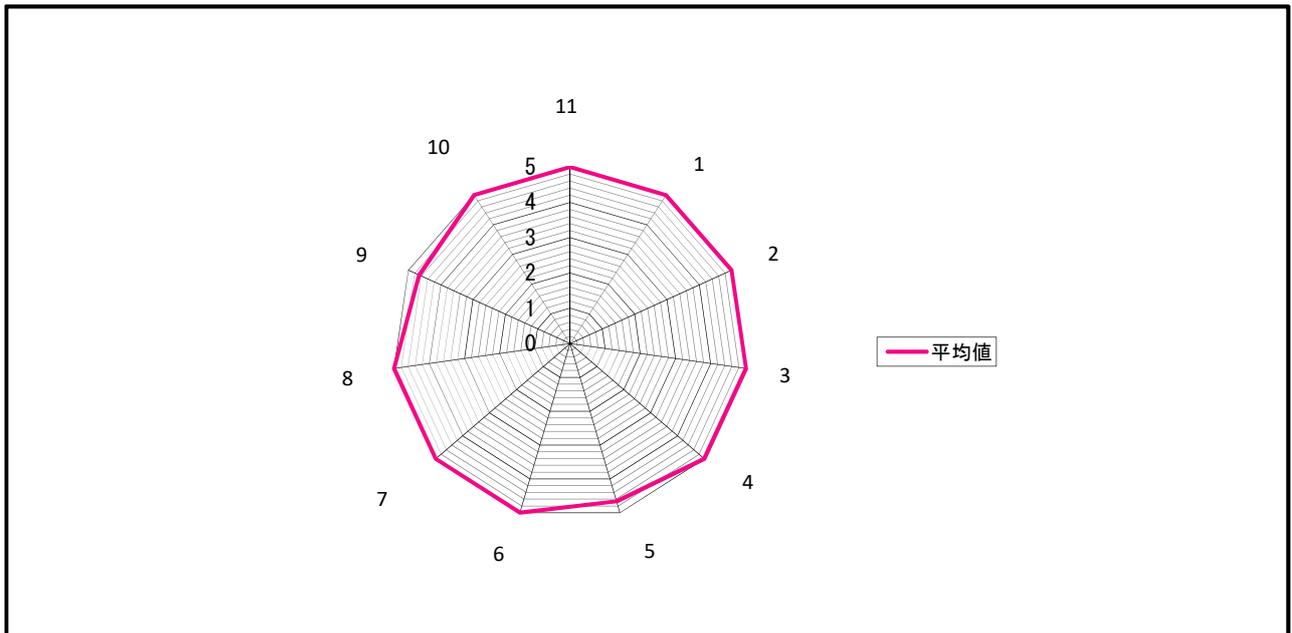
16名の自由記述では、専門的知識が得られた6名、演習などアクティブラーニングを好評価するもの9名、わかりやすかった5名であった。授業スピードが速かった1名、難しかった1名、難しかったが説明が丁寧であった1名であった。

以上のことから、受講生が望む授業と教師が伝えたかった内容が一致した授業であり、受講生の満足度が高い授業であったと思われる。公認心理師、臨床心理士を養成するコースではあるが、本講義で学んだことが学校現場でも役立つことを自然に伝える工夫が必要であると思われる。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 木村 直子      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



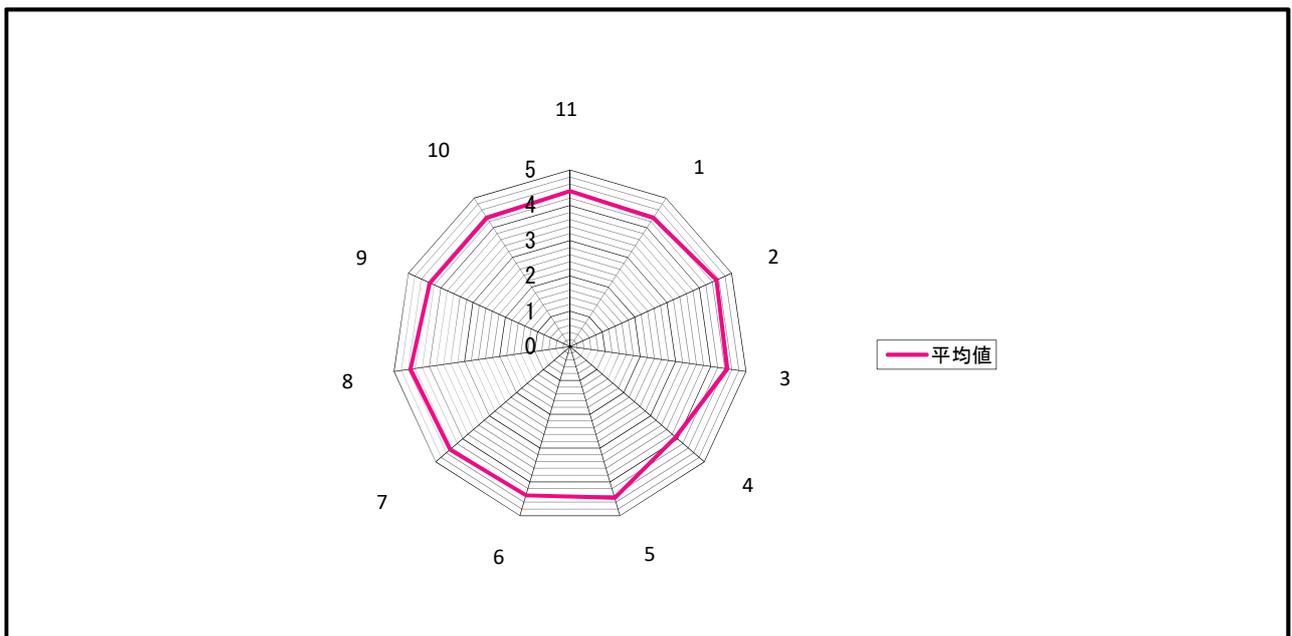
## 教員のコメント

今年度は幼年発達支援コースの院生が履修してくださった。受講者は多くはなかったが、そのことによって、授業の進度や内容を調整できたことが、受講生の評価の高さや満足度につながったと考える。例年課題となりやすい「授業に主体的に積極的に参加した」について、受講生が全員5と評価していることは、とても良かったように考える。また自由記述において、「これからも、考え続けていきたい」「少人数での話し合いや実践事例によって知識が身についた」など、受講生の学ぶ姿勢を喚起できたことがうかがえる。

# 結果報告書

授業科目名 こころの発達支援研究  
 評価実施日 平成29年7月28日  
 担当教員名 浜崎 隆司                      回答者数 15 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	6	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	7					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	8					4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	5	4	1			3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	4	2				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	4	1	1			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	5		1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	7					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	8	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	8	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	5	2				4.4



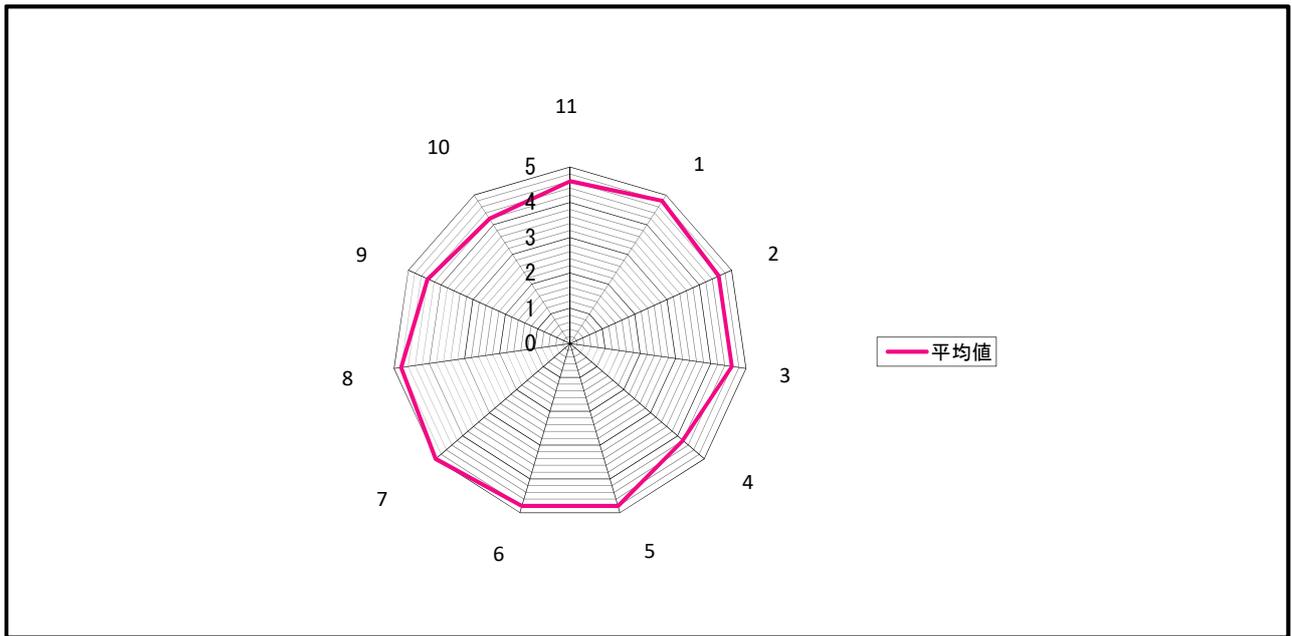
## 教員のコメント

アクティブラーニングの内容を、シラバスに取り入れ実施したものの、平均値で3点台であった。5点で評価した院生もいたが2点の評価をした院生もいた。この評価のばらつきは、事前にアクティブラーニングの内容についての事前説明を行わなかったことに原因があると思われる。授業によってアクティブラーニングの内容は異なるので、事前の詳細な説明が必要である。次年度より、授業開始時に評価の方法と共にアクティブラーニングについての説明を行うようにする。他の評価は総合評価を含めて4.3以上でおおむね高い評価を得たと思われる。可能であれば、アクティブラーニングを積極的に取り入れた講義に関しては自由記述等による小アンケートを実施し、改善点があれば改善する。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 田村 隆宏      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3	1		1		4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4		1			4.6



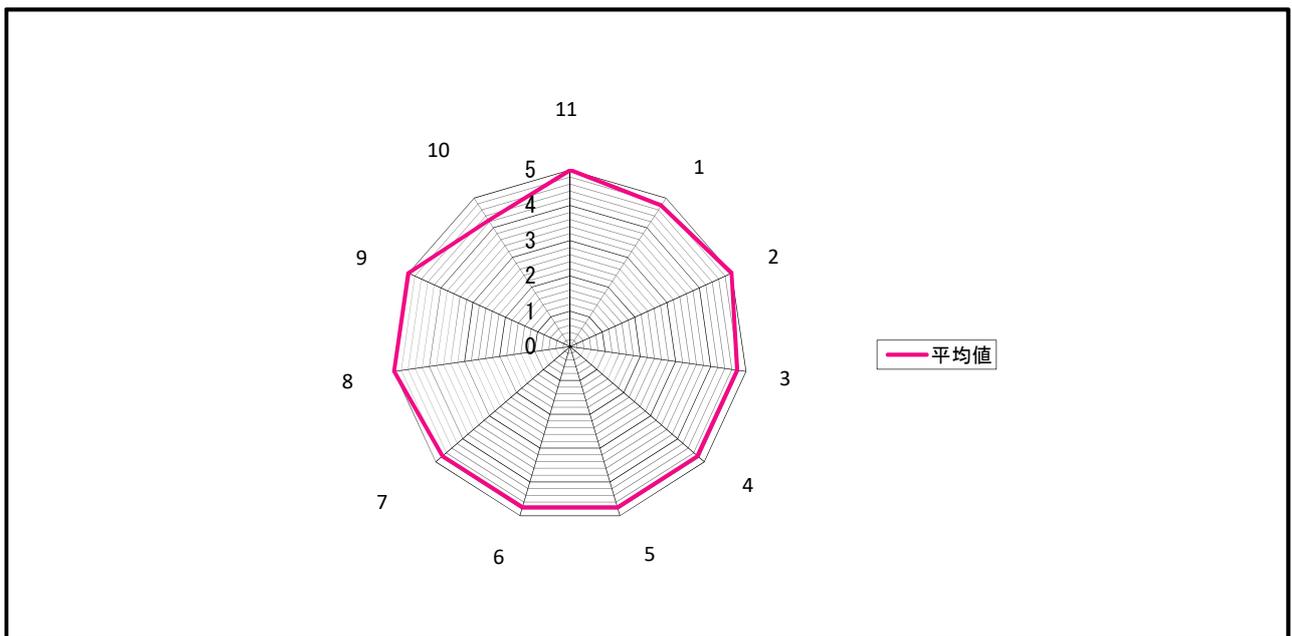
## 教員のコメント

各項目の評定値をみると、ほとんどの項目が4.0以上であり、良好な評価を受けている結果となった。今後の授業では内容に関してはこれまで以上に教師の実践力に関わるものに焦点化させること、成績評価の説明をより具体的にわかりやすくすること、配付資料を分かりやすいものにすることが改善すべき点である。自由記述をみると、「グループワークに積極的に取り組んだ」「プレゼン資料作りをする中で、理解が深められて、よかった」といったグループワーク・発表の形式を高く評価する意見が多かったことから、さらにこれらの形式を精練させる必要があると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 湯地 宏樹 回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



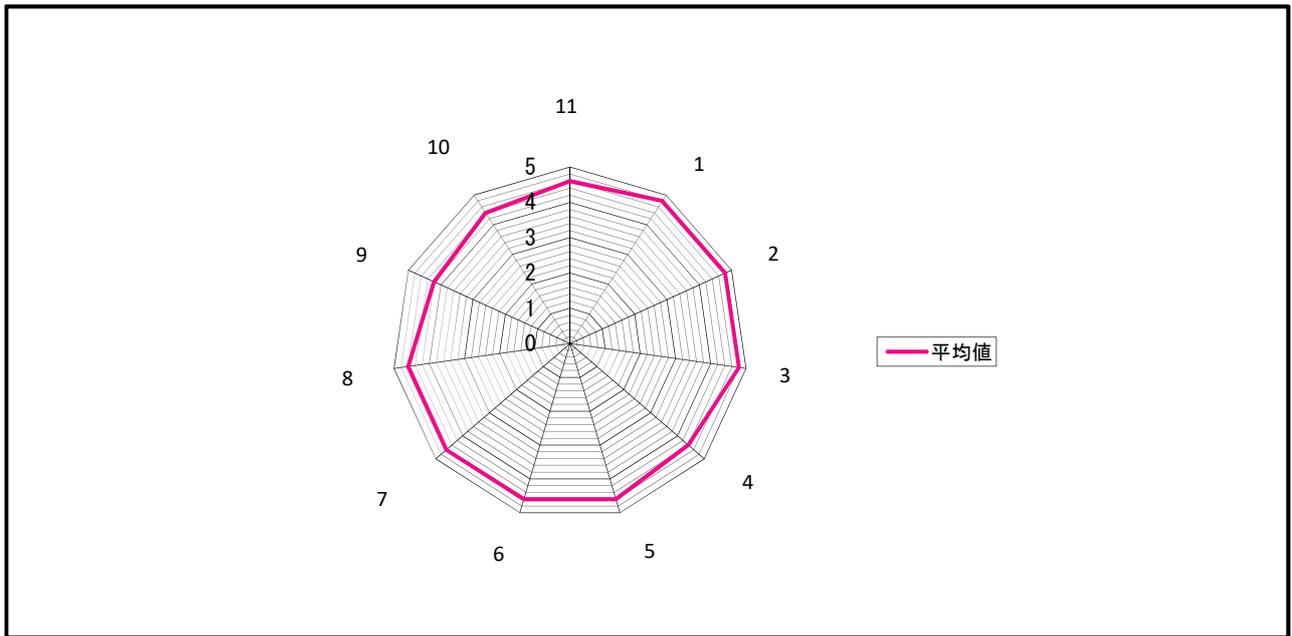
## 教員のコメント

本授業の受講者数は5人中4人の授業評価の結果である。  
 授業評価に関しては、「5」>「4」>「3」を目標としているが、今年度はすべての項目において達成できた。総合評価は全員5のため、5.0であった。しかし、「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の項目に「3」の評価が1名いた。  
 自由記述[2]のよかった点には、「アクティブ・ラーニングが多く用いられていて良かった」「VRを体験できて良かった」「パワーポイントや資料が分かりやすかった(2件)」などの意見がみられた。  
 自由記述[3]の改善点については、とくに記述はなかった。  
 学生の授業への取り組みに関する自由記述[4]授業の参加度については、「授業で手を挙げたりと積極的に取り組んだ」「授業内で出たものについて自分なりに資料を探して読んだりした」と積極的な態度があった反面、「一度も欠席しなかったが、ウトウトしてしまった」という意見もみられた。  
 授業評価や自由記述から学生の授業への参加度が今後の課題である。ディスカッションやアクティブラーニングの時間を多く設けるなど学生の授業への参加度を高め、専門的知識や実践力の育成に繋がるように工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 塩路 晶子                      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1		1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



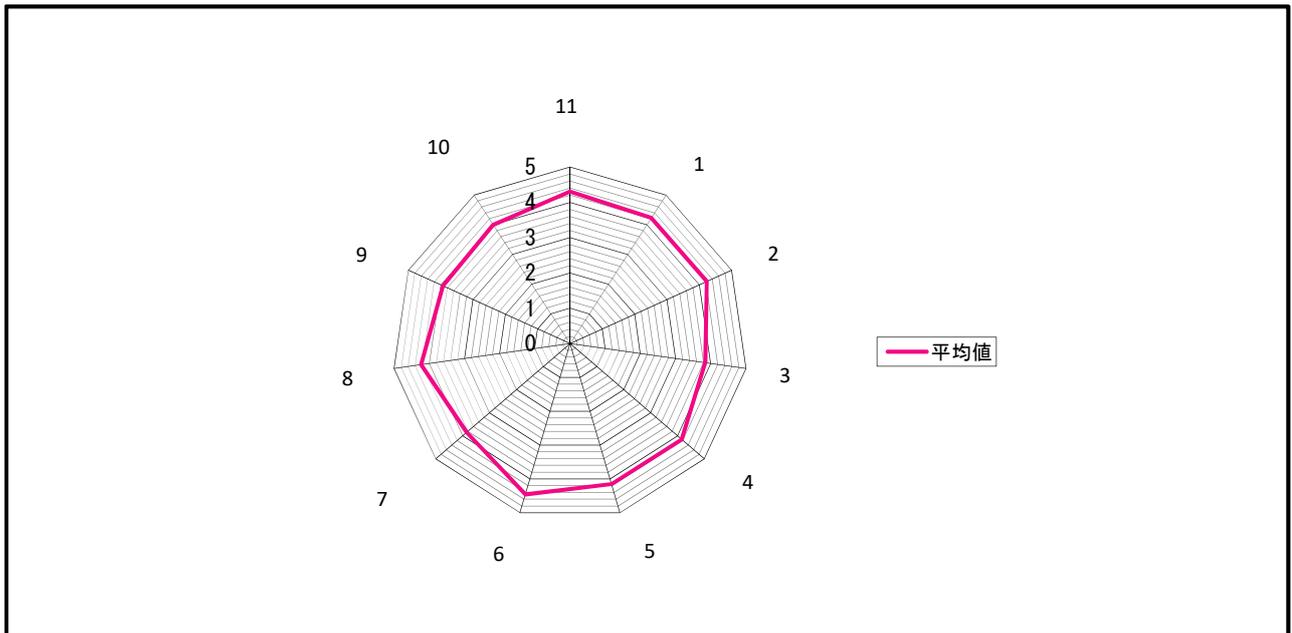
## 教員のコメント

本講義は、乳幼児を取り巻く現状や、世界の幼児教育の中での日本の幼児教育の位置付けについて理解し、どのような保育内容が子どもたちにとって相応しいのか、ということについて理解することを目的としていた。その際には、日本の幼児教育の歴史や小学校との連携も視野に入れて講義を展開した。受講生からの評価を見ると、専門的知識を深めることには概ね寄与できたようである。授業の進め方については、多くの資料を読みこなし、説明するとともに、アクティブ・ラーニングとして、ディスカッションを多く取り入れて、他の学生と一緒に考えを深め合えたと評価された。授業に受講生が主体的に取り組んだかという質問項目についても、昨年度の4.3から4.4に上昇している。

# 結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 金野 誠志,太田 直也      回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5	1	1		4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2	2		1	4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	3	1	1	3.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	3	1	2		4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	5	1		1	4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	2	1	1		4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1	3		2	3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	3		1	1	4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3	2	1	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	3		1	4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5			1	4.3



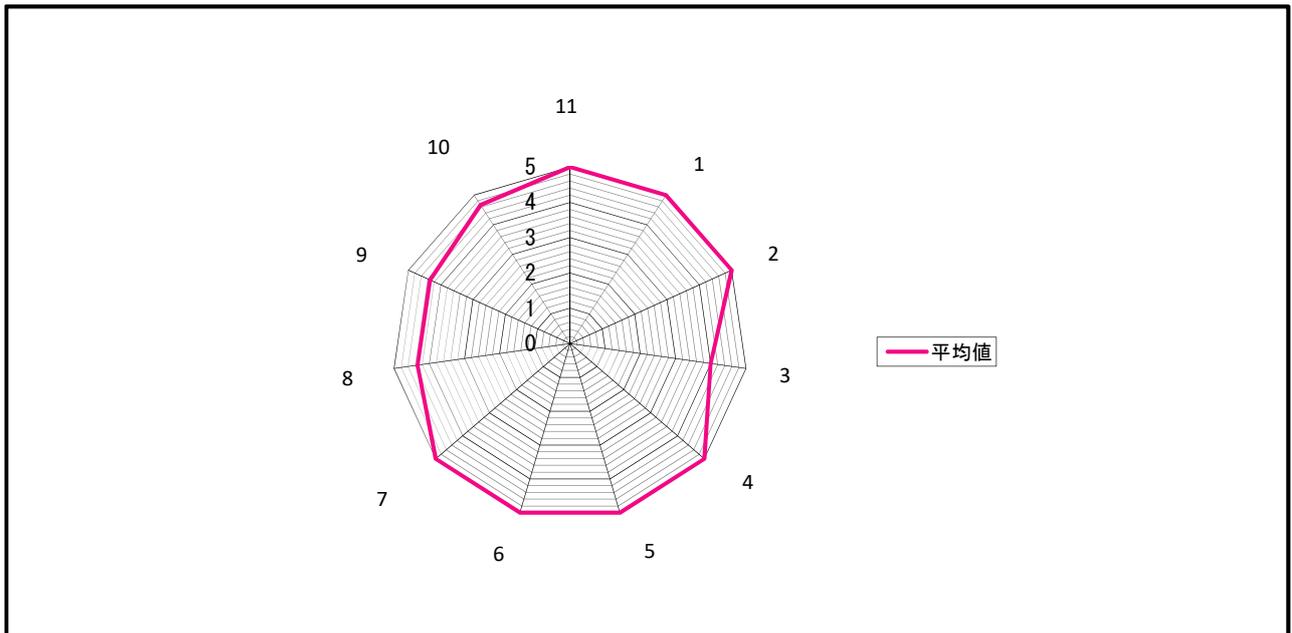
## 教員のコメント

金野、太田それぞれが自らの学問特性と経験に基づいて授業を展開した。総合評価として大半の受講生が5あるいは4としてくれたことで、ある程度の目標は達成できたと自負している。すべてにおいて1と評価した受講生にどのような意図があったのかは不明であるが、授業担当者としては、これが大学院の授業であるということを理解してもらえていなかったのであろうと解釈する。

# 結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ(地域研究A)  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 太田 直也                      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2			1		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



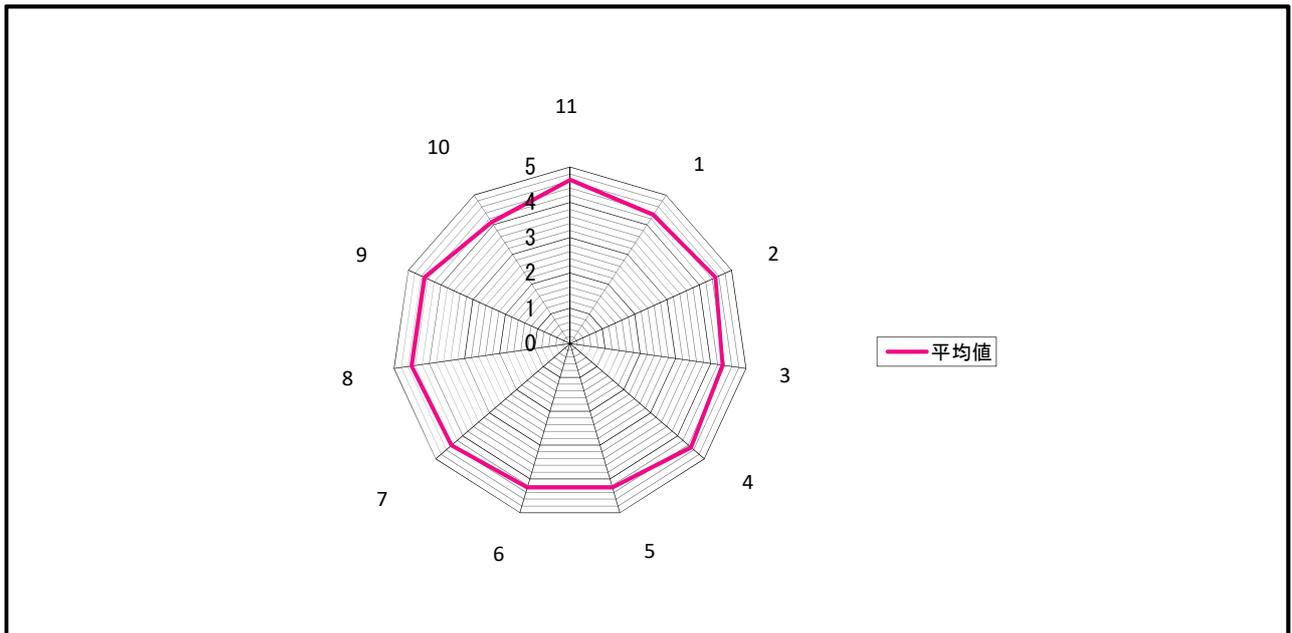
## 教員のコメント

受講者数は少なかったが、おおむね高い評価を得たことに、授業担当者としては感謝したい。演習型の授業では受講者の負担が大きく、教員と受講者との、受講者同士のインターアクションも重要となる。授業に対して与えられた高評価は、そのまま受講者に対する評価でもあると信じるものである。

# 結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 金野 誠志,谷村 千絵      回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	2			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	2			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	8	2	2			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	3			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	3	3			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	3	2			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	7	2			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2	1			4.6



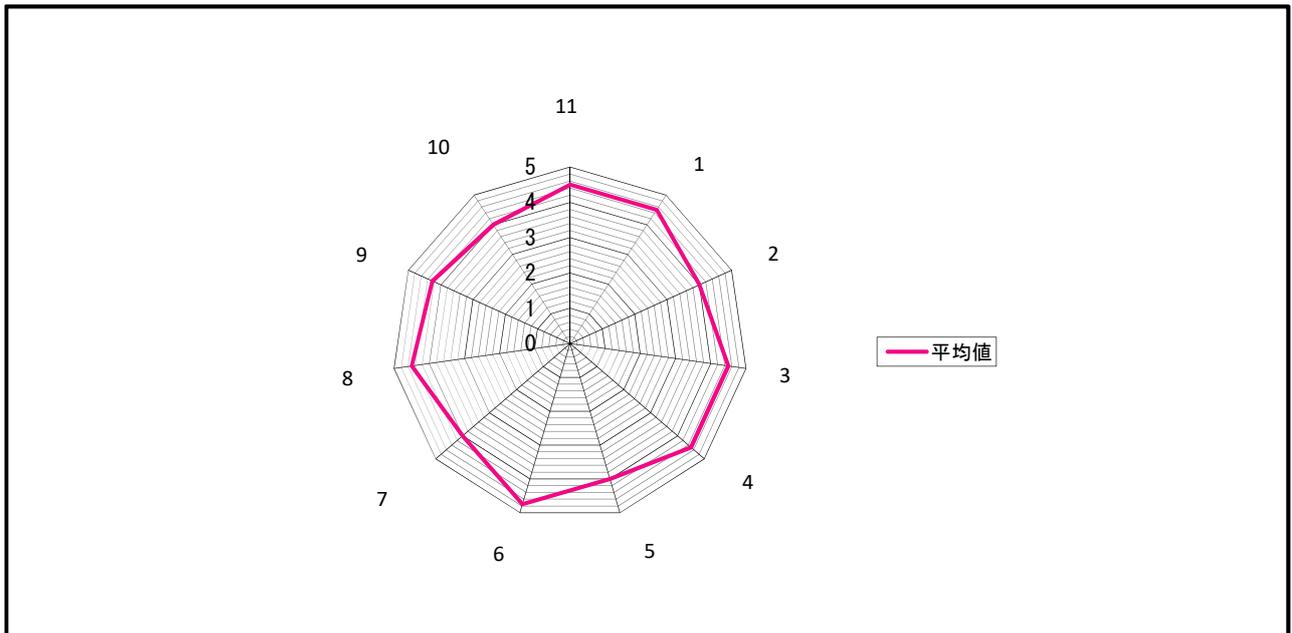
## 教員のコメント

おおむね良い評価を得ている。世界遺産教育の現状から、興味深いテーマ設定を行い、その課題解決を考えることを一貫した流れで行ったこと、実際に学会に投稿されている論文や外国の教科書等の使用などが、内容評価の主な理由である。「話し合いの中でも、意見が採用されたことも多く、発言が多くいえた。」ということに類似したコメントが半数近くあった。これは、ワークショップ型など、現状分析や問題解決に多様な参加型の学習を取り入れた成果であると考えられる。これらは、継続していきたい。資料の中で、一部、字が小さいものがあったという指摘については、次回から、さらに配慮していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅢ(実践研究B)  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 金野 誠志,谷村 千絵 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2		2			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	2	1			4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	3				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1			4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



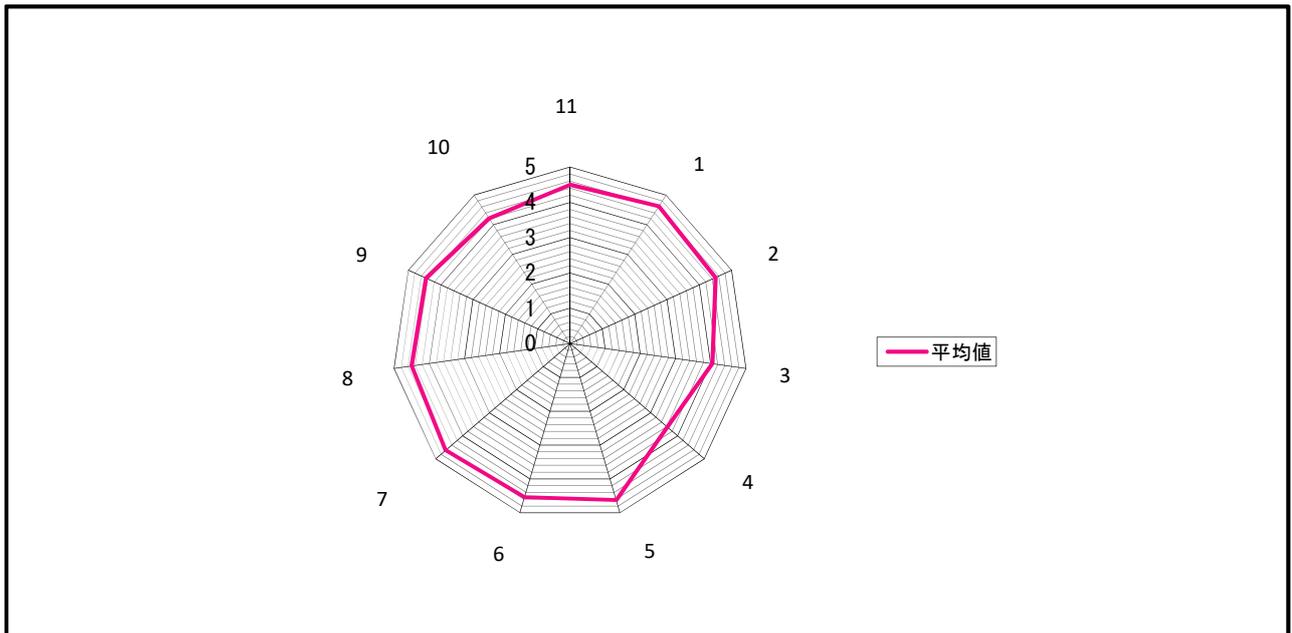
## 教員のコメント

単なる授業のHow toではなく、学校や社会を取り巻く現状やそこから生起する諸問題、その原因や対応について、諸科学の知見に基づき、分析検討を行ったことが評価されたと考える。「すごく勉強になる授業でした。これからは役に立つような題材や知識等が多々あったので、上手に活用したい。」という意見からもそれはうかがえる。少人数(4名)でのワークショップやグループ討論を多用したが、た「まには、2人でとか変化をもたせてもよい。」という意見があった。来年度、片を付けたあり方を取り入れていきたい。おおむね、高評価であったので、このまま、踏襲していくことを基本として進めたい。

# 結果報告書

授業科目名 環境と文化  
 評価実施日 平成30年7月17日  
 担当教員名 田村 和之      回答者数 24 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	7	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	8	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	9	4	2		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	8	8	3		3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	7	1			4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	16	5	3			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	16	7	1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	10	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	9	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	11	4			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	10	1			4.5



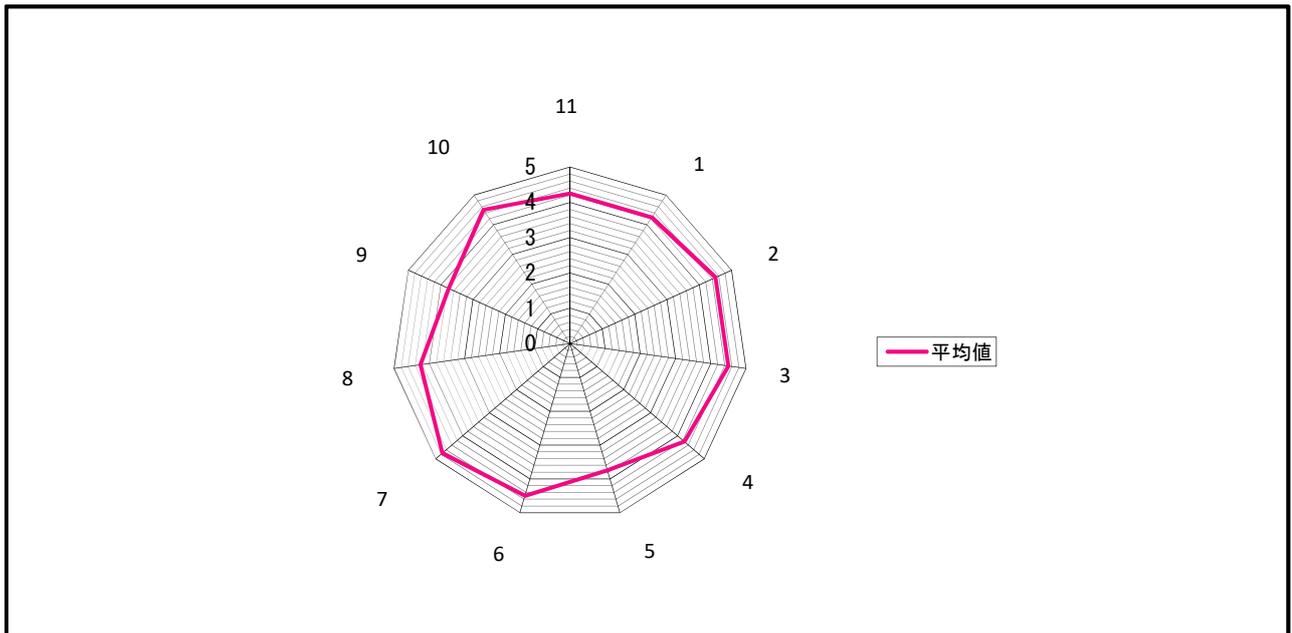
## 教員のコメント

毎年同じであるが、本授業の目的は環境そのものや人間活動による環境の影響の基礎について、講義を通して教えることが最大の目的である。また、アクティブラーニングとして色々と受講生から意見を聞きながら授業を進めるようにしている。ただ、どうしてもこちらかの一方向的な講義が大半を占めてしまう。そのため、評価項目3と4は他の項目と比較して低くなることは承知の上であり、予想の範囲内である。他の項目を見ると半数以上は評価点も4～5が非常に多く、受講生の記述の内容からも概ね学生にとって満足のいく授業ができていると考える。ただ、本年度は何回か授業が時間内におさまらないことがあり、その点は来年度以降も気をつけたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ(実践研究A)  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 田村 和之,近森 憲助      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3					4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2					4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	3					4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。		3	1				3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	2					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		3	1				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3					4.3



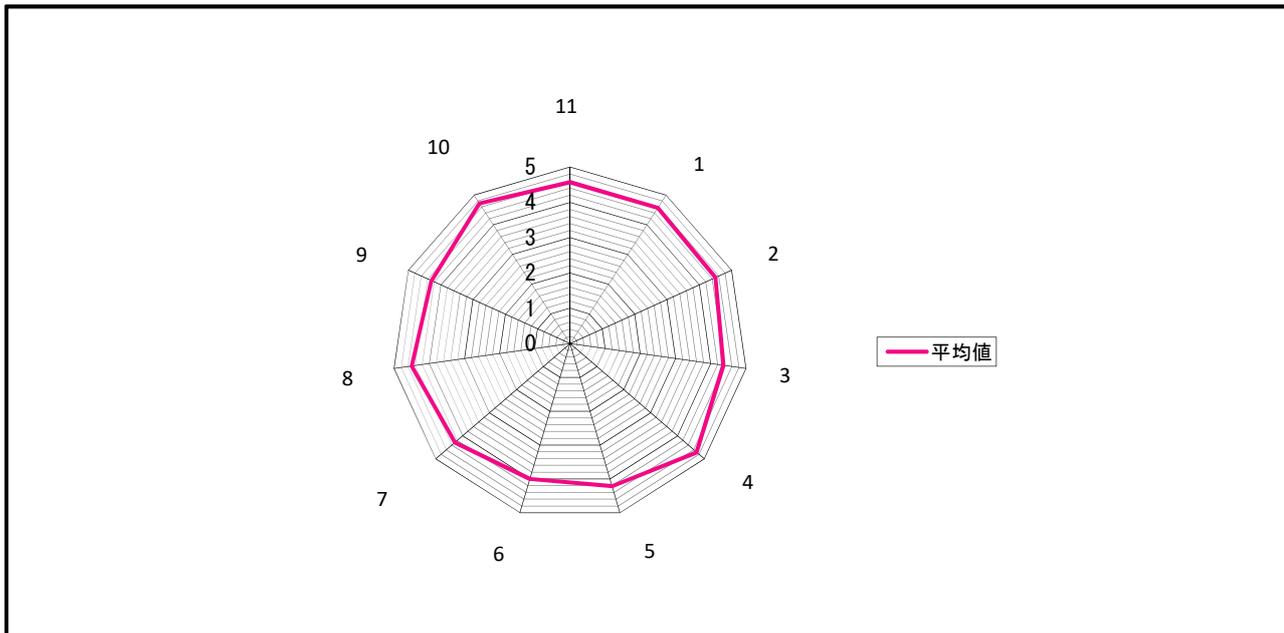
## 教員のコメント

本授業は少人数で行われ、また受講生のバックグラウンドや専門も様々である。  
 ESDがメインテーマであるが、受講生の意見を聞きながら授業を進めたりするため、どうしても当初予定されていた内容から多少ずれてしまふことがあり、100%シラバス通りに進まないのは致し方無いと思われる。  
 しかし、授業内容については概ね評価が4以上となっており、受講生にも受け入れられている様子がうかがえる。  
 来年度は改組に伴い、多少授業の内容が変更されると思われるが、アクティブラーニングを中心に授業を構成していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 谷村 千絵 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	4	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4		1		4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	3			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	1		1		4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4	2	1		4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	4	2	2		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	2	1	2		4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	3	2			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	3	2	1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2	1			4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2	2			4.6



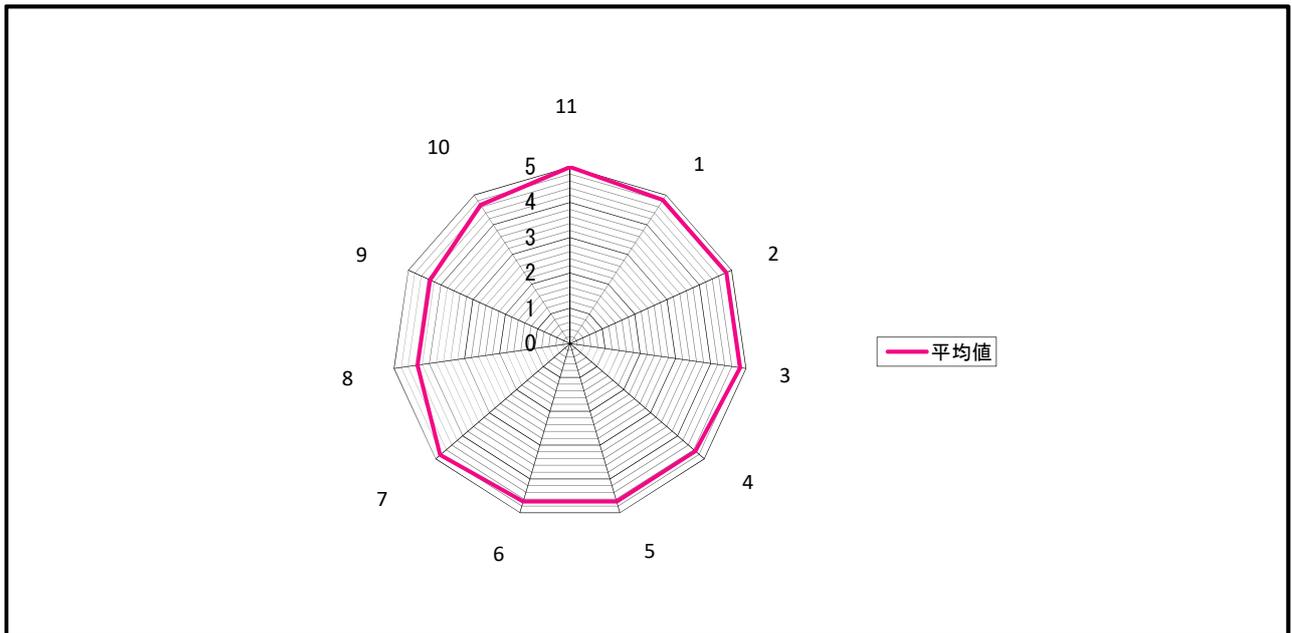
## 教員のコメント

本授業では、子どもと学校にかかわるテーマを広く扱い、方法としては、学生主体のグループワークやディスカッション、哲学対話を多用している。今年、テーマと方法において、これまでの経験をふまえつつ、新しい展開を試みた。テーマは、「現代 子ども 学校」×「自然、いのち、災い」として、授業の前半8コマでは、教師主導型かつオープンエンドでブレインストーミング型の授業を行った。これは非常に面白く、自由で活発な意見がだされる授業となった。つづいて、防災教育の現状に関する講義1コマとその解釈にかかわるグループワーク2コマをはさみ、続く3コマは受講生の主体性にまかせる哲学対話(P4C)の授業とした。授業の最後1コマで、本授業のまとめとして、新しい防災教育の指導案を考えて発表した。この最後の1コマの指導案作成の課題を、防災教育の講義の時点で学生に示してしまったことが今年度の反省点である。この課題は学生の意識を強く左右し、後半の哲学対話ではテーマに対する対話そのものより課題を達成することに意識が流れがちで、結果的に対話になりにくく、何を話し合っているのかわからない苦しい時間帯が見られた。学生の評価に厳しい意見が出されているのは、おそらくそうした時間の苦しさからであると推測される。これにかかわる学生のコメントとして、「授業の着地点(オープンエンドなど)はあらかじめ伝えてほしかった」というものが1名あった。指導案作成という課題が、学生の意識にどれほど強く影響するかを目の当たりにきたので、次年度からは授業の展開に注意して、より研鑽を積みたい。他のコメントには、「グループワークや哲学対話(P4C)がよかった」、「考えを深められた」、「防災教育に関心があり、自分で調べて授業参加できたので良かった」、「対話で話さない人を置いていこうとしない感じがよかった」、「基本的に自分たちが授業を作っていく感じがして、主

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		2			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		2			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



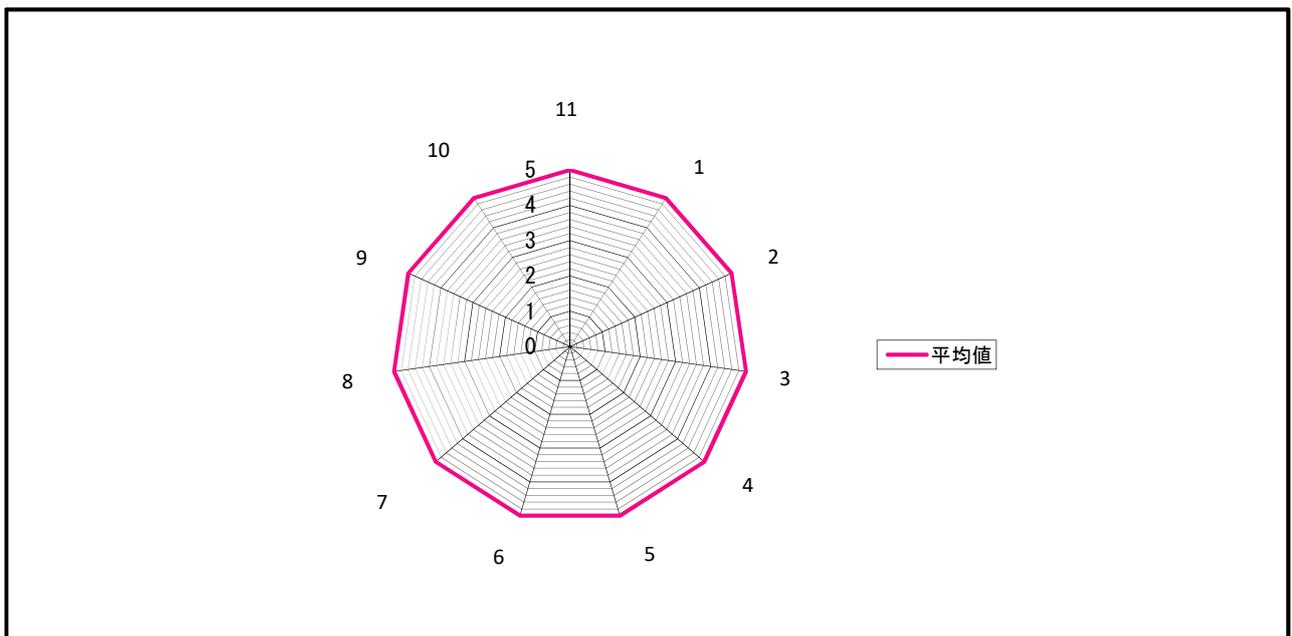
## 教員のコメント

特別支援教育コーディネーター分野において、コーディネーターの役割や学校現場における児童生徒に対する校内支援の体制整備にかかる内容に関する基本を講義と協議を中心に展開した。今年度、1～2名の聴講生も交え、校内委員会を模した事例検討を行うなど、例年同様アクティブラーニングも取り入れて進める事ができた。事例検討の際の事例の提供など受講生からの積極的な協力を得て進める事ができた。また、毎週課題を出し、レポートとしてまとめること、協議用のプレゼンテーションを作成することなど、校内で支援委員会などを円滑に進めるための方略を知るなど、常に実践的な支援活動について理解できるような内容を展開してきた。協議内容は院生自身が構成するなど主体的な参加を促すためにあえて教科書は使用しない方針を続けている。特別支援教育コーディネーターは、書籍に書かれた仕事をこなす事が重要ではなく、目の前にいる支援を要する子どもにあわせた支援を考え、支援のPDCAサイクルを構成しそれを推し進める役割が校-ディネーターである。自らが課題を特定し、自らが計画することができるようになることをねらいとしている。おおむねこの授業に満足している結果から、受講生個々が何らかの考える指針を持たせたとするとこの授業の目標は達成されたと考える。反省点は、引き出せた参加者の意見が少なかったことである。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 井上 とも子 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

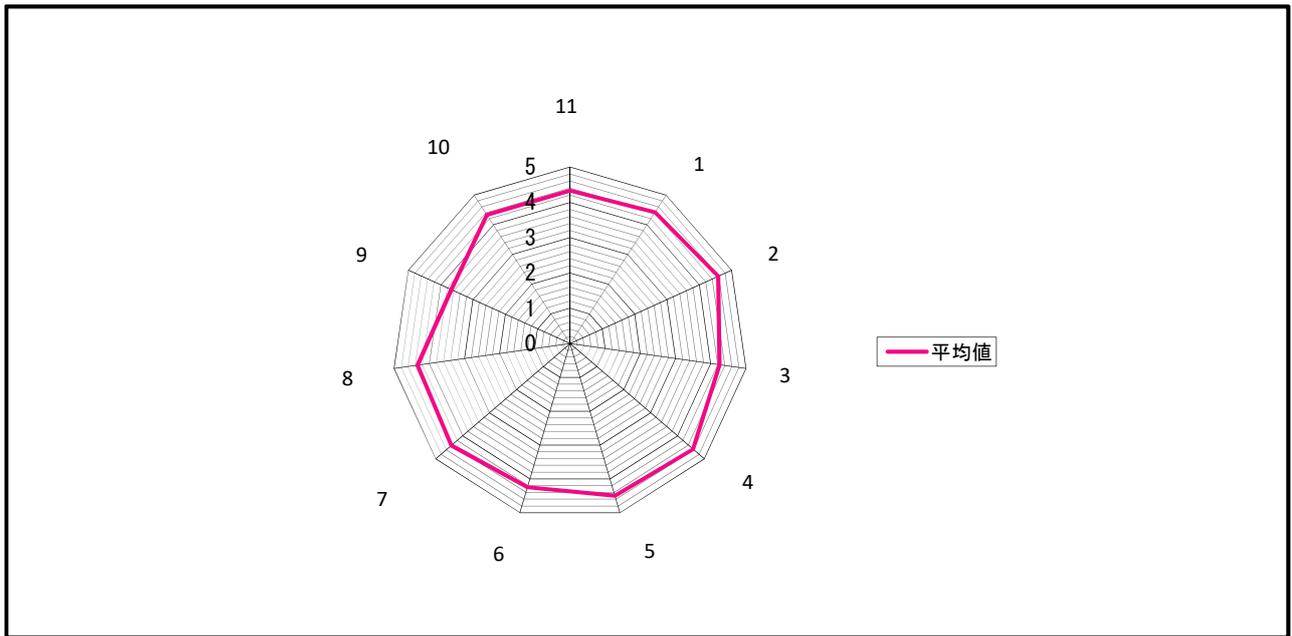
この授業は、教育臨床、教育実習とも言ふべき授業であり、4名の高機能発達障害幼児とその保護者に協力を得て、半期15回、就学前指導を院生が指導者となり、教員は保護者支援を行うものである。この授業は、指導時間は1時間半であるが、教室を開くための準備、例えば子ども個々の実態に即した視覚手がかりを作成することなど、と、その後のカンファレンス、VTR再生による院生自身の指導や言動の見直し等々に、前後1時間半以上の時間を割いている。これによって、小集団指導における幼児主体の授業展開を経験することができ、子どもを主体的に活動させるための環境整備の重要性を活動の中で、身につけていける授業である。今年度のこの授業は2名で4人の子どもの支援を行っていかねばならないことで、一人ひとりへの負担は大きかったものと思われるが、非常に熱心に取り組むことができていたと感じる。2名であったため、リーダーとサブリーダーのどちらかを担うことになり、保護者支援の在り方を見たり、指導を客観的に観察する機会を設けられなかった事は反省である。



# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 大谷 博俊                      回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3	2			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	3	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	2			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	1	2			4.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	2			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	3	3			4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1	3			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2	3			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	5	4	1		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	2			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2	3			4.3



## 教員のコメント

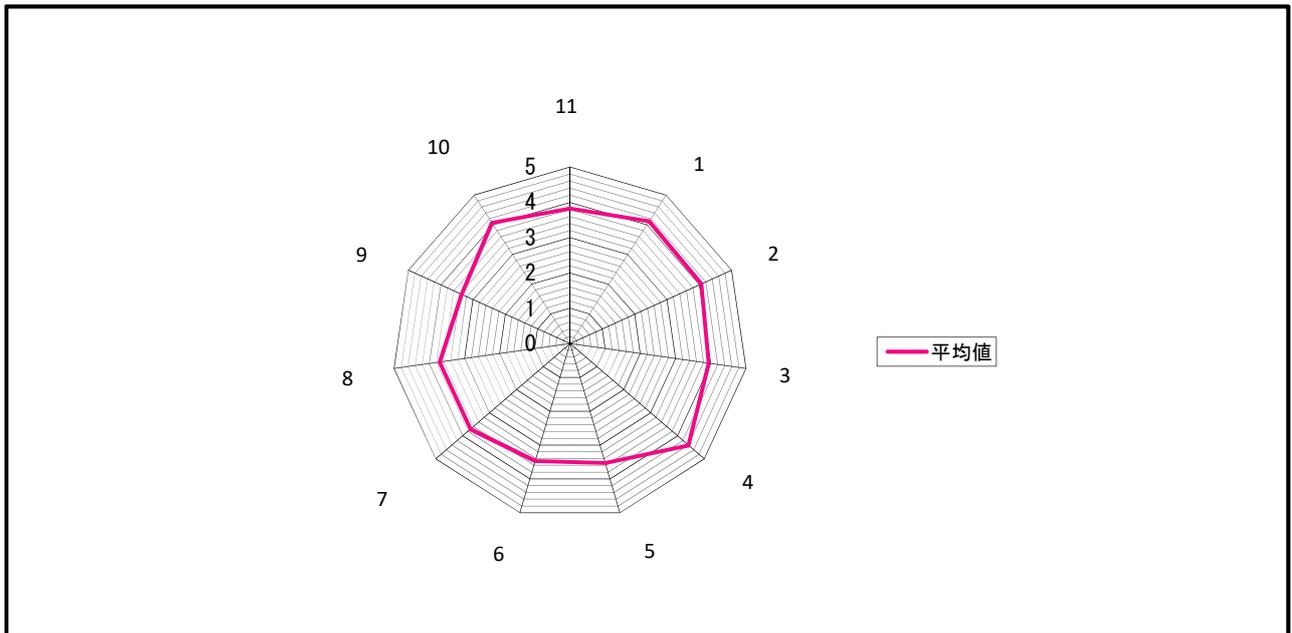
受講者の総合評価を見ると、概ね満足していると考えられる。しかし、本授業におけるアクティブラーニングでは、活動を多く取り入れると、収束の予想が立てづらいこともあり、今後も実施方法を検討していきたい。また、進め方で、板書や視聴覚機器の使用には、やや課題があるようである。情報量が多く、受講者が対応できなかったのかもしれない。要点を絞るなど、提示方法を検討したい。



# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論  
 評価実施日 平成30年9月14日  
 担当教員名 島田 恭仁(嘱託) 回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	9	3			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	6	2	2		4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	8	2	2		3.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	6	2			4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	7	4	2	1	3.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	7	6	1	1	3.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	6	5	2		3.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	6	5	2		3.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	4	6	4		3.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	8	4			4.1
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	6	7			3.8



## 教員のコメント

項目(4)で17名の受講生のうち15名が5または4の評定を行い、4.4の高い評定平均が得られたことから、「シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」と感じた学生が多かったことが分かった。本講「特別支援教育学習心理学研究論」と昨年の「特別支援教育学習支援演習」は隔年開講されているが、「支援演習」は少人数で実際に検査を実施する演習が主体であるのに対して、「研究論」はどうしても講義が主体となりがちである。そこで、演習を手短に取り入れ、グループワーク、ディスカッション、質疑応答の時間を増やすように配慮した。そのため、アクティブ・ラーニングが実施されていると感じた学生が多かったのだと思われる。

また項目(1)で14名が5または4の評定を行い、「授業概要は、この授業を適切に表現していた」と感じた学生が多かったことから、シラバスに記載したアクティブ・ラーニングの手法が適切に実施されていたことを示している。このような授業改善の工夫が功を奏して、項目(2)と(10)でも14名が5または4の評定を行い、「専門的知識を深めるのに役立つ内容」で「主体的・積極的に取り組んだ」と感じた学生が多かったことが分かった。

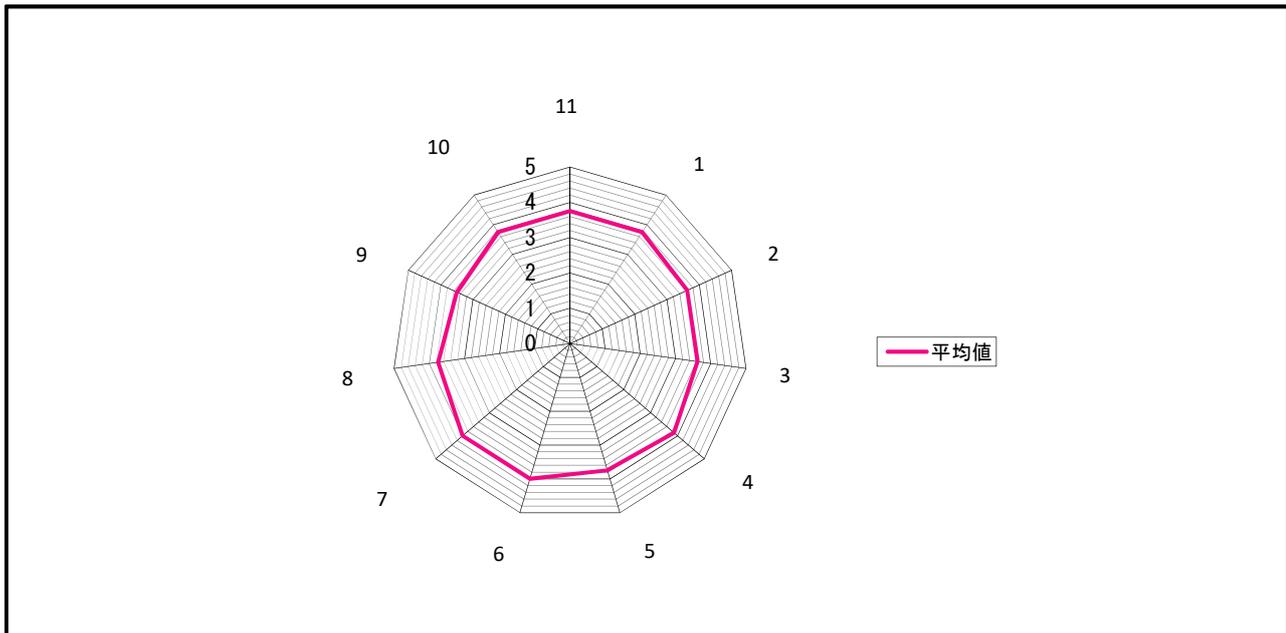
一方、項目(9)では、2の評定をした学生が4名いて、評定平均も3.4と低くなったため、「視聴覚機器の使用」に工夫を求める学生がいることが分かった。記述回答を見ると、PPの画面を拡大して欲しいという意見が目立った。メンバー間でのディスカッションをしやすくするために、グループごとに座る位置を固定したことで、教室の後方や隅の座席に当たった学生には、PPが見えにくい、書き写す時間がない・・・等々の不満が生じたのだと思われる。今後、是非改善してゆきたい点である。



# 結果報告書

授業科目名 発達障害児生理・発達学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 伊藤 弘道      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		6	2			3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		5	3			3.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		5	3			3.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	1	5	2			3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	4	3			3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	4	2			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	3			4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	4	3			3.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		4	4			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		6	2			3.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	4	3			3.8



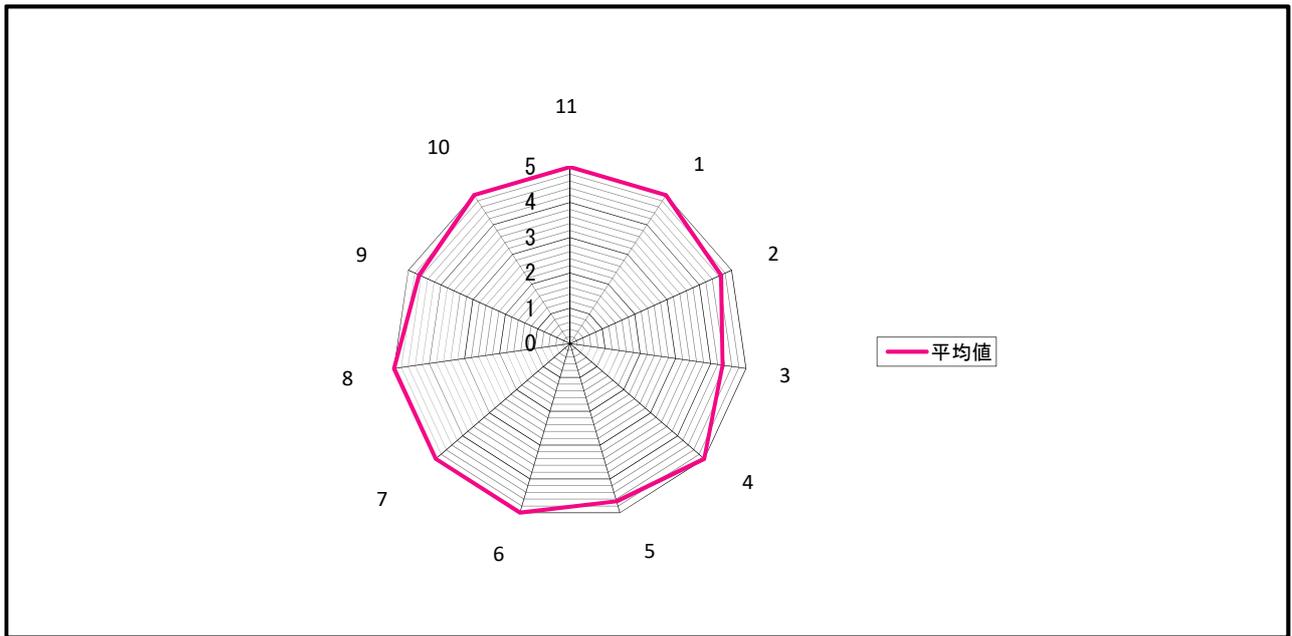
## 教員のコメント

今回の結果をふまえ、今後の授業改善にむけて引き続き取り組んでいきたい。

# 結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 原 卓志 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



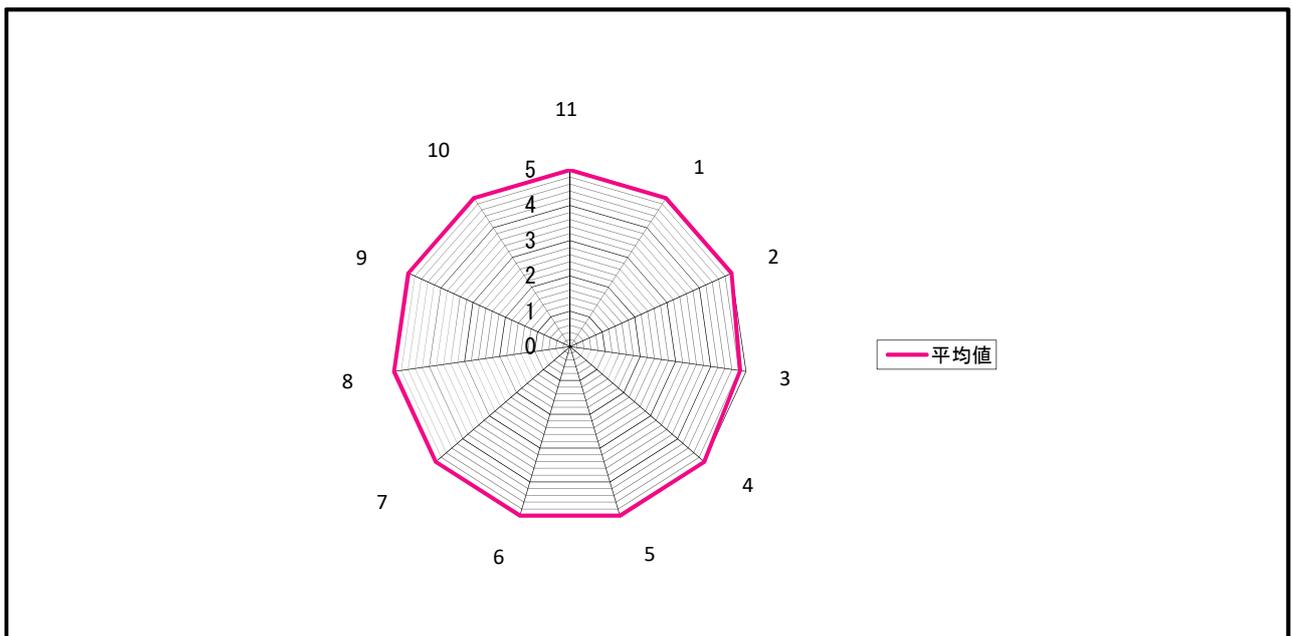
## 教員のコメント

本授業は、「言語教育基礎論Ⅱ」との合同授業であり、英語学を専門とする教員とTT方式で進めた。本年度の「言語教育基礎論Ⅰ」の受講生は、3人という少人数であったが、「言語教育基礎論Ⅱ」の受講生とともに、日本語・英語の問題点について様々なディスカッションすることができた。  
 受講生からは、良かった点として「色々な人の発表を聞くことができたこと」があげられた。レポート課題を発表形式にしたことによって、受講生全員で刺激し合えたと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 日本語 I  
 評価実施日 平成30年8月2日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



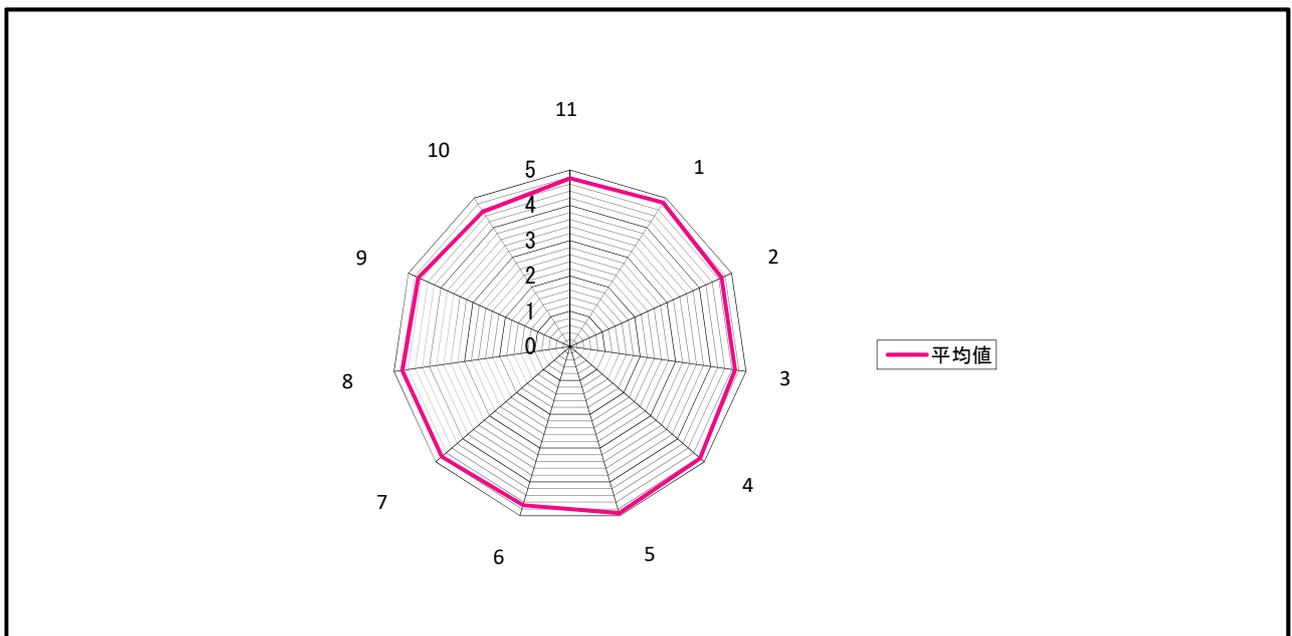
## 教員のコメント

本授業では、本学で学ぶ留学生たちに、「グループで互いに協力し合える能力」、「データの収集やまとめを適切に行える能力」、「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」、「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として、演習発表形式のスタイルを採った。参加者は14名(大学院留学生の履修3名、研究生の留学生の聴講5名、学部留学生(特別聴講学生)の聴講5名、日本人学生の聴講1名)であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「発表やアンケート調査の知識を習って役に立つと思います。」、「アンケートの作り方、プレゼンテーションのやり方などについて、いろいろ勉強しました。本当に良かったと思います。」など、授業内容を高く評価する声が多く見られた。一方で、「内容をもうちょっと難しくしても良いのではないか。」という趣旨の声も見られた。本授業は参加者の日本語能力に著しい隔たりが見られた(N1レベル~N4レベル)ため、全員のニーズに応えることは難しかったのであるが、できる限り幅広い参加者に満足を与えられるよう、今後も最善を尽くしたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 廣田 知子                      回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4					4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	2					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1					4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	3					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	4					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	6					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	3					4.8



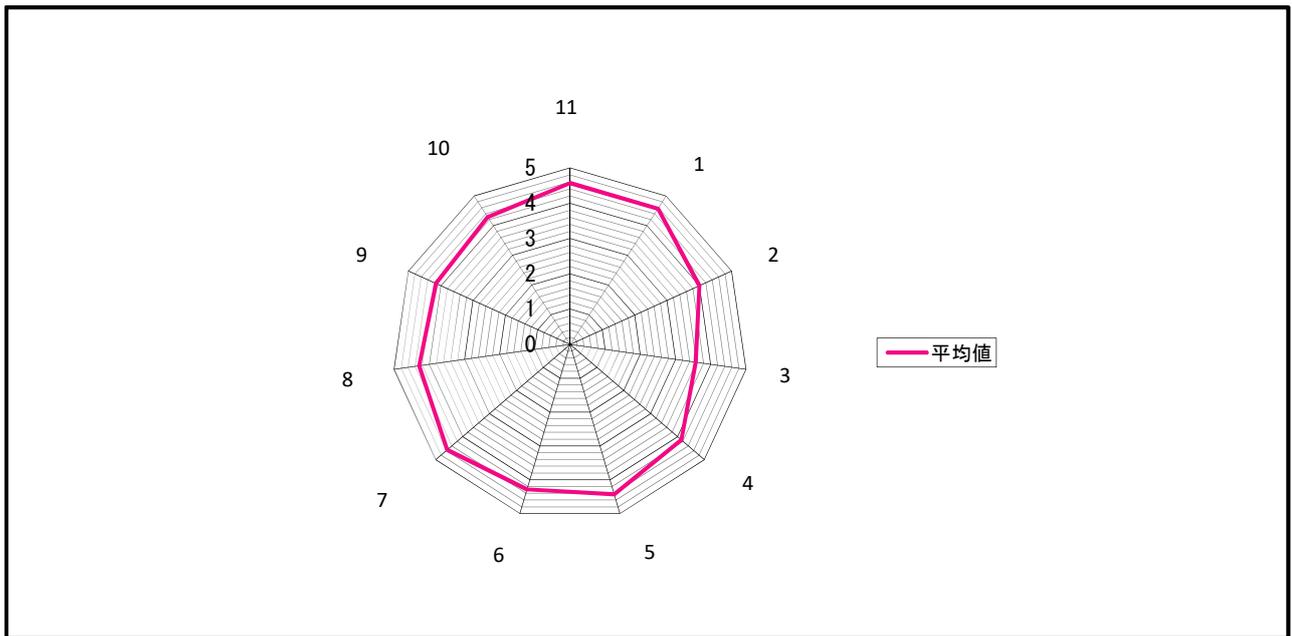
## 教員のコメント

一人一人のコメントを読むと、中に、改善すべき点としてもっと日本文化を勉強したいというのがあった。受講生の日本語のレベルやニーズにあった授業になるよう、来年度はもっと深く日本文化に迫る内容を準備したいと思う。留学生のメンバー構成も年によって様変わりし、聴講生の方が人数的には多くて、正規の登録学生を圧倒してしまうこともある。レベルにしろ内容にしろ、どこに焦点を当てて、誰を満足させるべきなのか悩ましいところである。また正規の授業以外に日本語補講を受講している学生もいるが、今後、その日本語補講と単位の取れる「日本語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の内容とのバランスを考えるとどこにきていると思う。正規授業の役割としては、やはり院生の授業として修士論文を日本語で書けるところまで日本語力をブラッシュアップできるような高度な内容を目指すべきものなのかもしれない。日本語教育分野のもう一人の教員ともよく相談の上、4技能が伸ばせるようなシラバス、プログラミングを模索していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本古典語研究  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 原 卓志 回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	4		1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1	2		3.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3	3		1		4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4				4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	5				4.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	5				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3				4.6



## 教員のコメント

国伝山地蔵寺所蔵の『異船一條井大小名等諸事傳聞噂而已之記』を取り上げて解説を進めた。対象文献が江戸時代末の写本であることから、解説作業は、初心者にとってはかなり困難なものであったであろうが、四苦八苦しながらも和気藹々とした雰囲気の中で解説作業を進めることができた。

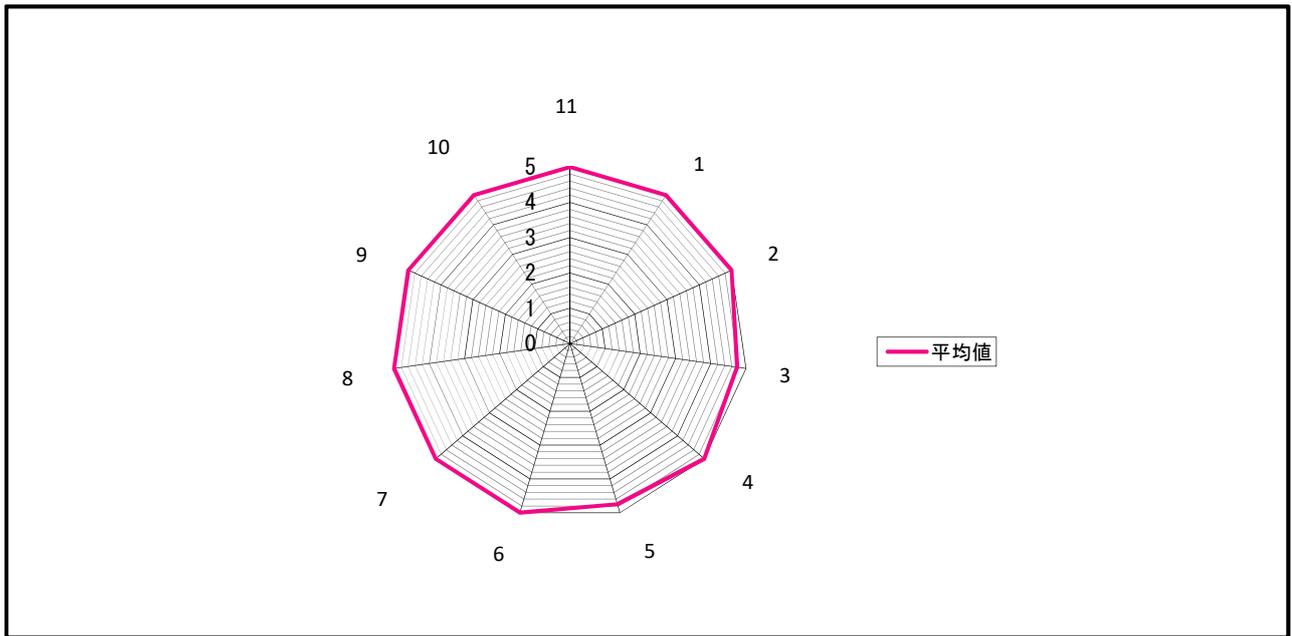
受講生からは次のようなコメントが寄せられた。

- ・あまり触れる機会のない古文を学習することができ、文字の形や文章表現など、現代のものと比較してみると変化していることが読み取れた。
- ・日常生活では絶対に触れない文字を読む授業で、美術館に行って少し読めるようになったりして、生活が豊かになった。
- ・最初は全くできなかったが、少しずつ分かる文字も増えてきた。
- ・古典語のみでなく、現代語にも触れており、役に立つ内容だった。
- ・古典の原文に触れる機会が今まであまりなかったため、学ぶ良い機会となった。原文のみならず、多様な表現へと広げてくださったので、改めて日本語について考える時間となった。

# 結果報告書

授業科目名 現代日本語演習  
 評価実施日 平成30年9月14日  
 担当教員名 茂木 俊伸                      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



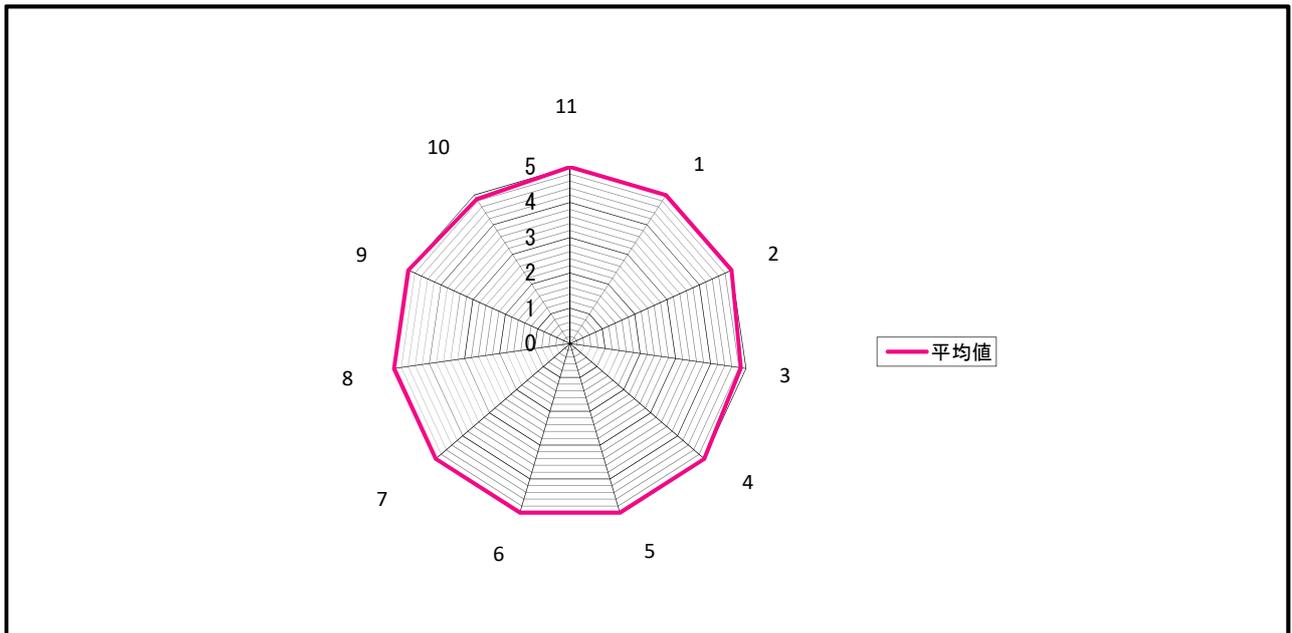
## 教員のコメント

本演習では、現代日本語の語彙・意味を題材として、教材分析やことばの研究で必要となる視点や技術を使った言語現象の分析を行った。受講者数は4名であった。  
 選択式の質問項目では、授業の総合評価(項目[11])の平均値が5.0、全項目の平均値は4.95であり、総じて満足度は高かったと判断できる。  
 記述式の質問項目では、授業の内容・方法に関わる改善点(項目[3])の指摘はなかった。集中講義期間中に毎日グループワークに加えて課題を出したが、「全力で取り組みました」(項目[4])という回答のように、主体的な取り組みが目立った。  
 また、「学習者自らの気づきを大切にされていた」「メタ言語能力について理解することができた」(項目[2])というコメントが得られ、教育実践力の育成という点でも一定の寄与があったと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 黒田 俊太郎      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



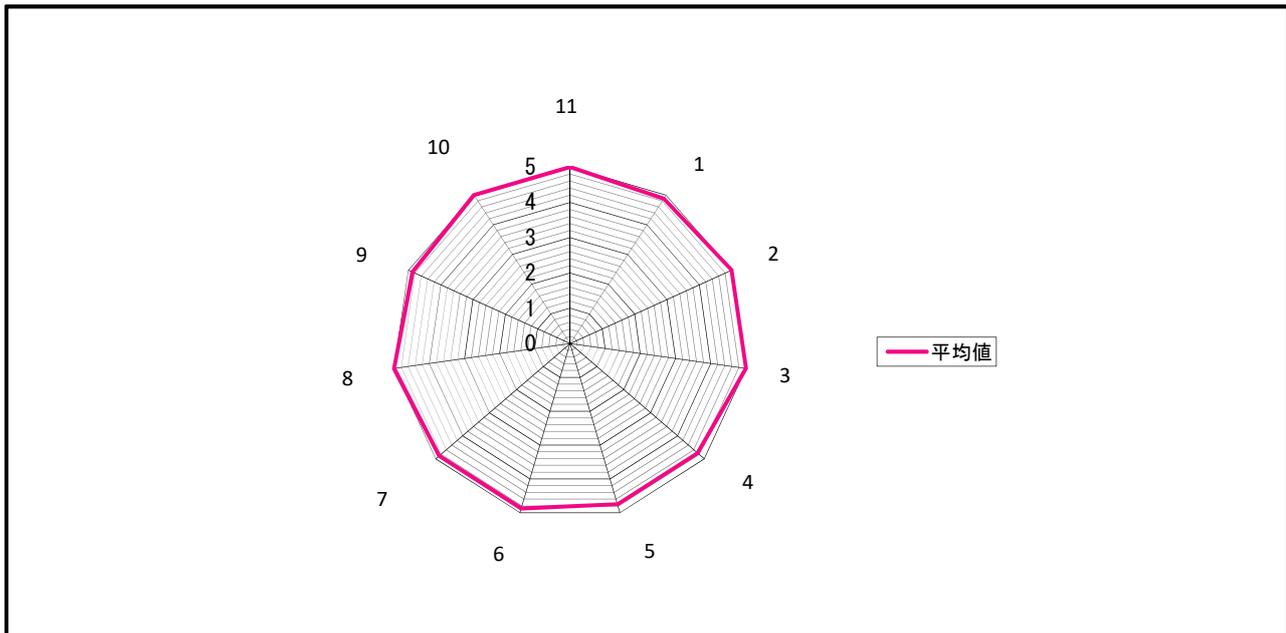
## 教員のコメント

全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成30年8月2日  
 担当教員名 小島 明子      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



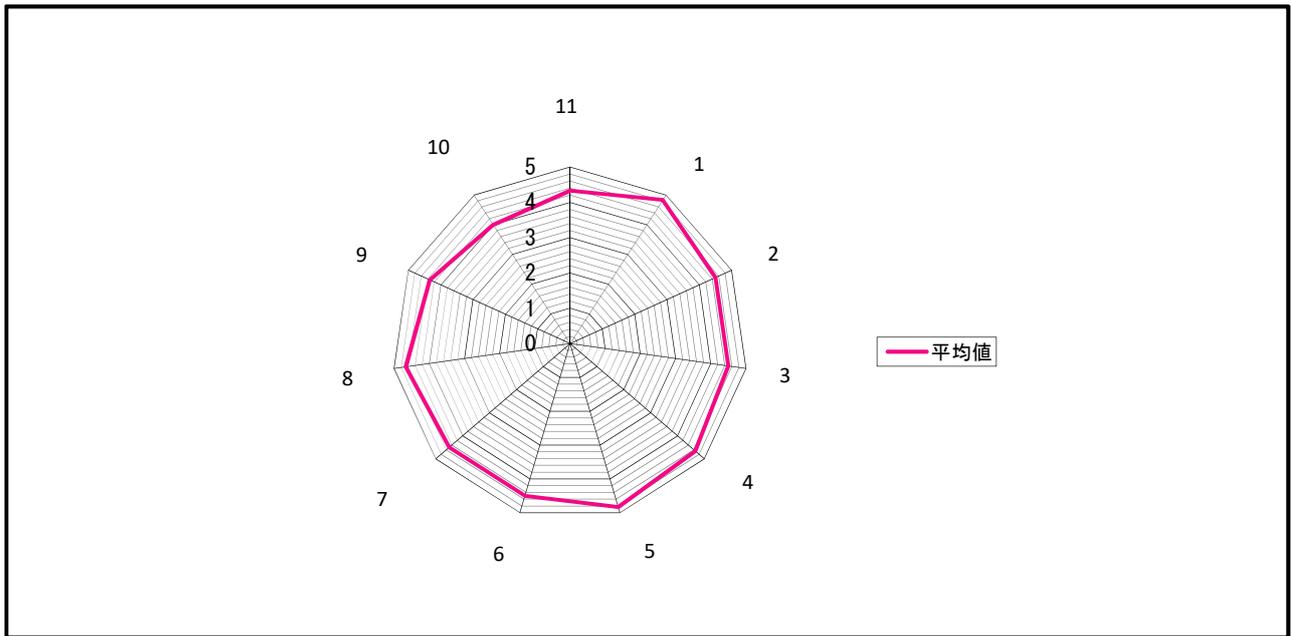
## 教員のコメント

概ね、受講学生の満足度は高かったように思うが、「古典文学」という教科の性質上、読解力のある院生とない院生で、理解度や評価にばらつきが出てくることになったのではないかと考えている。あまり力がない院生の底上げと、比較的能力がある院生のさらなる向上の両方が今後の課題である。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 廣田 知子                      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	3					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3					4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2					4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	3					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3					4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2					4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1	1			4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	1				4.3



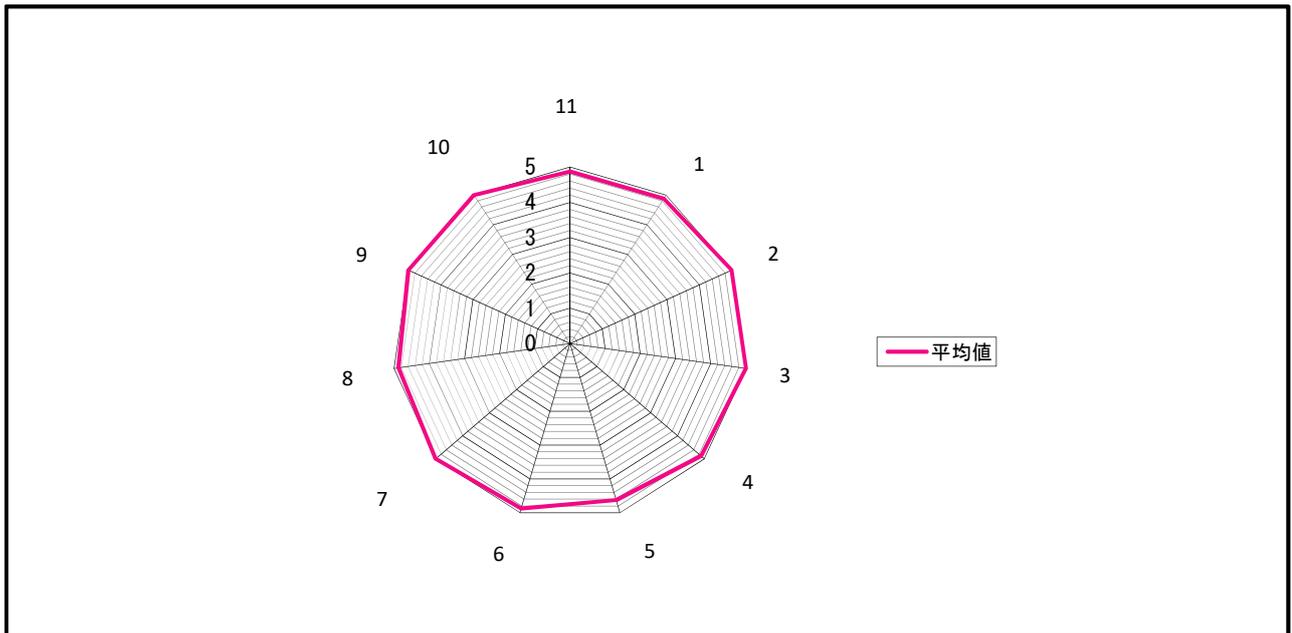
## 教員のコメント

一人一人のコメントを読むと、自分では意識してなかった面も見えてきた。改善すべき点としては、時間オーバーや時間の配分、発表スケジュールの準備時間の短さが挙げられた。なるべく時間内に終わるようにしていたつもりだが、時間内に消化しきれない量のインプットであった時間もあったことも否めない。来年度は特に時間配分をより計画的に行おうと思う。使用教科書をよくないというふうには指摘してあるコメントもあったが、日本語教育の初心者にとってはなじみやすい教科書であったと自負している。ただ、来年度はもうすでに日本語教育能力検定試験を合格している人たちが少なくとも3名は含まれる予定なので、より専門的なところを狙った教科書に変更することも考えられる。日本語教育学といっても幅広くどのエリアを中心に時代に沿ったものを提供できるかが問題となると思う。しっかり準備して臨みたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会言語学研究  
 評価実施日 平成30年8月11日  
 担当教員名 永田 良太      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	7	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



## 教員のコメント

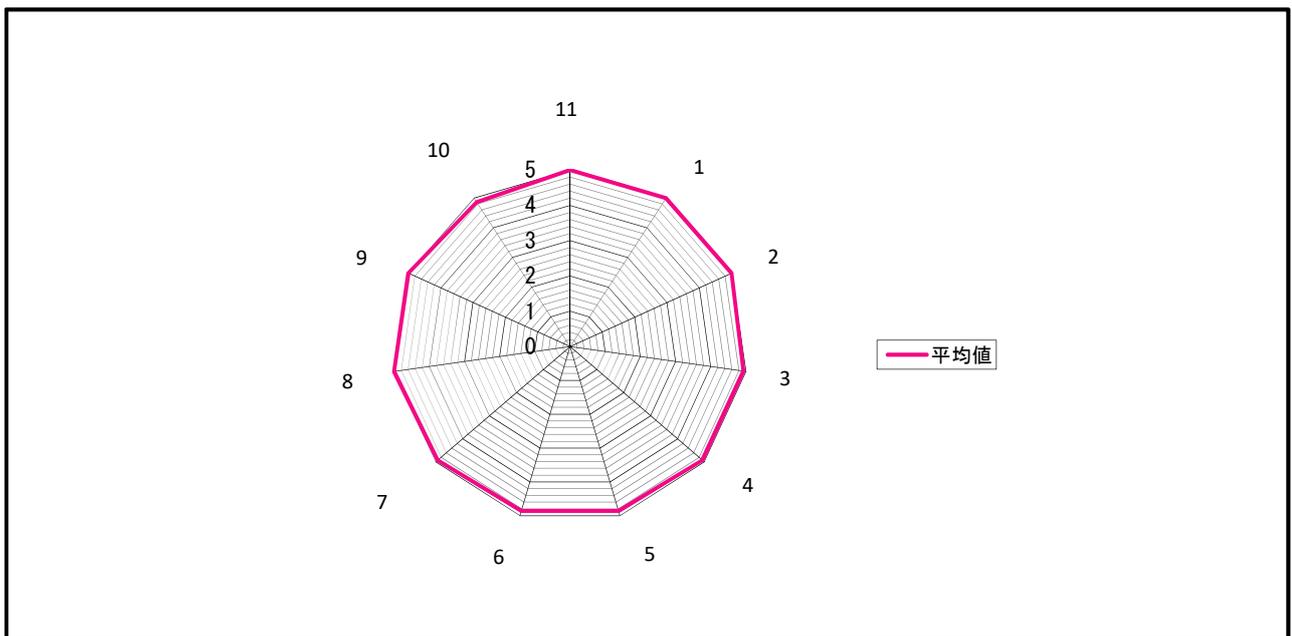
本授業は、発話の解釈およびボライテネス理論の観点から、普段無意識に使用している日本語について意識化するとともに、日本語教師として必要な語用論的知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、日本語教育を専門とする日本語教育分野の学生の積極的な授業参加に加えて、留学生や他コースの受講者からも積極的な発言を得たことは有意義であった。参加留学生の母語である中国語と比較することで、日本語の語用論的特徴が一層明らかになるとともに、日本語学習者としての視点からの発言により、習得上の問題点を確認することができた。また、他コースの受講生からは、それぞれの専門的観点からの意見が出され、議論を深めることができた。

今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後は、成績評価の観点をさらに明確にするとともに、授業の進度やより効果的な配布資料にも留意しつつ、さらなる授業改善に取り組みたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語文法研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 14 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	1					4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	13	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	2					4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	12	2					4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	13	1					4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	14						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	2					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14						5.0



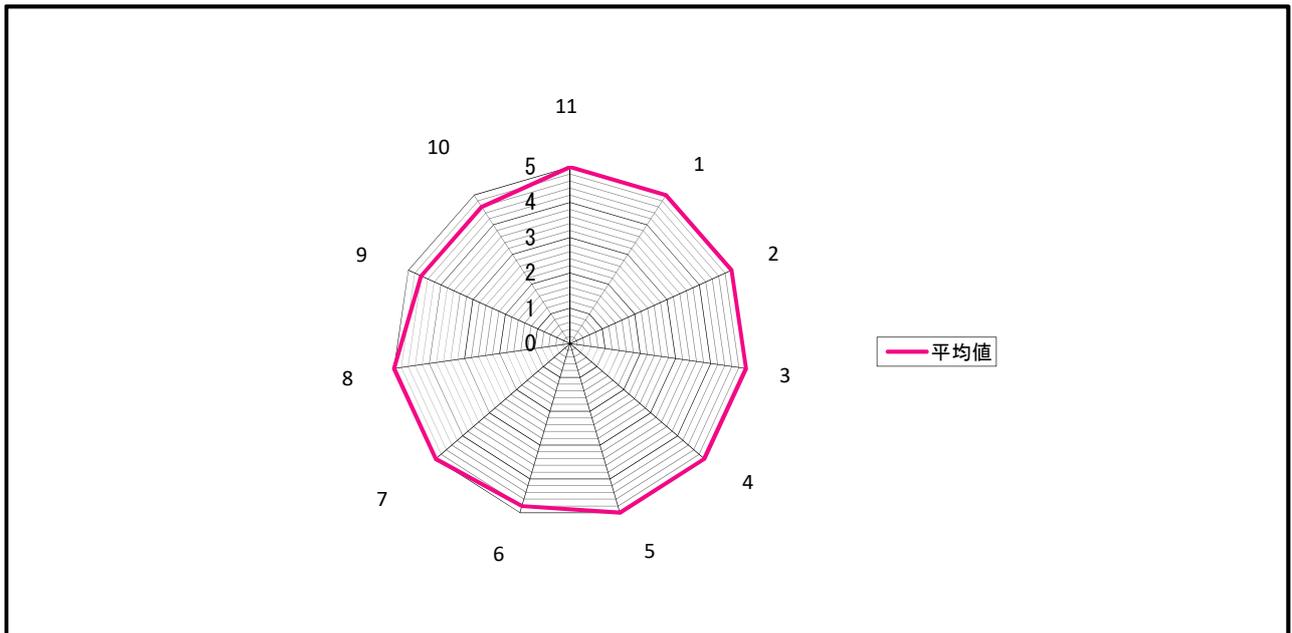
## 教員のコメント

本授業では、日本語学習者が誤りやすい自他対応や授受表現など様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「動詞について皆で話し合いながらいろいろなことを知ることができたので良かった。」「毎回授業後のコメント記入がありましたが、そこに書かれた内容を次回の授業で必ずフィードバックして下さったことが理解につながりました。」など、授業の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「留学生の聴講者がいるが、この授業は日本語教育学に興味を持っている学生のために開講されているものなので、もうちょっと深い内容を加えても良いのではないか。」という趣旨の、授業の内容に関して改善(再考)を求める声も出ていたので、今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 5 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5						5.0



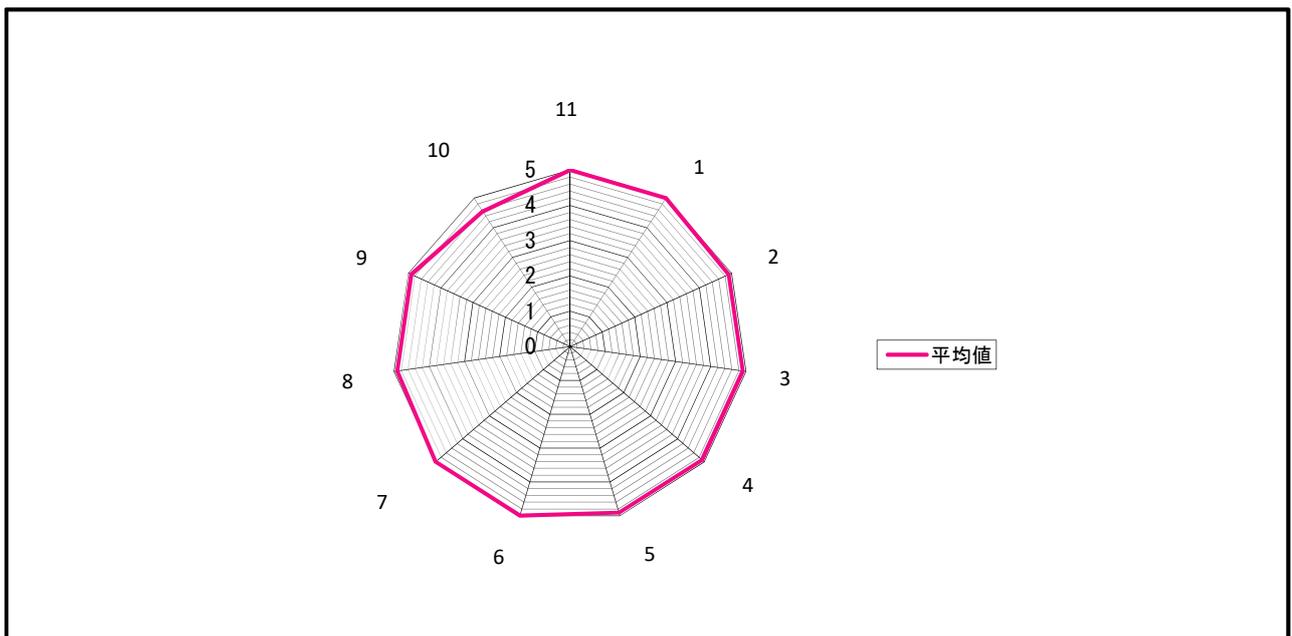
## 教員のコメント

本授業では、日本語学習者の習得のメカニズムを理解し、実際の教室活動に役立てられるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「学生がそれぞれのテーマを担当して発表するという形式だったので、参加型の授業であった」、「一方的に授業を受けるのではなく、発表という形で積極的に学ぶことができました」など、演習形式の授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「発表する人はテーマについてよく学べるが、聞いている側の取り組み」というのが改善すべきと思われる点として挙げられていたり、「学生たちの知識と能力には限界があり、適切な例が挙げられなかったり適切な説明ができなかったりすることが多かったので、最初から教員が説明する方が良いのではないか」という趣旨の意見が挙げられたりしていた。発表者には事前指導を徹底し、また、授業の場においては受講生全体に積極的な参加を促しているつもりであったが、十分でなかったかもしれない。今後の課題としたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究  
 評価実施日 平成30年8月6日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1					4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	10	1					4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1					4.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	11						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	3	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11						5.0



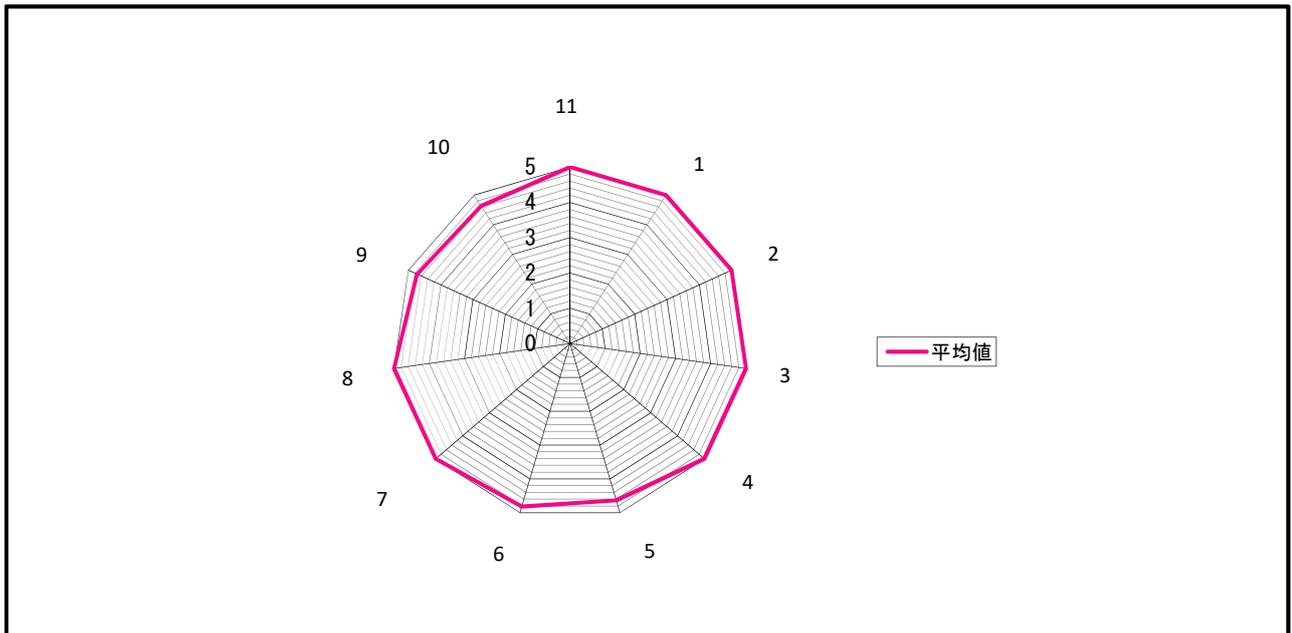
## 教員のコメント

本授業では、モーラと音節、アクセント、イントネーションなど様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「実際に発音して確認するなどして授業が進んでいたのが、非常に理解しやすく、面白かった。」「一つの単元ごとにグループでの話し合いがまず行われ、その後、その単元について説明してもらえたので、とても分かりやすく、内容を理解することができた。」など、受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、「留学生と日本人を混ぜて話し合う機会をもっと設けると良いと思う。」という、授業の進め方について改善(再考)を求める声も出ていたので、今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 国語科授業研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 幾田 伸司                      回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	1				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	2					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	11						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4					4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11						5.0



## 教員のコメント

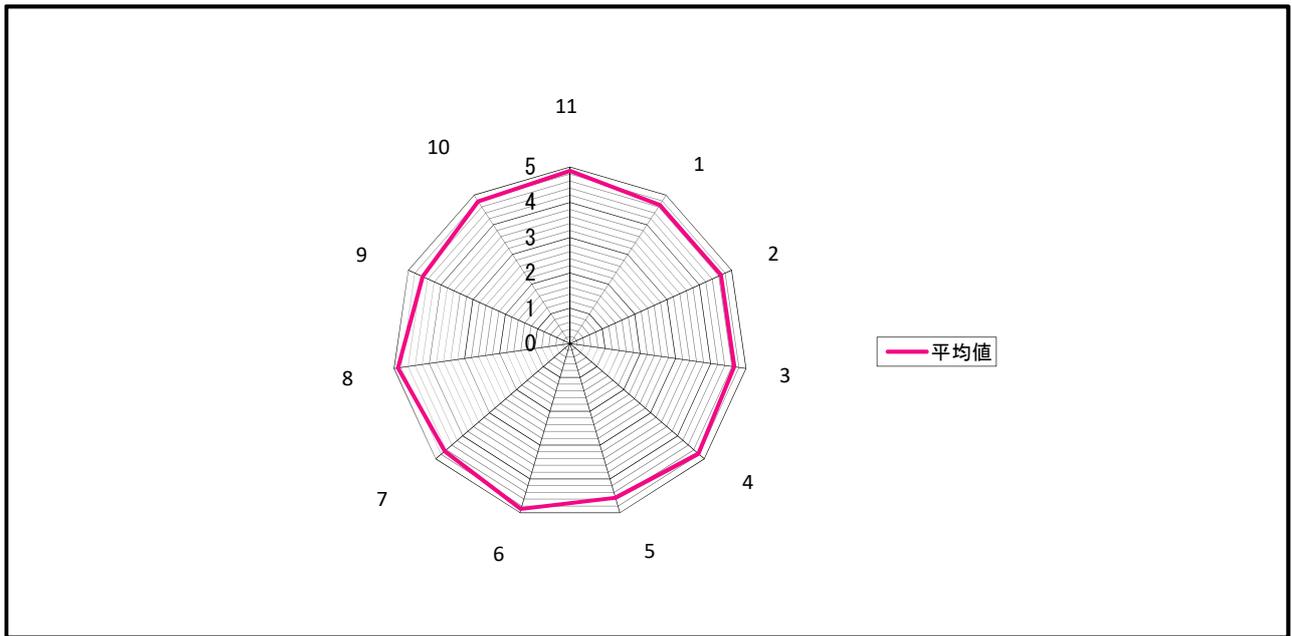
(4)の項目が示すように少人数での演習形式で行ったこともあり、総じて高い評価をもらえました。授業の内容についての項目で高い評価をいただきましたので、授業者のねらいから見てとてもよかったと思います。グループワークでは、現職院生がリードして皆が同じように発言できるように進めてくださいました。院生同士で話し合えたので意見を言いやすかったことも、高い満足度を得られた一因だと思います。

コメントの中で、教材分析を進めていくうちに新たな課題が出てきて、授業内で解決しきれないこともあったという記述もありました。ある意味、そうした課題を持てたことはよかったように思います。本授業の形式の場合、扱う教材が受講者の方の関心に合っていることも大切になります。本年度扱った教材は問題はなかったようですが、来年度以降も受講者の方の関心に合わせて教材を準備できるようにしたいと思います。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 余郷 裕次                      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3				4.7
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



## 教員のコメント

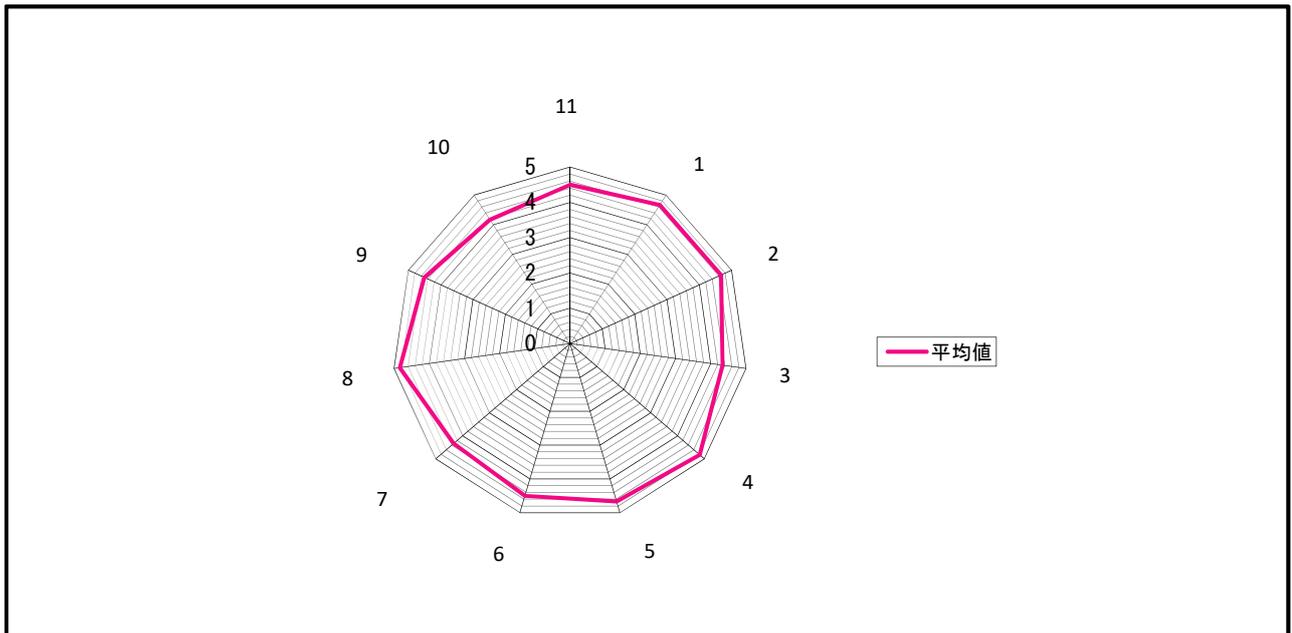
「総合評価」は、4.9の高得点評価であった。これまででも最も高い評価である。。この結果は、受講者が、講義を好意的に受け止め、積極的に講義に参加してくれたことによるものである。来年度からの教職大学院への改組につて、この講義の受講生が確保できるか未定であるが、教職大学院の授業においても高評価が得られるように努力を続けたい。

受講生のコメント「この授業でよかったと思われる点について書いてください。」には、「絵本の効果や役割を知ることができた。将来、自分の子供や受け持ったクラスの児童に読み聞かせがしたいと思う。」、「理論だけでなく、実際に話し合ったり、絵本を読んだりできた点。」、「子どもの発達について理解できた。子どもの発達のために何が必要かわかった。小学校、中学校の指導のポイントがわかりやすかった。」、「板書もとても丁寧にまとめて下さっており、参考図書でゆっくり復習できる。」など、数値評価を裏付ける好意的なコメントが得られた。また、他の項目では、「グループで話し合ったり、絵本の効果について話し合ったりと、アクティブラーニングの授業展開であったので、参加しやすかった。」、「最初に黙読の時間が設けられており、活字による情景のイメージ化が頭の中で連想させる。ただその連想するという背景には絵本があるということに気づき、子どもたちの気持ちをより深く知ることができると感じたから。」、「絵本の読み方を上手くするために、1週間ほど読書練習をした。また、佐野洋子の原画展を、文化の森まで見に行った。」、など、講義の内容を生活や実践に移すコメントも見られた。今後も、受講生のニーズを大切にしつつ、学生生活や教師生活の実践を変革していく講義を心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 廣田 知子                      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1				4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2					4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	3					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	4					4.3
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1	1			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1				4.5



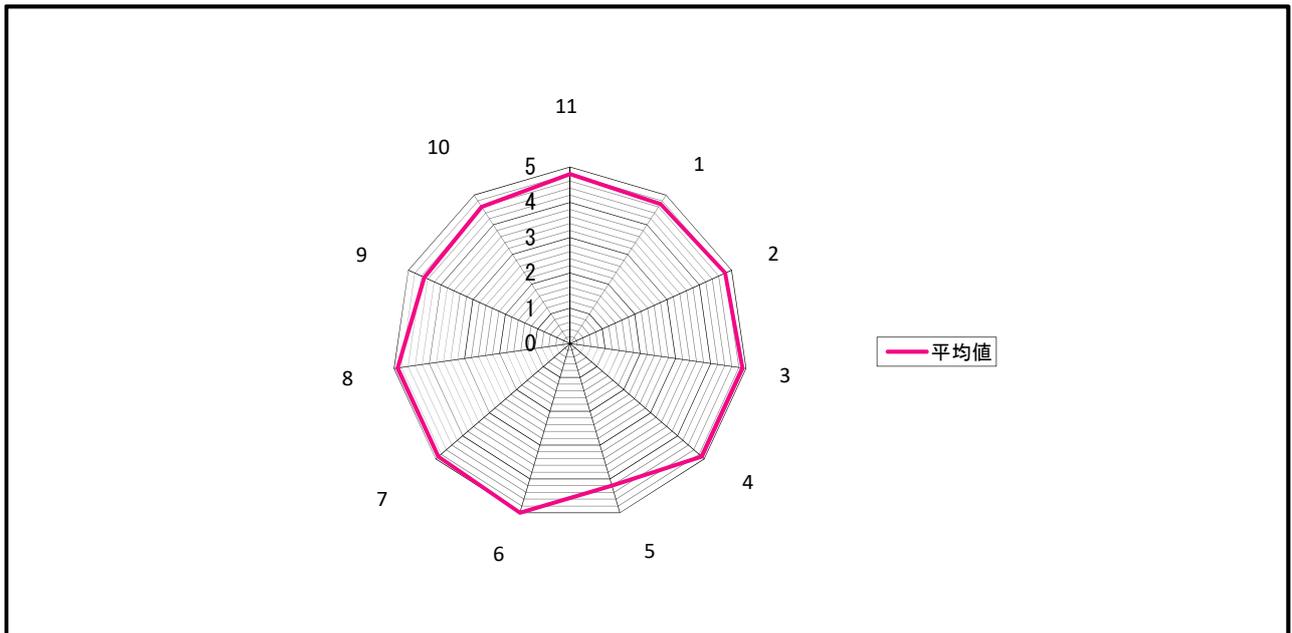
## 教員のコメント

一人一人のコメントを読むと、メリハリがあるとよいとか、時間オーバーをなくしてほしいとかいった意見があった。この曜日は、3、4と日本語教育関連科目が続く日で、2時間続きの授業はちょっと集中力が切れがちであったかもしれない。来年度は3、4と別々の曜日になるので、教科ごとの区切りがよりはっきりすると思われる。日本語教育法として身につけてほしいことは、多岐にわたるが、まずは初級レベルにおける教育法や理論をしっかりマスターしてもらって、教育実習などの実践に生かせるような授業となるようにしたい。実践力の育成につながる授業を心掛けたつもりだが、前期に理論的な部分を多くして、実際の実践力は後期の演習で身につけられるようなプログラミングになっているので、通年を通じて理論と実践のバランスをとってもらいたい。そのモチベーションを持続させるのが授業者の役割だと思うので、まず最初に全体像を紹介したあとで、その中での「日本語教育法研究」であることをもっとわかってもらったらよかったという反省点が残る。

# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(国語科)  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 村井 万里子,原 卓志,余部 裕次,小島 明子,幾田 伸司,黒田 俊太郎,田中 大輝 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1				4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1		1	4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1			1	4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



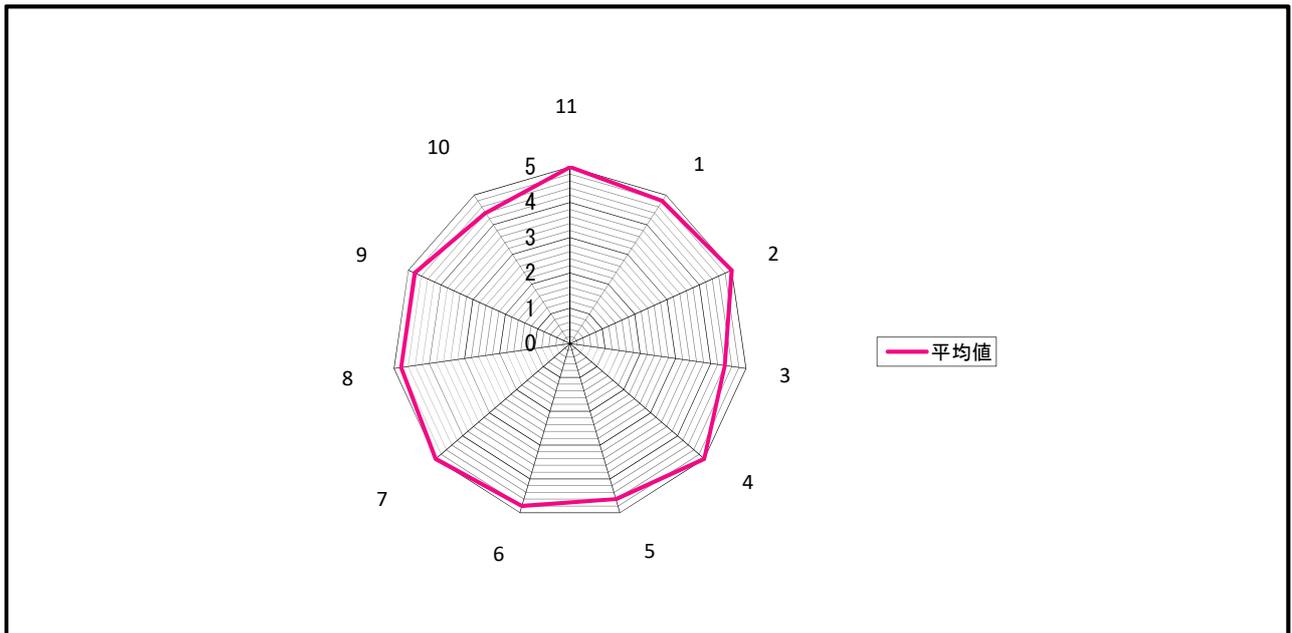
## 教員のコメント

この授業は、授業担当者全員のオムニバス方式で行い、教員それぞれの専門を活かした内容構成を主眼としている。今の所、内容の相互連携は適切に機能していることが窺われる。以下の2点で課題が明らかとなった。  
 ①受講者の興味・関心・素養は多様であり、受講者の特性に応じて授業内容を柔軟に変える対応は、各教員に任されている。比較的成功していると思われるが、1名に無理が生じている可能性が明らかになった。  
 ②アクティブラーニングを積極的に採り入れた結果、活動による学びには手応えが得られていることがわかる。一方、活動の評価基準をより分かりやすくすることが求められていると考えられる。  
 次年度より教職大学院に移行するため、受講者は長期履修生に限定されることになるが、上記のことをふまえて考えていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 眞野 美穂 回答者数 5 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3					4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2					4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1					4.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5						5.0



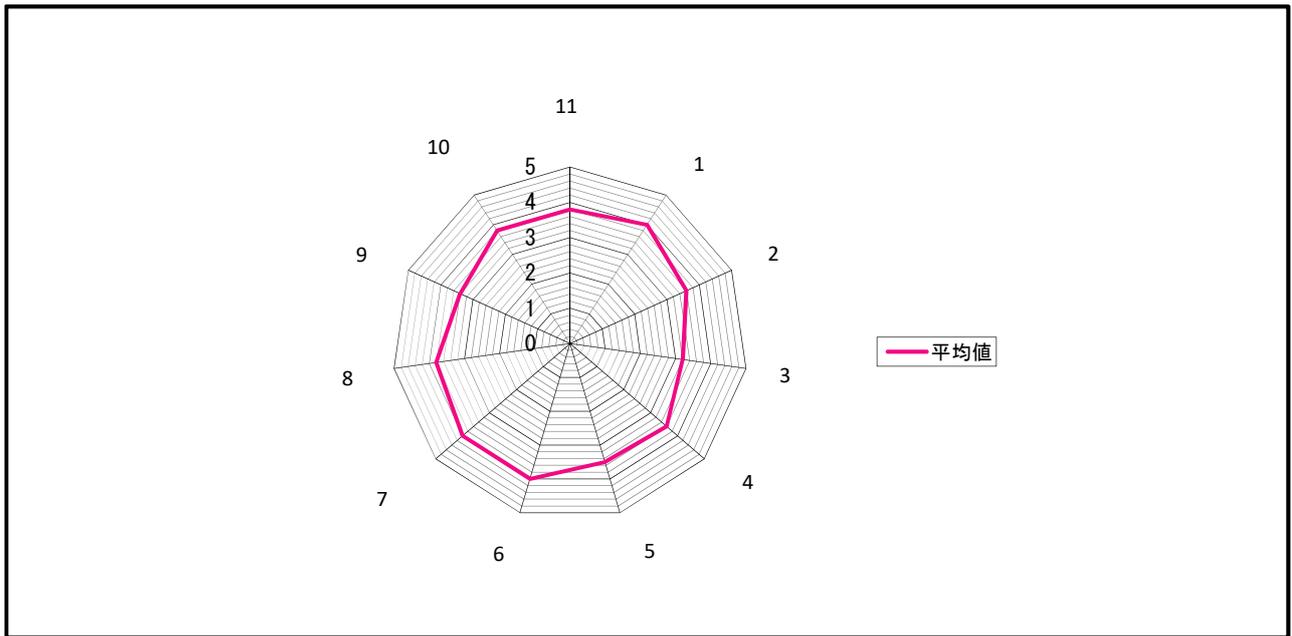
## 教員のコメント

様々な英語学もしくは応用言語学分野の論文を主に英語でよむという、要求の多い授業であったと思うが、評価からはそれぞれが理解しつつ、授業を受講していた様子が見てとれ、安心している。日本語を学び始めたばかりの留学生の受講生もいたため、授業は日英語を両方混ぜつつであったため、その点で今回の授業は集中力を必要とするものであったと思う。英語での話し合いも含まれたが、これらすべてに皆積極的に取り組んだことが、高評価につながったと考えているが、積極的に参加できたと自分で思えなかった受講生もいたことは、今後の授業の中で考えていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 宮崎 隆義                      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		5				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		3	2			3.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	4			3.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		3	2			3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。		2	2			3.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		5				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		5				4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。		4	1			3.8
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2	3			3.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	2			3.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		4	1			3.8



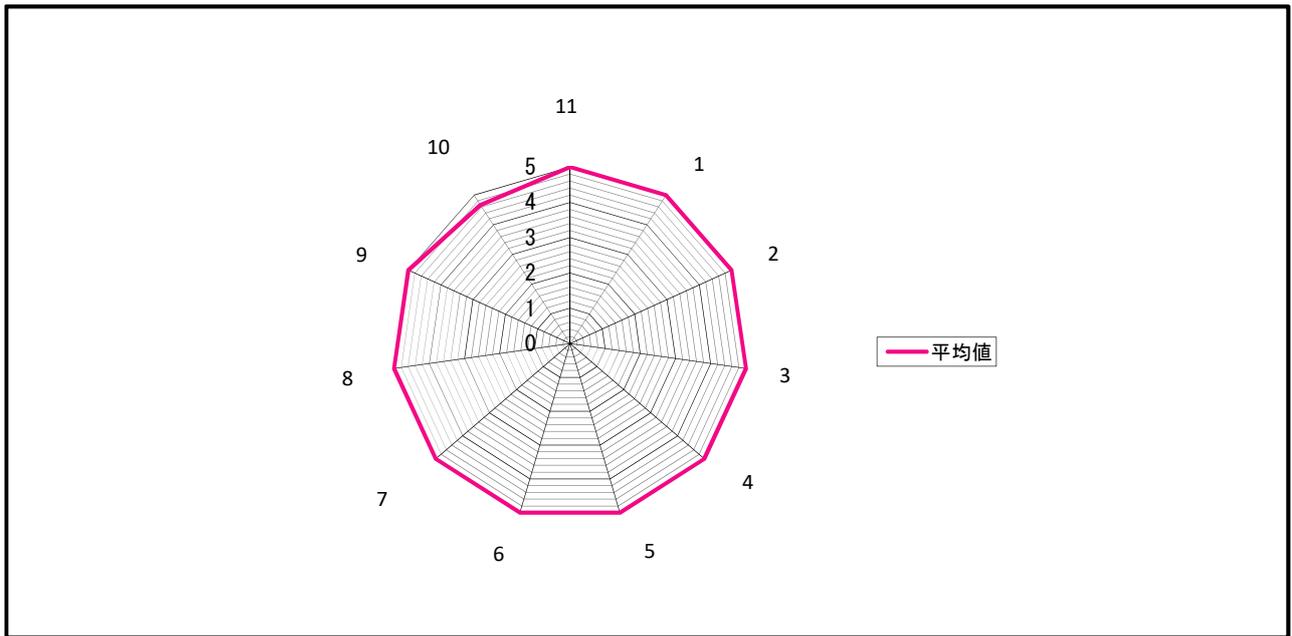
## 教員のコメント

意識の高い大学院生の受講なので、担当する側も大変やりやすくまたやりがいもありました。担当については、受講生の皆さんの自主性が大切であろうとの判断で任せてみましたが、こちらが決めてもよかったのかなとは思いますが、背景的な知識の紹介なども盛り込んでみました。もう少し整理すればよかったかなと思っております。教員を目指していることを前提に、英語の読み方と教授法をもう少し関連付けることができればと思います。

# 結果報告書

授業科目名 小学校英語活動構成論  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 佐藤 美智子                      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



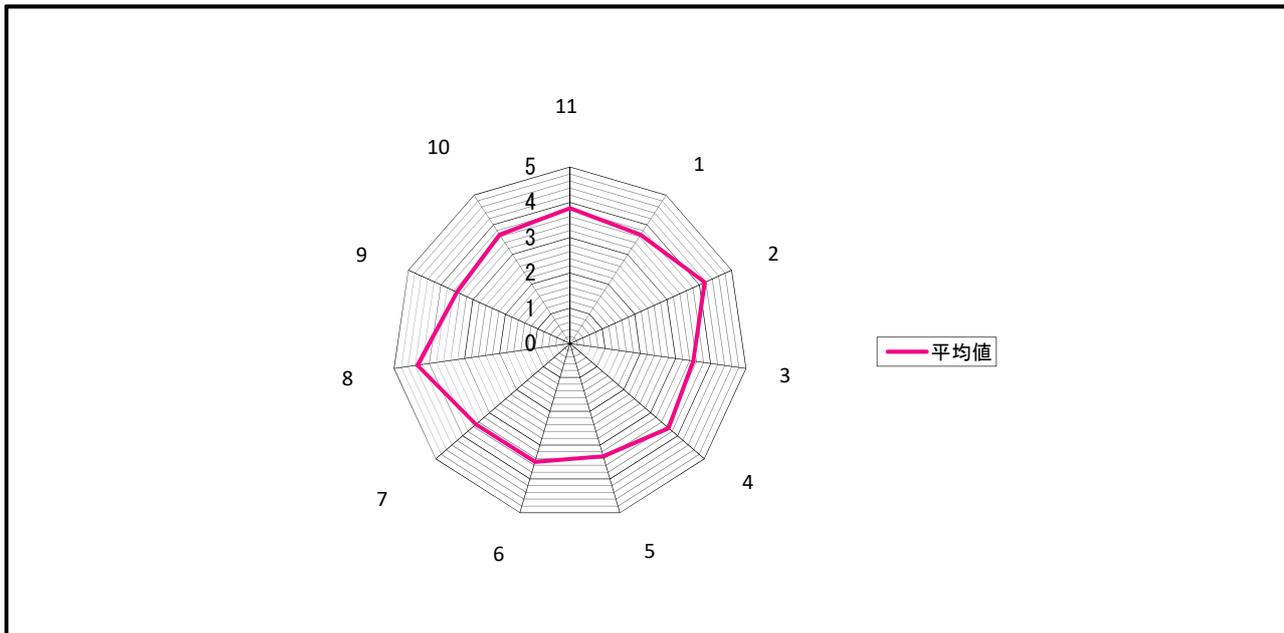
## 教員のコメント

英語コース内に履修資格等の制限があることにより、今年を受講を見送った院生がいた。その結果、3名という小人数での授業となったが、その分、指導者と受講の院生との距離が近いので、院生の意見や要望を積極的に取り入れながら授業を進めることができた。小人数のため、意見交換や質疑応答の時間を十分確保することができ、教材作成や指導案作成、模擬授業などにおいても一人一人の学生に合った支援・指導を行えたことも大変よかったと考える。初めて一人で担当した授業であったので不安であったが、肯定的な評価をいただけて有り難く思う。私自身も、終始前向きに真面目な態度で授業に臨む院生さんに多くのことを教えられた。

# 結果報告書

授業科目名 初等中等英語科教育特論 I  
 評価実施日 平成30年8月30日  
 担当教員名 石濱 博之(嘱託) 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	3	1	1		3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	2	1		3.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1	2	1		3.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	3	1		3.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	4			3.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1	2		3.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	4			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4	2			3.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	2			3.8



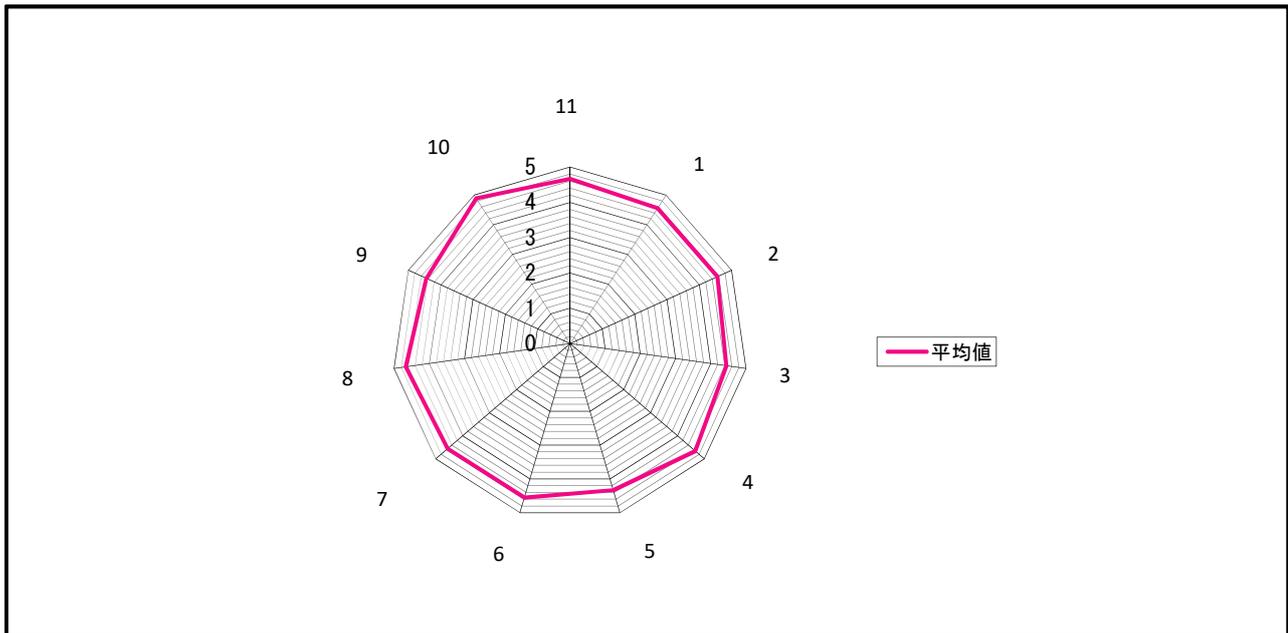
## 教員のコメント

学生の自己評価から、授業な内容の精度を上げていきたい。授業であっても、最終的に大学院修士課程レベルの論文等を書くために必要な内容を盛り込んでいった。しかしながら、必ずしも受講者には伝わらなかったかもしれない。シラバスどおりに授業を行ったが、受講者にその内容を精選すべきだったかもしれない。(精選すれば、もっと教えてほしいという受講生がいるかもしれない(ジレンマ。))また、聴講生もいたが、自分の研究のやり方を授業中に聞いてきたので、その点で、他の受講生に困惑したかもしれない。聴講生は、そのゼミの先生に問い合わせたほうがよいような質問をしてきた。このような聴講生がいるとやりにくい。また、大学院派遣の現職教員の中で、本当に学ぼうとしているのか、疑問に思う人もいた。授業中に、当方が質問を求めたが、「質問はありません」と言いながら、「自己評価で敵しいことを書くことに、これは何だ。」と思うこともある。もっと、授業中に質問をすべきではないか。とにかく、自己評価から、さらに授業内容を精選していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 小学校英語習得論  
 評価実施日 平成30年7月20日  
 担当教員名 畑江 美佳                      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5				4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	3				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	4				4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	4				4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	5				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3				4.7



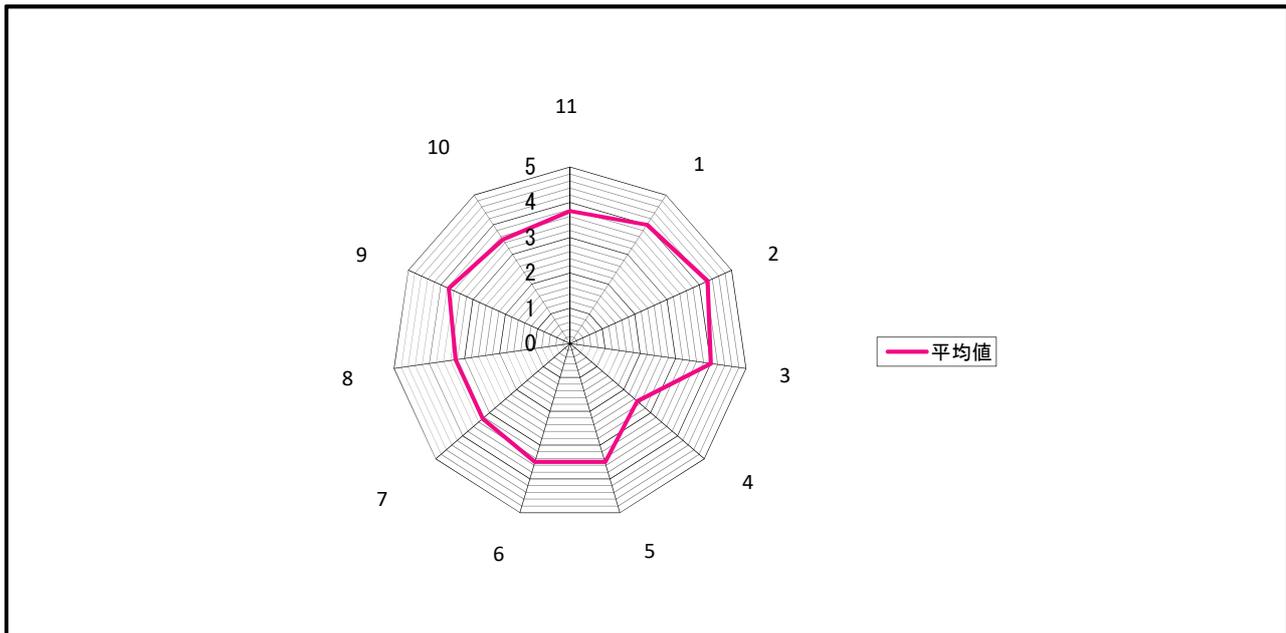
## 教員のコメント

総合評価が4.7で、それぞれの項目も全てバランス良く整っていたので、学生の評価は高かったと考えられる。アクティブラーニングを取り入れ、受け身ではない授業を心がけたことが結果として表れていると思う。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究 I  
 評価実施日 平成30年9月28日  
 担当教員名 大村 拓生      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	1			4.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	3				4.3
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2	1			4.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1	1	1	1	2.5
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1	1		3.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1	1		3.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	1	1		2		3.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1		2		3.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	2			3.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1	2			3.8



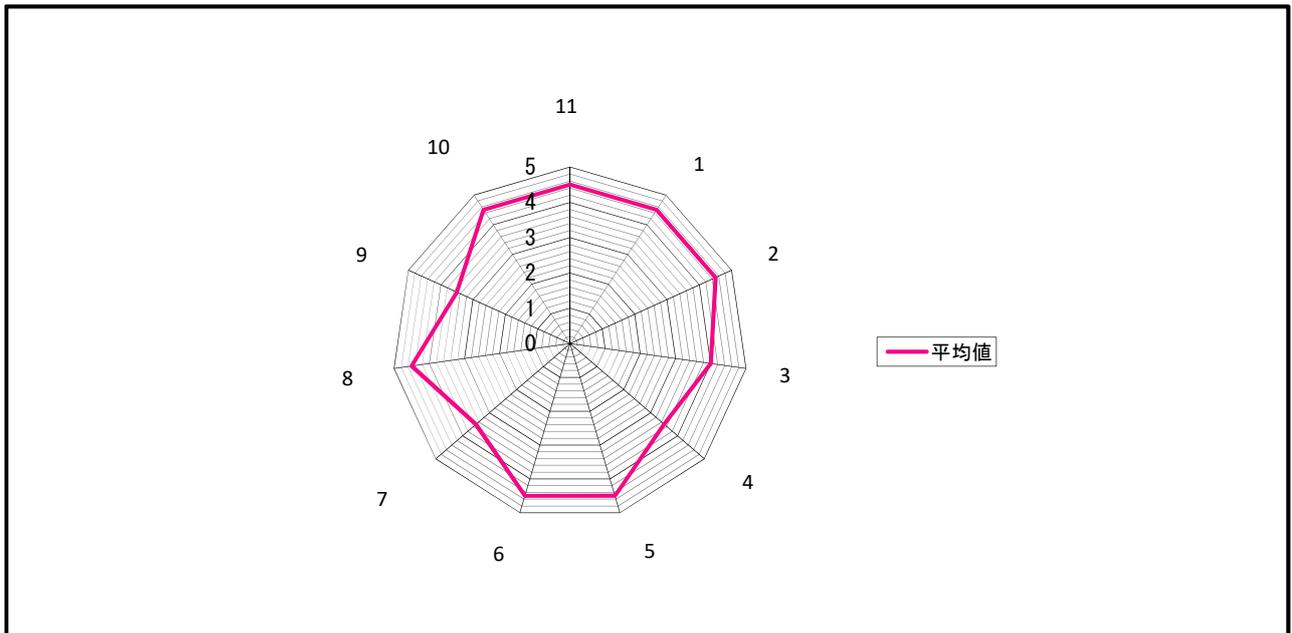
## 教員のコメント

ご協力ありがとうございました。大学院の専門向けの講義でしたので、他分野の方には難しかったかもしれません。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 町田 哲 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1			4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1	1			3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1	1			3.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



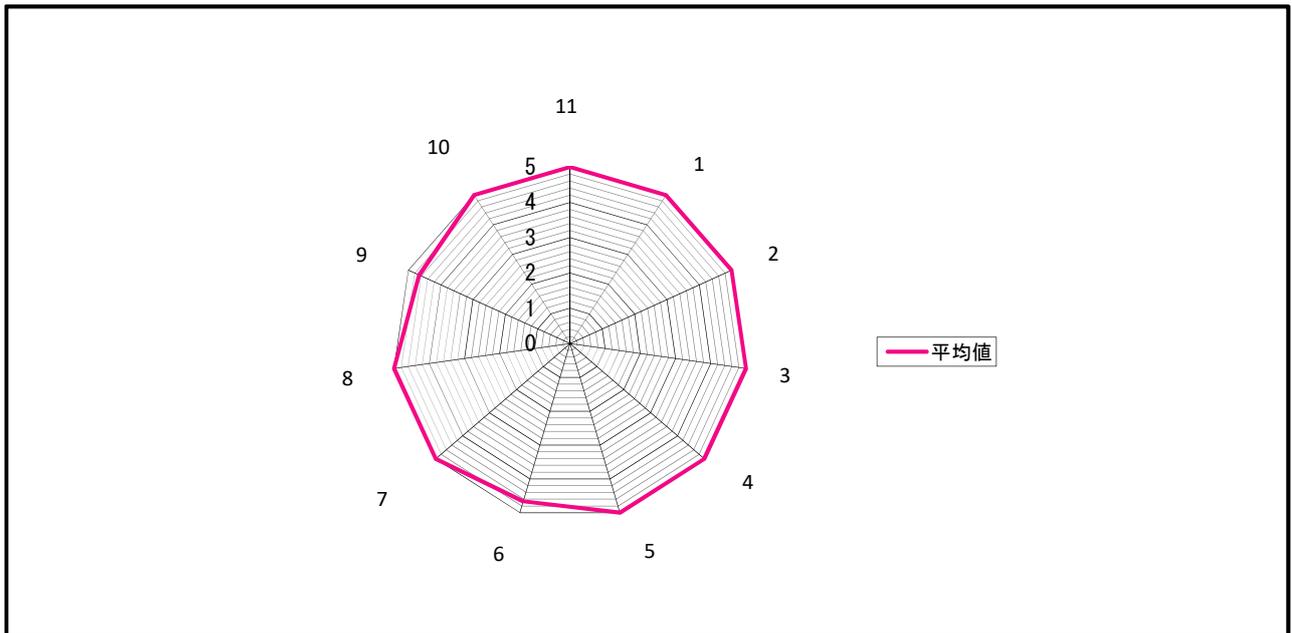
## 教員のコメント

今年度の歴史学研究Ⅱは、「近世の身分と地域」について議論をした。その際、基礎的な論文を読みこんだ上で、議論するスタイルをとった。これは受講生が2名ときわめて少ない形態に対応するものである。受講生は複数回の報告を経ながら、歴史学の方法論を学びながら、かつ身分制や地域社会構造に関する基本的な知識を得ることができたようである。今後は、さらに議論が活発化するような問いを立てられるように、指導していくことを課題としたい。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ  
 評価実施日 平成30年7月20日  
 担当教員名 原田 昌博 回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



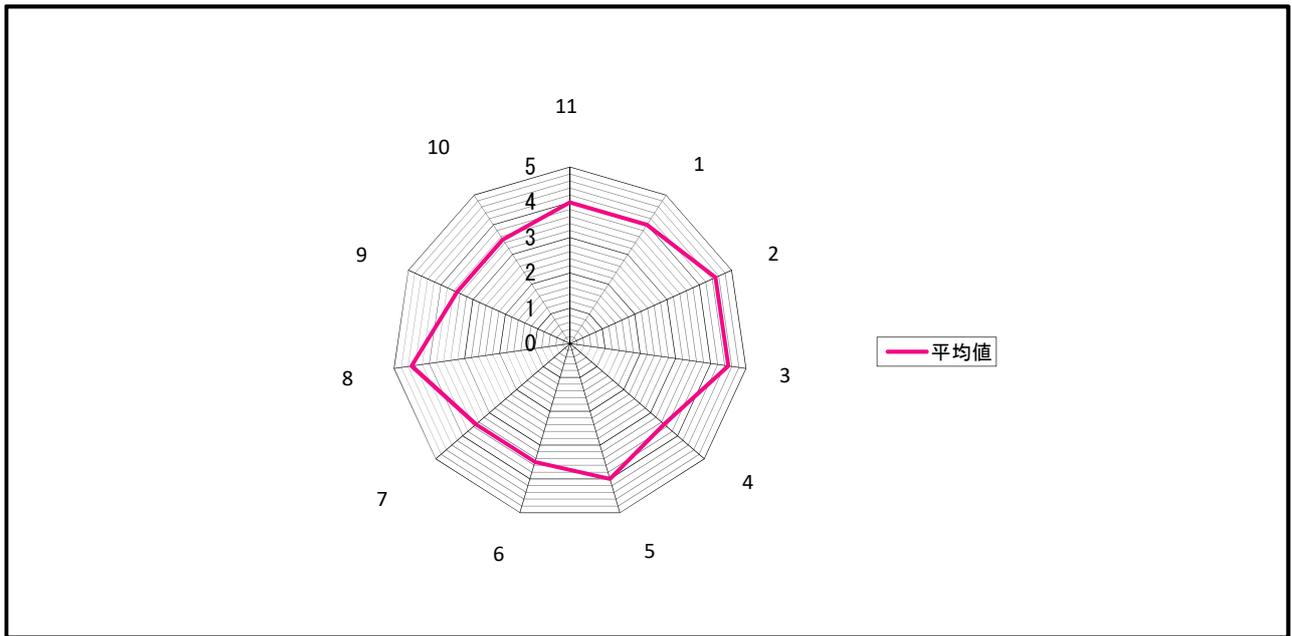
## 教員のコメント

本授業は「ナチズム」を事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにし、その上で教材を研究する上での視点や方法を習得することを目的としている。今年度は受講生が3人であった。全体的に見て、各質問項目ともほとんどが「5」と評価しており、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問11でほぼ全員が「5」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

# 結果報告書

授業科目名 地理学研究Ⅱ  
 評価実施日 平成29年7月27日  
 担当教員名 立岡 裕士      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。		1	1			3.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		1	1			3.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1	1			3.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1	1			3.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1		1			4.0



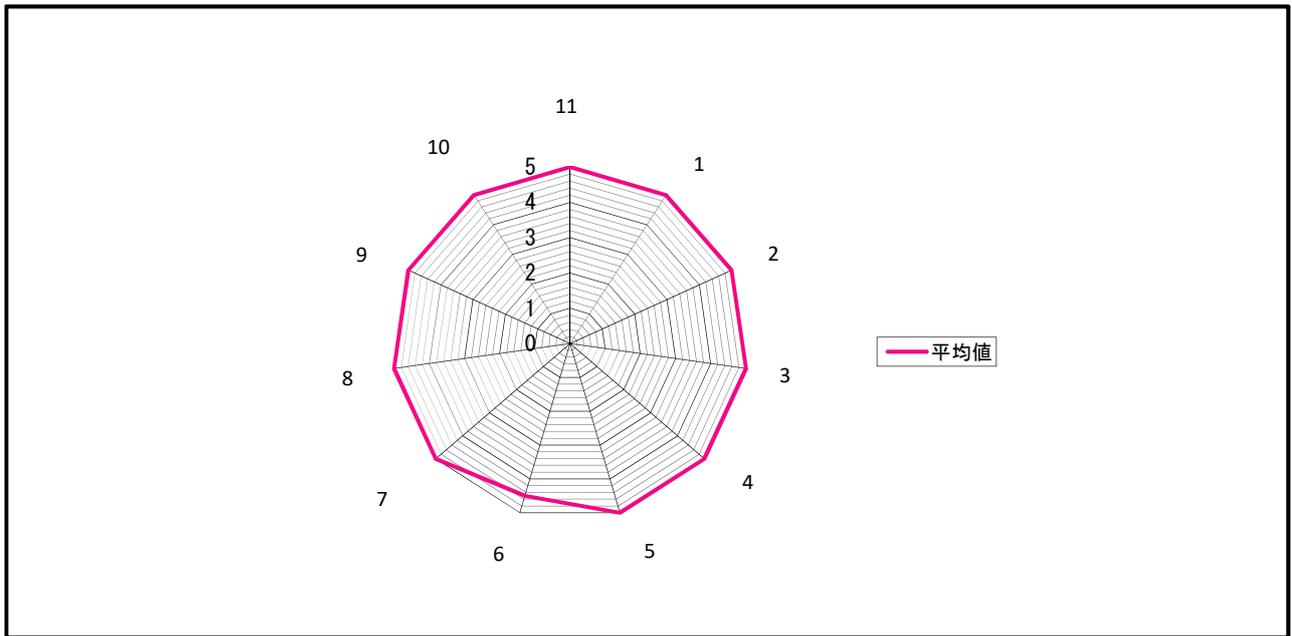
## 教員のコメント

本授業において改善すべき点として、「学生からの発表等があればいい」という指摘があったが、受講者2名のうち1名は地理学の専攻ではないため、そうした方策は採りがたいと考える。

# 結果報告書

授業科目名 地図表現学研究  
 評価実施日 平成29年7月24日  
 担当教員名 立岡 裕士      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



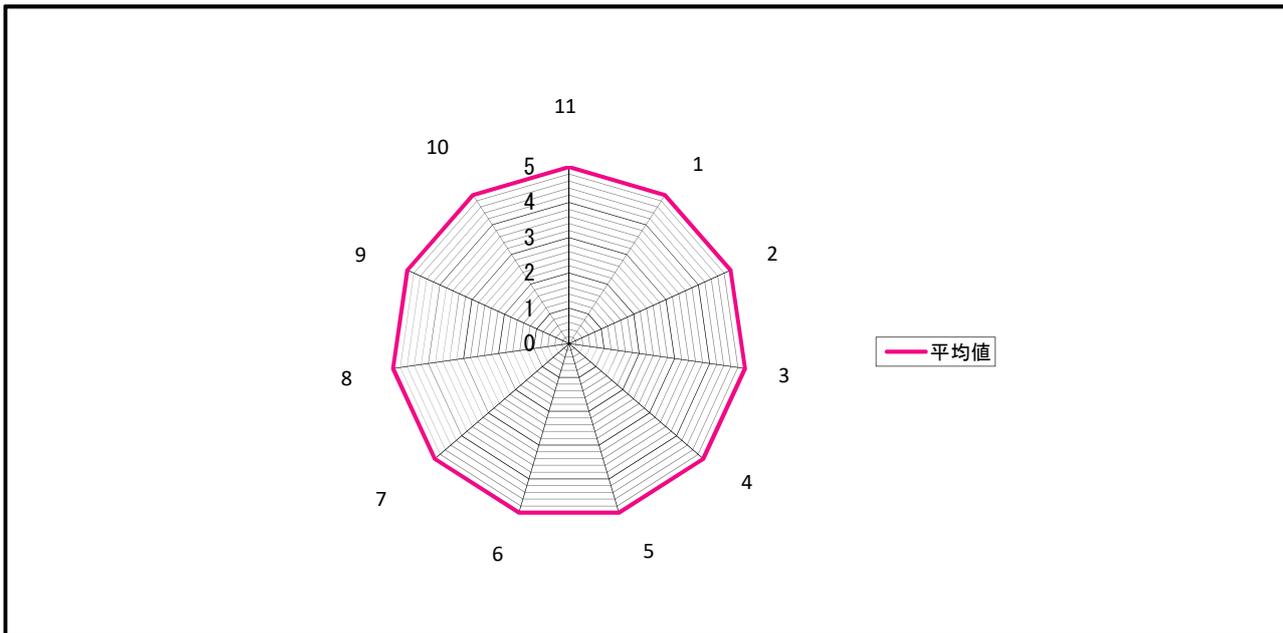
## 教員のコメント

受講生が2名のため、理解度を確認しながら進めることができた

# 結果報告書

授業科目名 地図表現学演習  
 評価実施日 平成29年7月24日  
 担当教員名 立岡 裕士      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



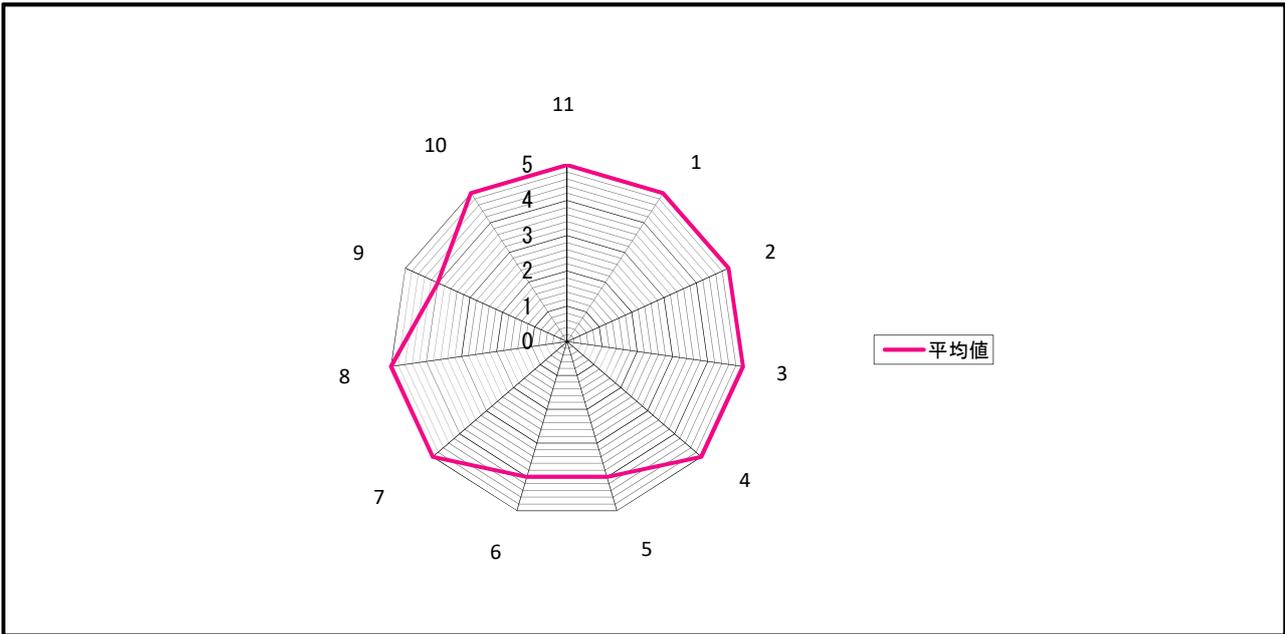
## 教員のコメント

受講生が2名のため、理解度を確認しながら進めることができた

# 結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 麻生 多聞      回答者数 1 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1					4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		1					4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1					4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1						5.0



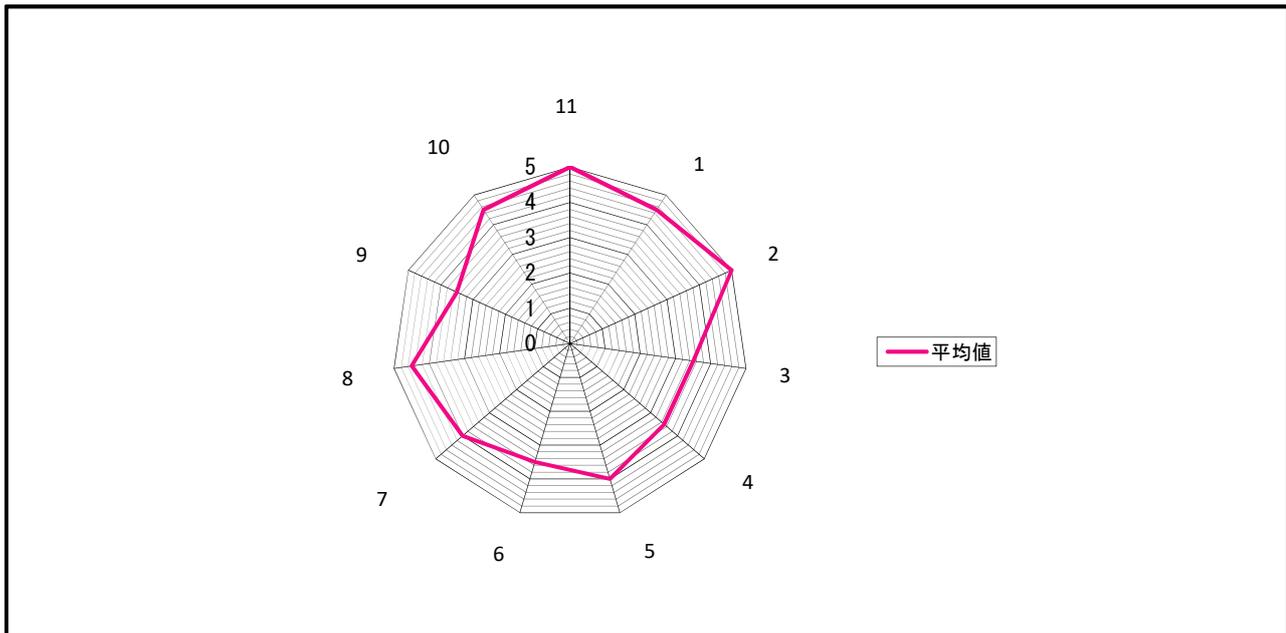
## 教員のコメント

今期は、戸部信喜『憲法・第6版』（岩波書店、2016）を講読した。履修者人数が1名ということもあり、履修者のレベルに合わせて詳細な内容に踏み込んだ討議を行うことが出来たように思う。履修者が毎週しっかりと予習をこなしてくれたお蔭で、学習成果も高めることが出来たのではないかと考えている。高度な内容のテキストであっても、学生の意識次第でしっかりと講読することが可能であることを今期の授業を通じて実感することが出来たことに感謝したい。

# 結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 齋木 哲郎                      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1			3.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		1	1			3.5
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1			4.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1			1		3.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	1			3.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



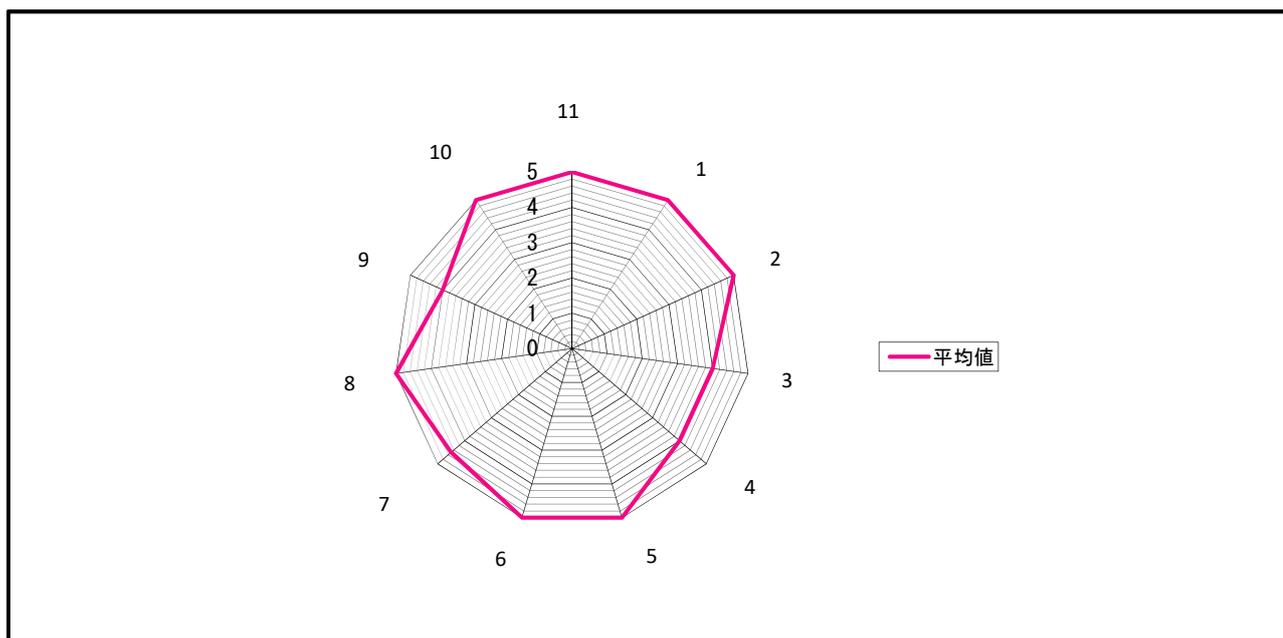
## 教員のコメント

受講生が三名と少なかったことから此処に反映されたのは学生個人の感慨が主であろう。その点も踏まえてコメントすれば、今回の受講

# 結果報告書

授業科目名 哲学・倫理学演習  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 齋木 哲郎                      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		2				4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		2				4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



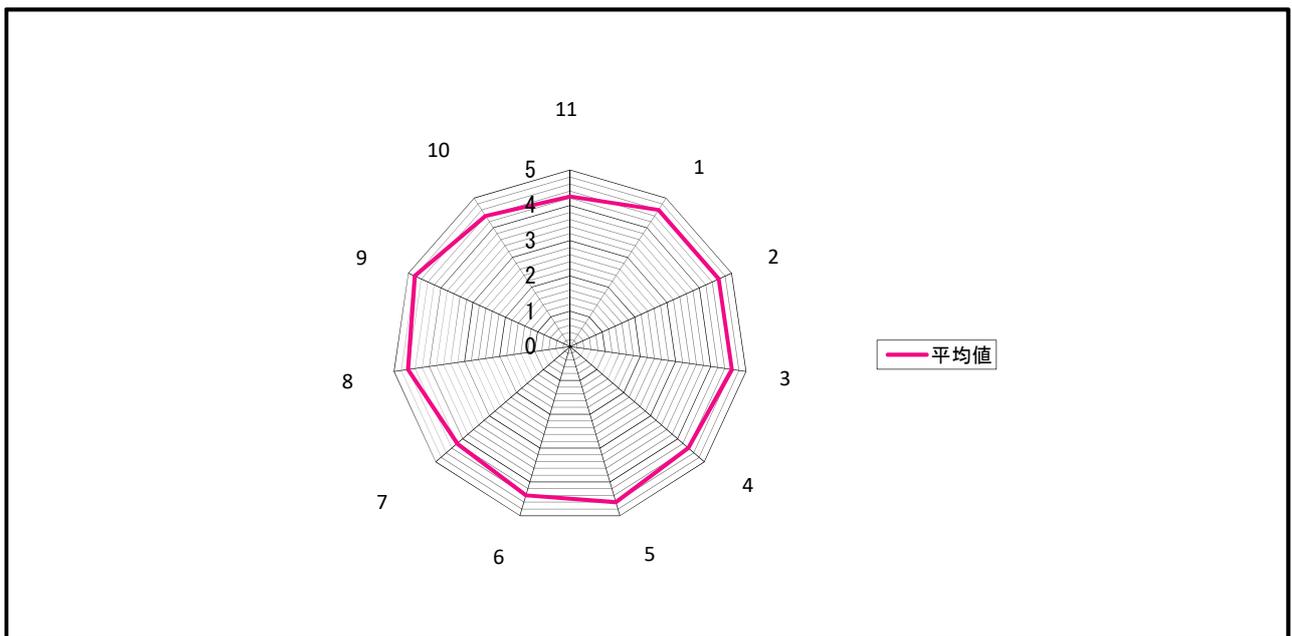
## 教員のコメント

出来すぎである。受講生の専門性が高度であったということであろう。受講生の要求に対して答え得たものとしてまんぞくする。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 伊藤 直之      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3				4.3



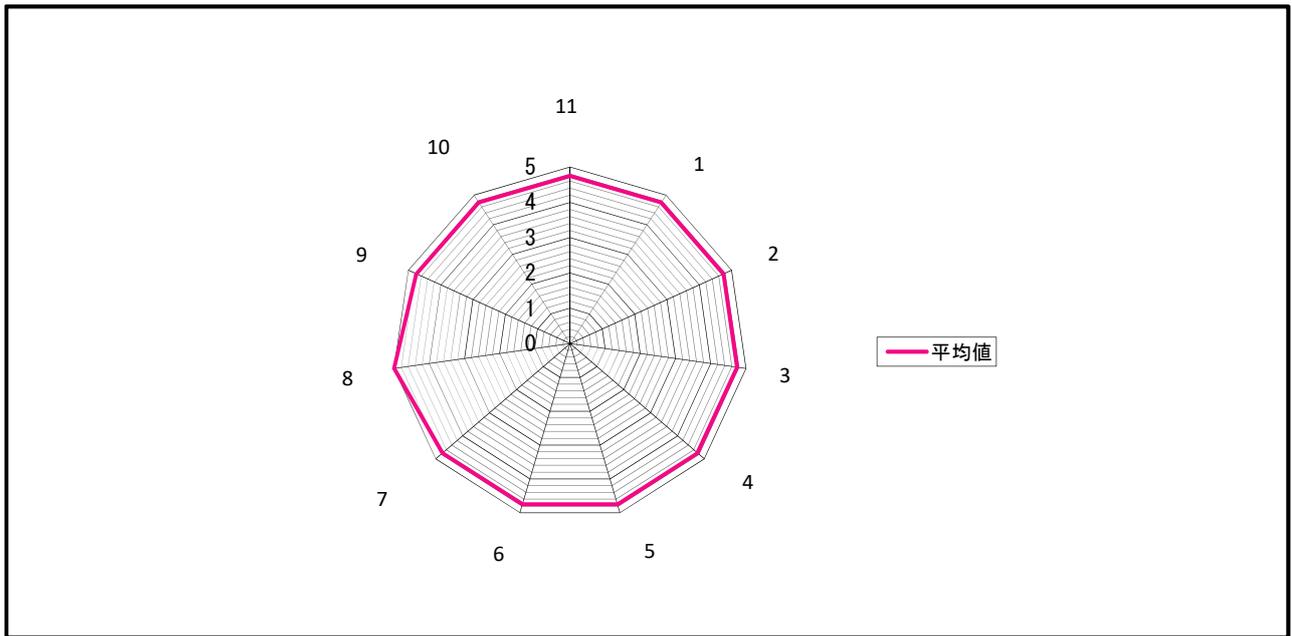
## 教員のコメント

受講者数が少ないものの、説明のわかりやすさと資料の適切性の点で課題が見られるようである。次年度は特にこれらの点を改善して授業に臨みたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会科授業研究  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 梅津 正美                      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1					4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1					4.8



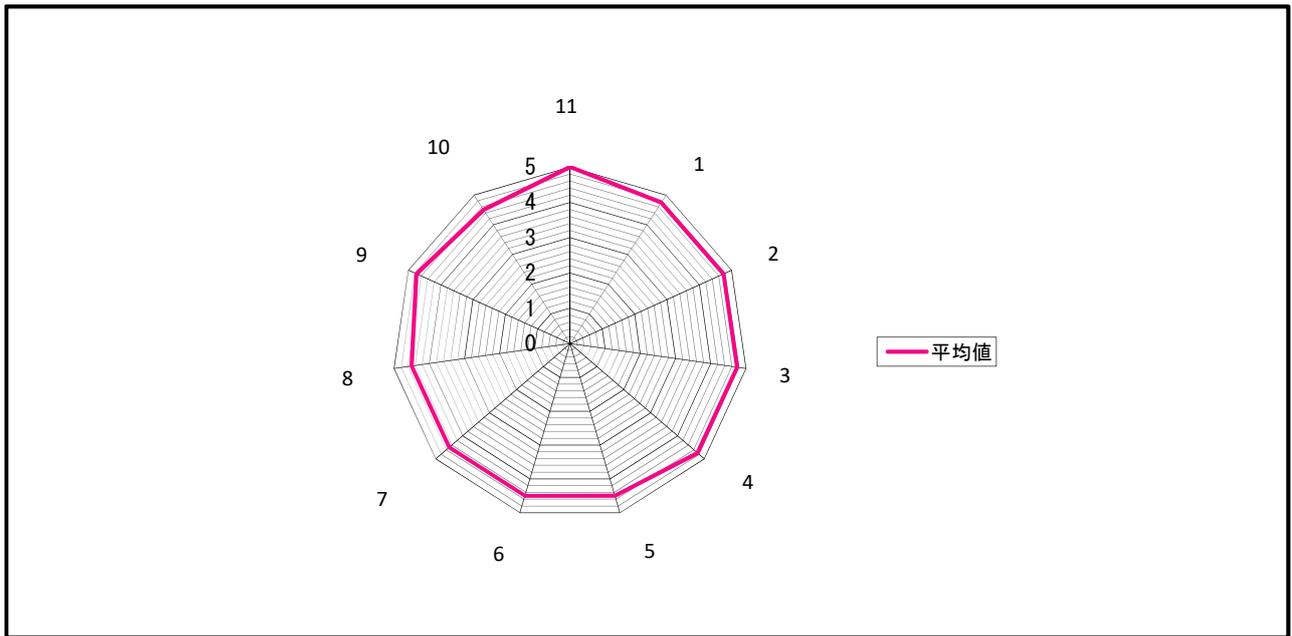
## 教員のコメント

学校における社会科授業の開発研究を先導的に展開できる力量の基礎を培うために、学校現場で行われた授業研究を事例に取り上げ、その仮説・実践・評価・改善のプロセスを読み解き類型化する講義とともに、社会科授業研究をめぐる自分なりの教育課題(研究課題)を設定し、「こだわり」・「葛藤」・「乗り越え方」を視点に、受講者相互で議論し「自分たちの授業仮説」を創りあげていく演習を行った。授業の内容に関する3項目の評価の平均は4.8である。また、受講者が4名と少なかったこともあり、アクティブ・ラーニングを十分に組み込んだ結果、「自らの授業への主体的取組」に関する評価も4.8と高い自己評価結果となった。総合評価も4.8ということであるので、本授業の目的と内容のもつ意義は、概ね受講生に理解されたと判断される。この評価をふまえながら、今後も本授業の改善を進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と社会認識教育  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 井上 奈穂 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3		1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



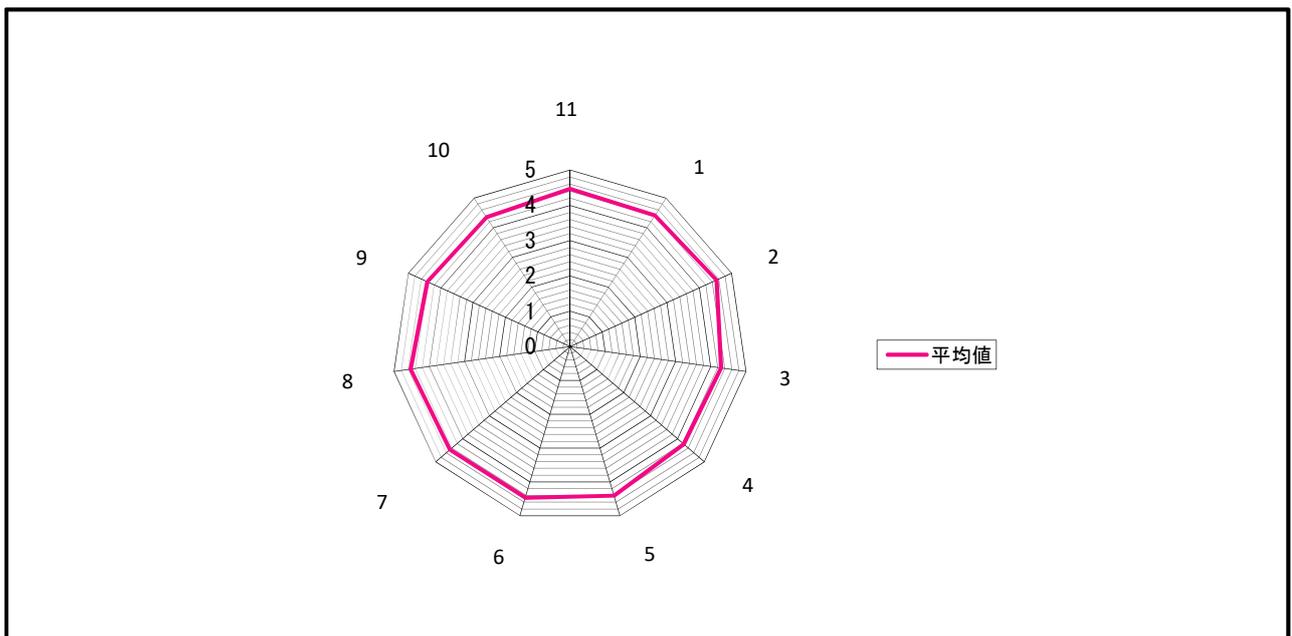
## 教員のコメント

4名という少ない人数であったが、授業記録を見ながら社会系教科の多様な授業の在り方についての検討を行った。授業の進め方等については、おおむね良好であるし、また、学生とのディスカッションを中心としていたためか、学生の主体的な活動を行うことができた点は評価されていたといえる。

# 結果報告書

授業科目名 数理科学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 宮口 智成      回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	8	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	6	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	6	3			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	7	3			4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	8	1			4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	10	5	2			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	9	7	1			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6	1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	6	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	9	1			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	7	1			4.5



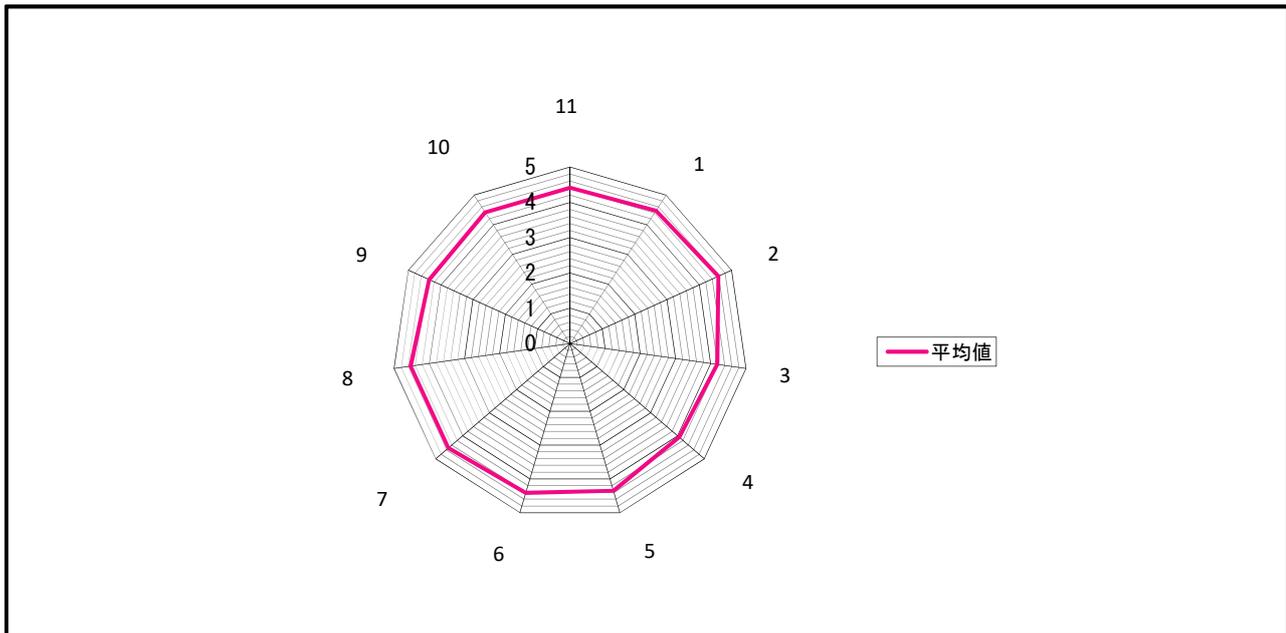
## 教員のコメント

概ね高い評価が得られた。これまで、授業を改善し続けてきた成果であると考えている。この授業の内容は比較的専門的であるため、教職大学院への改組により大部分は利用できなくなる。非常に残念である。

# 結果報告書

授業科目名 数理科学演習  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 宮口 智成      回答者数 17 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	7	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	5	1				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	3				4.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	10	3				4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	7	2				4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	6	2				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	10	6	1				4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	7	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	8	1				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	8	1				4.4



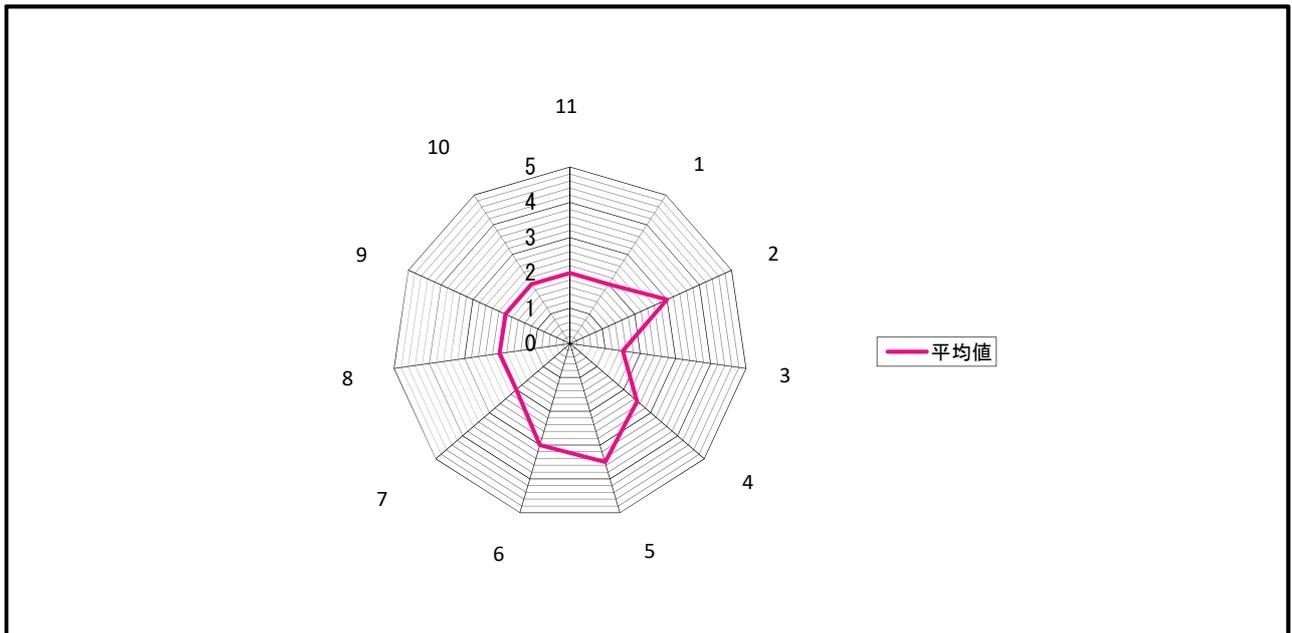
## 教員のコメント

概ね高い評価が得られた。これまで、授業を改善し続けてきた成果であると考えている。この授業の内容は比較的専門的であるため、教職大学院への改組により大部分は利用できなくなる。非常に残念である。

# 結果報告書

授業科目名 代数学研究  
 評価実施日 平成30年9月19日  
 担当教員名 平野 康之(嘱託)      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。				2		2.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1		1		3.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。				1	1	1.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。			1	1		2.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1			1		3.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。			2			3.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。				2		2.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。				2		2.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。				2		2.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。			1		1	2.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。				2		2.0



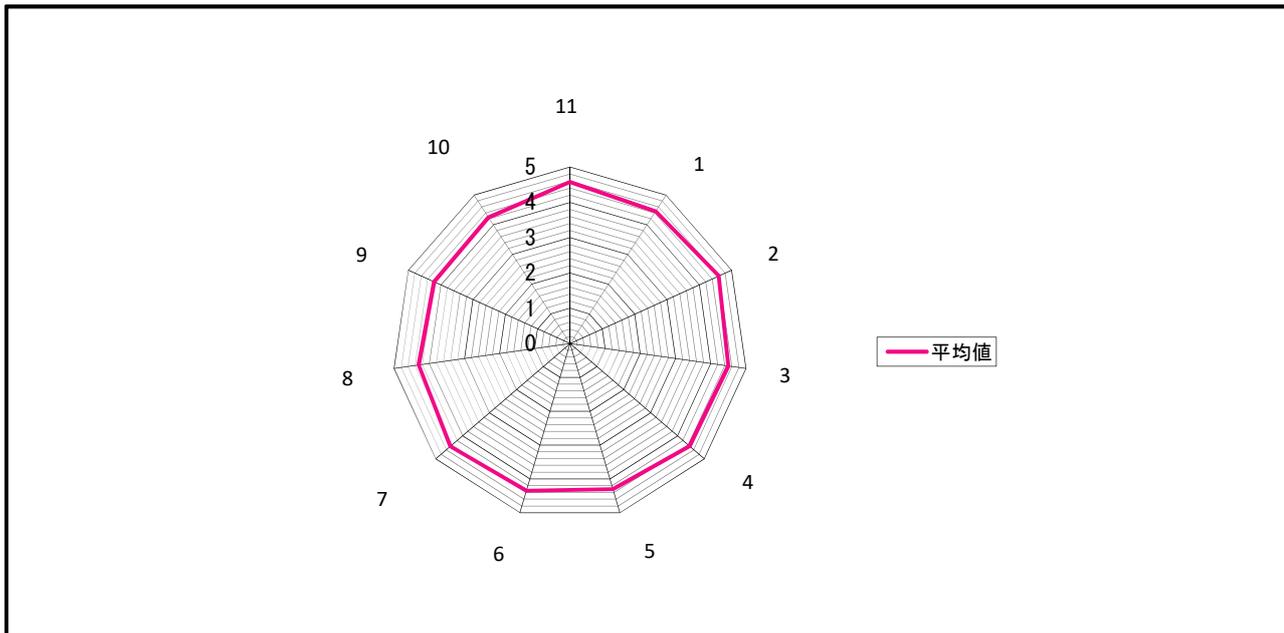
## 教員のコメント

「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(6)授業の進む速さは、適切であった」という問いに対して評価の平均値が3.0、「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が3.5であったぐらいで、他の項目に対する評価は概ね、厳しいものであった。本授業を受講した学生は2人であり、専門的知識や能動的態度を学生に期待し過ぎ、理解を深めるために授業中においてほしいと思います。お願いいたします。多くの問題を解かせるなど難しいことをし過ぎたことが、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の平均が2.0に落ち込んだ原因かもしれない。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いに対する評価の平均値も2.0であり、この平均値は例年より低い数値である。このことを反省して、今後、これらの点に関して改善していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 秋田 美代 回答者数 20 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	7	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	6	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	8	1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	7	2			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	8	3			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	9	9	2			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	11	7	2			4.5
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	8	3			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	8	4			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	6	3	1		4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	8				4.6



## 教員のコメント

この授業科目の主な目標は、数学教育の目標論、カリキュラム論、内容論、方法論、評価論等について考察し、生徒の基礎的学力、関心・意欲、創造性等を高める数学学習理論について理解すること、及び数学教育における実践的な課題に対する解決策についての認識を深めることであった。

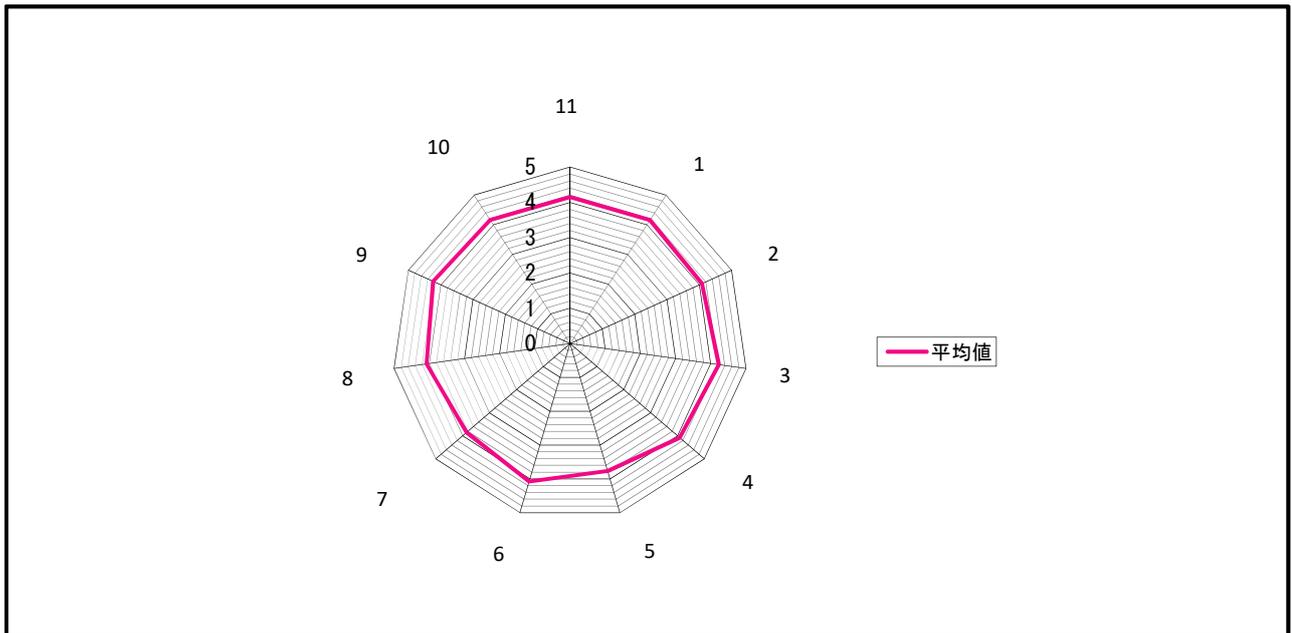
総合評価の平均値は4.6、評価の平均値が高かった質問項目は、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた」、「(7)受講生に分かりやすく説明した」であり、授業の内容は目標に沿ったものであり、受講生が思考を活性化し、数学の指導力や数学教育についての専門的知識を向上させることができたと判断できた。

記述による回答では、「深い理解をつくる数学の授業について学ぶことができた」、「学生が意見を述べる場が多かった」「たくさん発表した」ことなどがあげられていた。この授業で改善すべきと思われる点についてのコメントは特になかったが、質問項目「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ」について「②あまりそう思わない」と回答している受講者が1名いたので、その原因を分析し、次年度の授業改善に生かす。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 佐伯 昭彦      回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3	4			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	5			4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	3			4.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	6	3			4.1
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	4	6			3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	6	3			4.1
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4	4	4	1		3.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	6	3			4.1
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	3			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	5	3			4.2
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	4	2	1		4.2



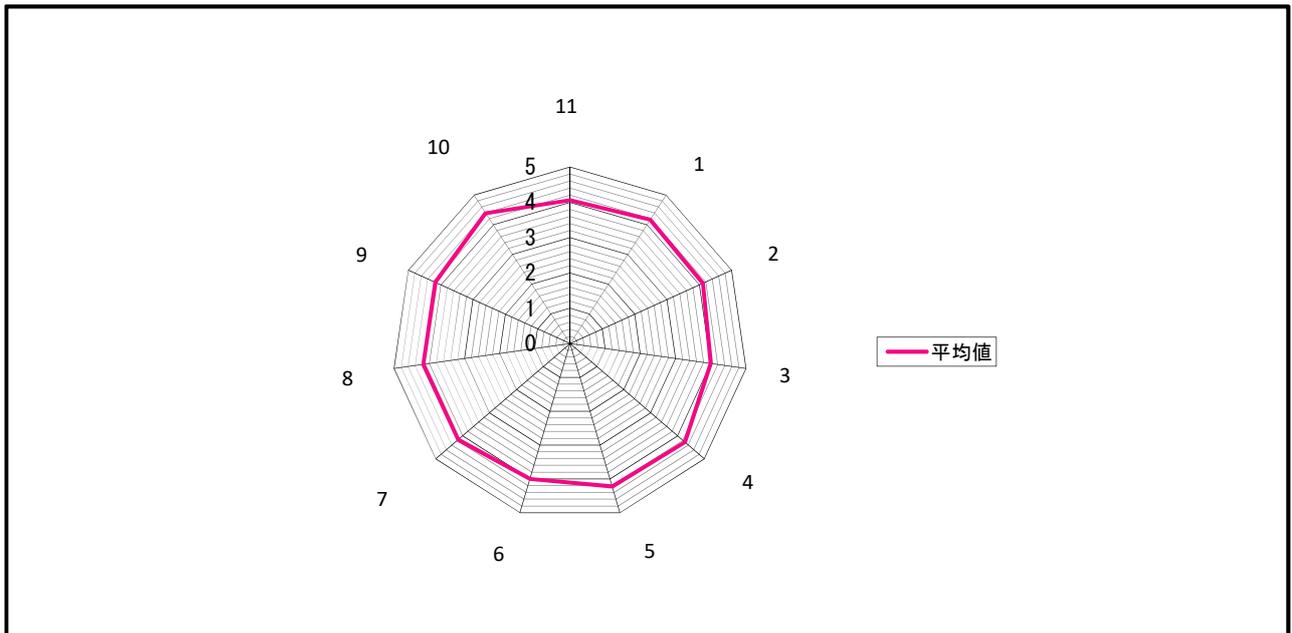
## 教員のコメント

本授業では、数学教育におけるICT活用について実際の教材を体験すること、数学授業を設計するために有用な理論を学生自身が調べ発表する活動を通して、教材開発に関わる資質・能力を高めることを目的として行った。その結果、総合評価が4.2であり、かつ、9項目が4.0以上の評価を得ることができた。この結果から、本授業の目的は概ね達成できたと考えられる。本授業は、ICT活用や模擬授業を行うアクティブラーニング型授業を行っており、グループ活動や学生の意見を発言する機会が多かったことが、好意的な評価を得た要因であると考えられる。しかし、活動が多いため理論的な説明を十分にすることが出来なかったため、項目7「受講生に分かりやすく説明した」では2を選択した学生が1名いた。理論と実践のバランスをどのように授業に反映し、受講生が理解しやすい説明の仕方が今後の課題となった。

# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(数学科)  
 評価実施日 平成30年7月31日  
 担当教員名 宮口 智成,松岡 隆,成川 公昭 回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	7	4			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4	4		1	4.1
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	5	1		4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	9	5	4			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	6	4			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	6	6			4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7	7	4			4.2
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	7	4			4.2
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	5	5			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	7	2			4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	8	4			4.1



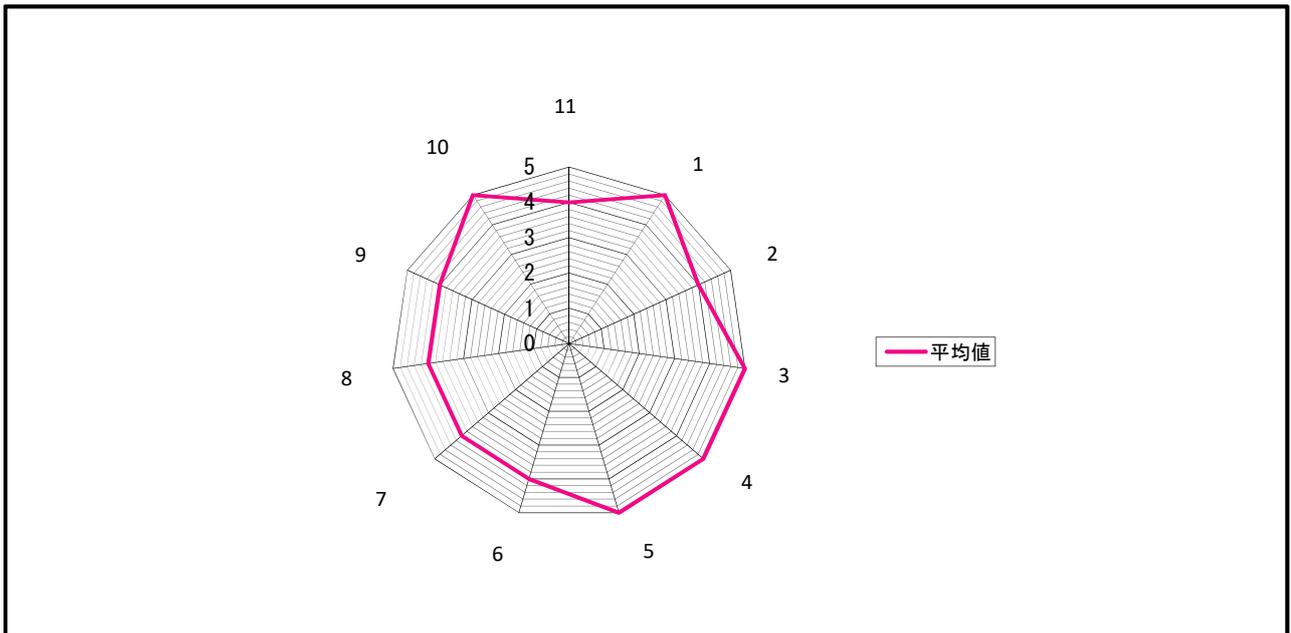
## 教員のコメント

概ね高い評価であったが、「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」と「教師の実践力の育成につながる内容であった」の項目で低い評価があった。このような評価となった理由は明かではないが、「専門的知識...」に関しては、本授業では高校までの算数・数学の内容を扱っており、専門的知識を得ることを目的としていないことが原因と考えられる。また、「教師の実践力...」については、本授業では、模擬授業を実施しており実践力の育成につながる内容である。しかし、今年度は受講生が多く(18名)、模擬授業を一度もしなかった学生(約5名)がいたことが、上記のような評価の原因と考えられる。いずれの項目についても来年度の授業を行う上で十分注意したい。

# 結果報告書

授業科目名 物理学特論 I  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 本田 亮                      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		1				4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		1				4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1				4.0



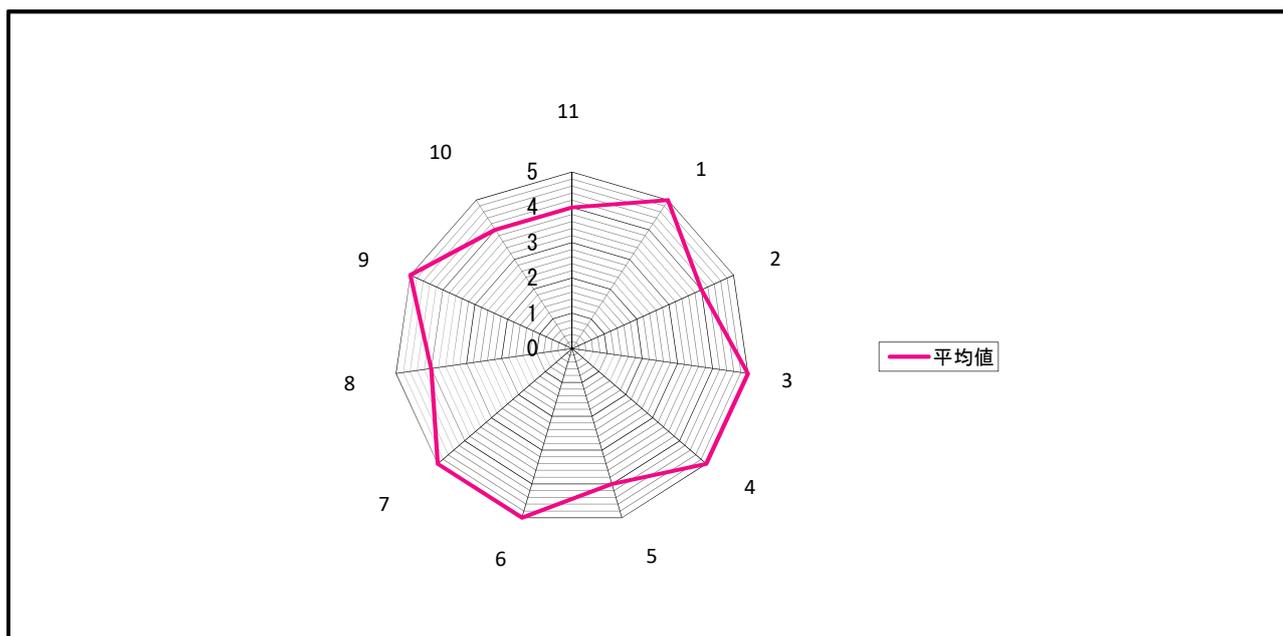
## 教員のコメント

受講生が1人であったので、この受講生の学習履歴にあつように授業を構成することができた。  
 また、授業評価アンケートには受講生からのコメントが全くなかったので、授業担当教員としても述べるものはない。

# 結果報告書

授業科目名 物理学特論IV  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 本田 亮                      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1				4.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。		1				4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1				4.0



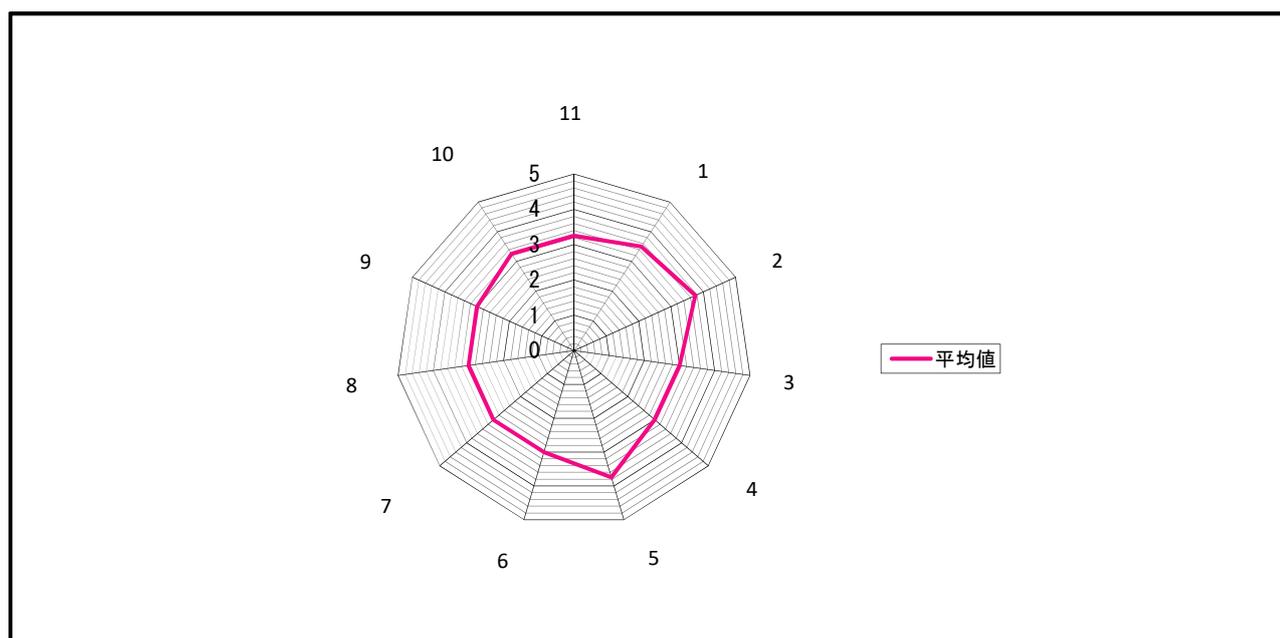
## 教員のコメント

受講生が1人であったので、この受講生の学習履歴にあつように授業を構成することができた。  
 また、授業評価アンケートには受講生からのコメントが全くなかったので、授業担当教員としても述べるものはない。

# 結果報告書

授業科目名 有機化学特論  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 胸組 虎胤 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2	2			3.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		3	1			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	2	1		3.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。		2		2		3.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。		3	1			3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。		2		2		3.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。		2		2		3.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。		1	2	1		3.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	2	1		3.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1	1		3.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2	1	1		3.3



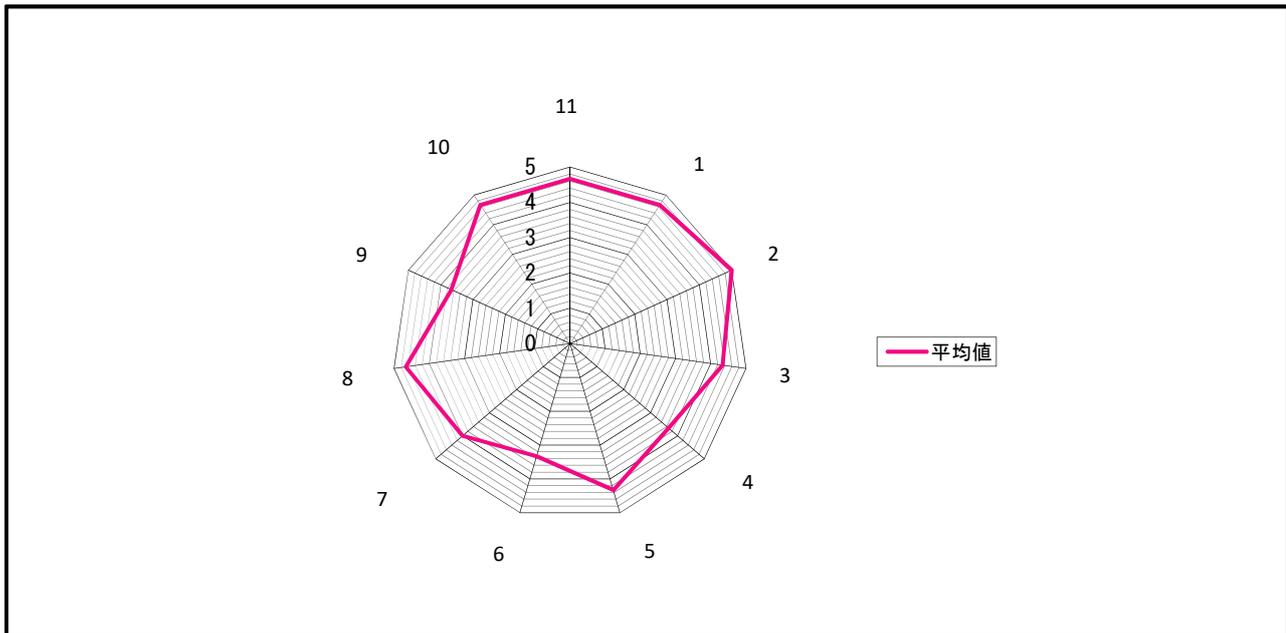
## 教員のコメント

受講した学生の学習歴には幅があり、(1)大学理学部クラスの知識を有する学生と(2)生物と有機化学の知識が十分でない学生が共存していた。そのため、授業のレベルには十分気を使ったつもりであるが、前者の学生にはすでに既知の内容であったかもしれないし、後者の学生には難しいすぎたかもしれない。後者の学生では、ほとんど授業を聞かずに「内職」をしていた学生がいたので注意したが、改善しなかった。基本的に授業内容を理解するための基礎知識が不足していたためと考えられる。次回に授業を実施する年度には、各学生毎の知識と考え方の向上を図ることを念頭に入れ、授業中に学生毎に異なる演習問題をやらせようとする。

# 結果報告書

授業科目名 生物科学特論Ⅱ  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 工藤 慎一      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1		1		3.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1		1	1		3.3
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			4.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		2			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



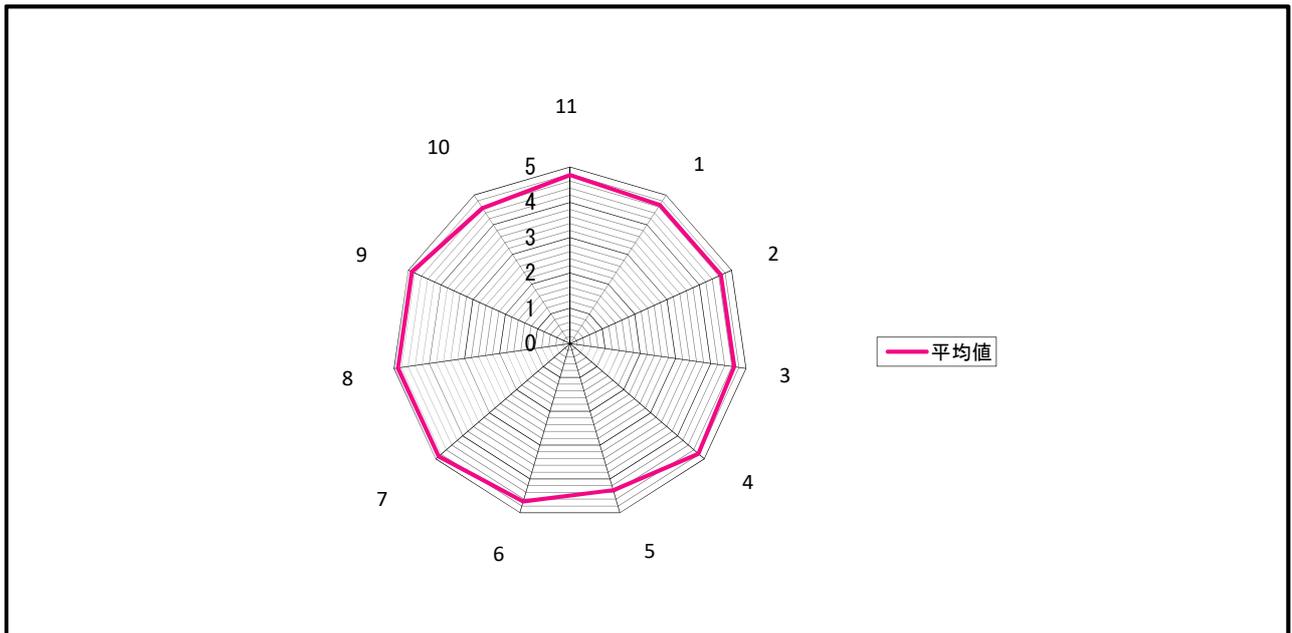
## 教員のコメント

例年通りの評価であり、特に改善すべきところはない。課題論文を与え内容を受講生自身に発表させる形態をとっているにも関わらず、アクティブラーニング実施の項目に2の評点を付けた受講生が存在した。この質問項目が無意味であることを端的に表しているのだろう。

# 結果報告書

授業科目名 声楽発声法  
 評価実施日 平成30年7月24日  
 担当教員名 頃安 利秀      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1	1			4.7
	(4)授業では、シラスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	1			4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6	3				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	1			4.6
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



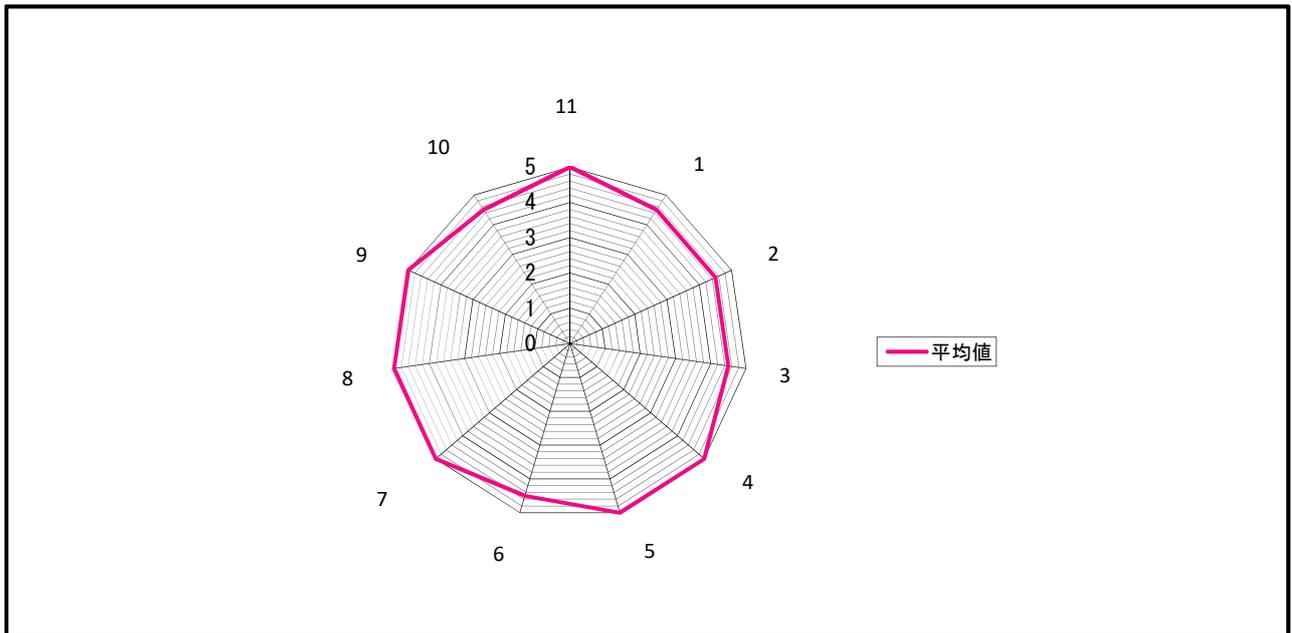
## 教員のコメント

総合評価において4.8と高い評価がなされている。特に質問項目(7)と(8)と(9)には4.9という評価がなされている。このことから、この授業が受講生に理解されやすいように工夫されたものであることが分かる。ただ質問項目(5)が4.3と若干低かったのは、この授業が声楽発声法という音楽の実技と深くかかわっている内容なので、ただ単に頭で理解するだけの授業でないことに起因するものと考えられる。そのことを除けば、すべて4.7以上の評価がなされている。(4)のアクティブ・ラーニングの項目に関しても、音楽の実技に係る授業では、つねに身体を使ったコミュニケーションが相互になされており、身体的アクティブ・ラーニングともいえるので、必ずしも言語的なものだけをアクティブ・ラーニングと考える必要はないので4.8という評価がなされたと思う。

# 結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 森 正 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



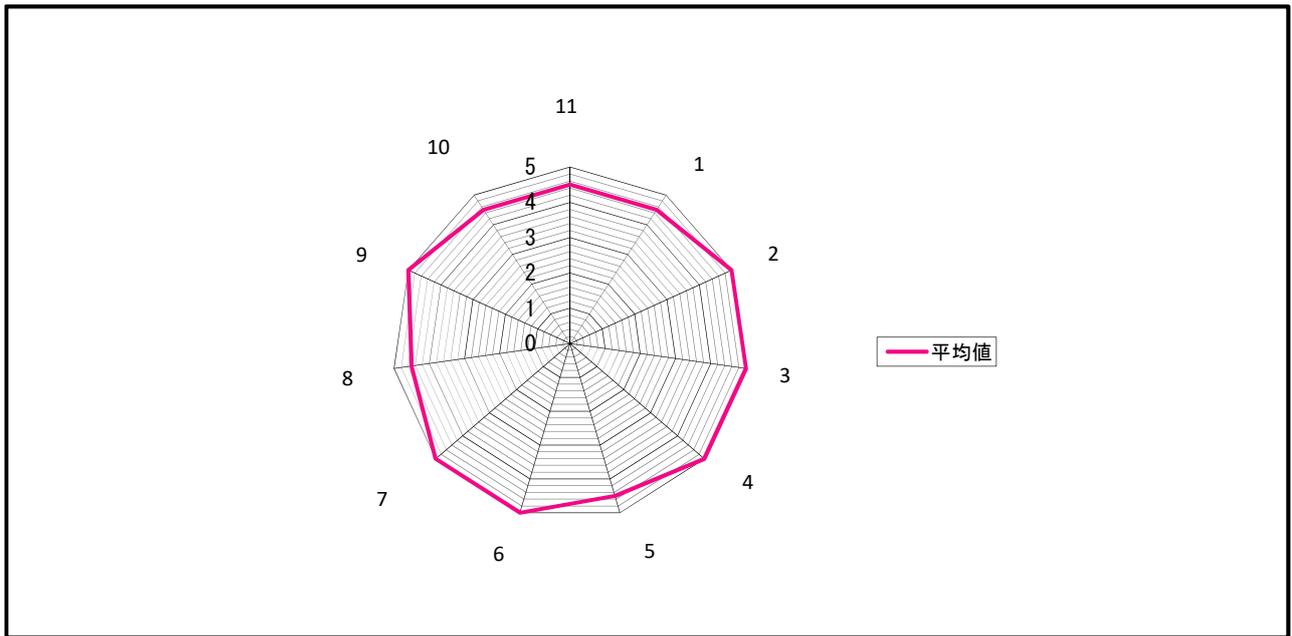
## 教員のコメント

学生からは概ね高く評価された授業であった。これまでは、音楽コースの学生が履修することがほとんどであったが、今年度は他のコースからの2名の受講生(うち1名は中国からの留学生)ということで、これまで以上に音楽に対する経験は様々なものがあつた。しかしアンケートの記述からもわかるように、それぞれが受講する目的を明確にしていたので、指導する立場からすると、その目的に合わせた教材を用いることが出来た。またこのようなことが、学生に授業に対する満足感を与えたのだと考える。大学院の授業ということで、教える内容を第一に考えてしまうことが一般的であると思うが、この授業のように座学ではない実技科目においては、個々の学生に適した授業を行うことにより、学生自らが、アクティブ・ラーニングに取り組む習慣を身につけることが可能になると思う。

# 結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法  
 評価実施日 平成30年7月31日  
 担当教員名 森 正 回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1					4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1					4.5



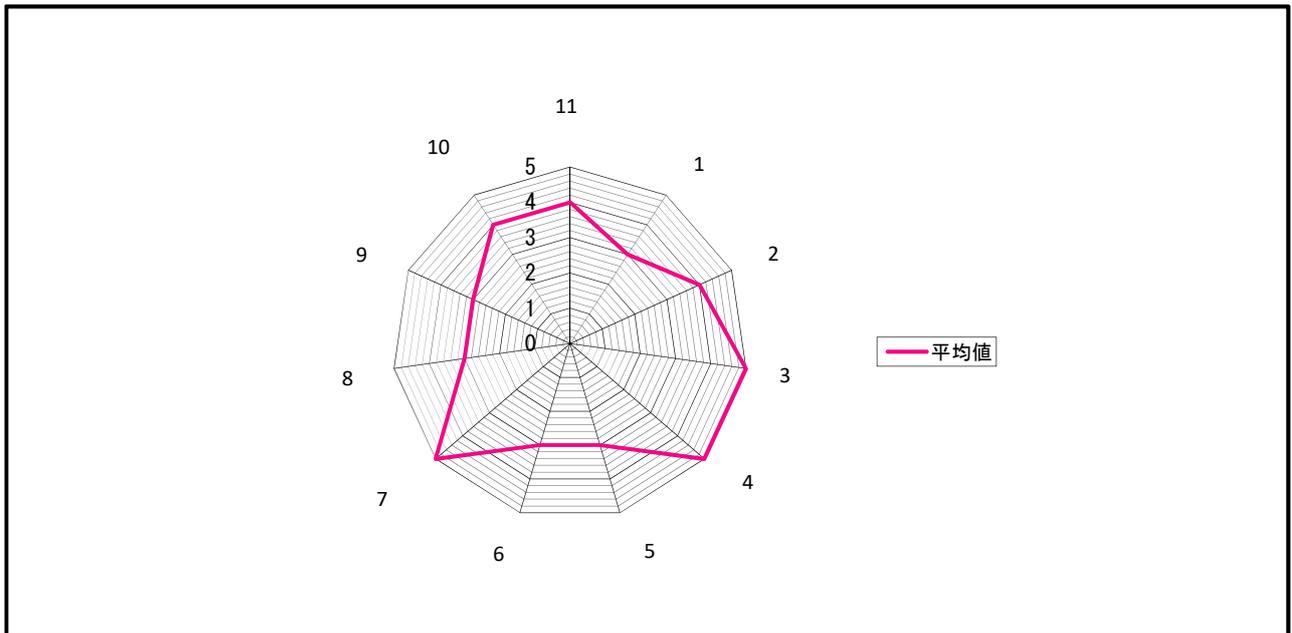
## 教員のコメント

これまでは、教員採用試験を受験する学生の履修が多かったが、今年度は中国からの留学生と他のコースの現職教員の2名の受講生で、特に教採を意識することなく、むしろ、より実際の授業を想定したものとなり、この点が受講生の希望に即したものとなったようである。これまでの、教採を想定した段階的に学習内容を深めていく授業の進め方よりも、多少取り留めのないものになってしまった感はあるが、その時その時の受講生の希望に応じる授業の進め方も、授業の本筋から逸脱しないのであるなら、積極的に検討されるべきであると考えた。

# 結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 森 正 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。			1			3.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。			1			3.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。			1			3.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。			1			3.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。			1			3.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		1				4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		1				4.0



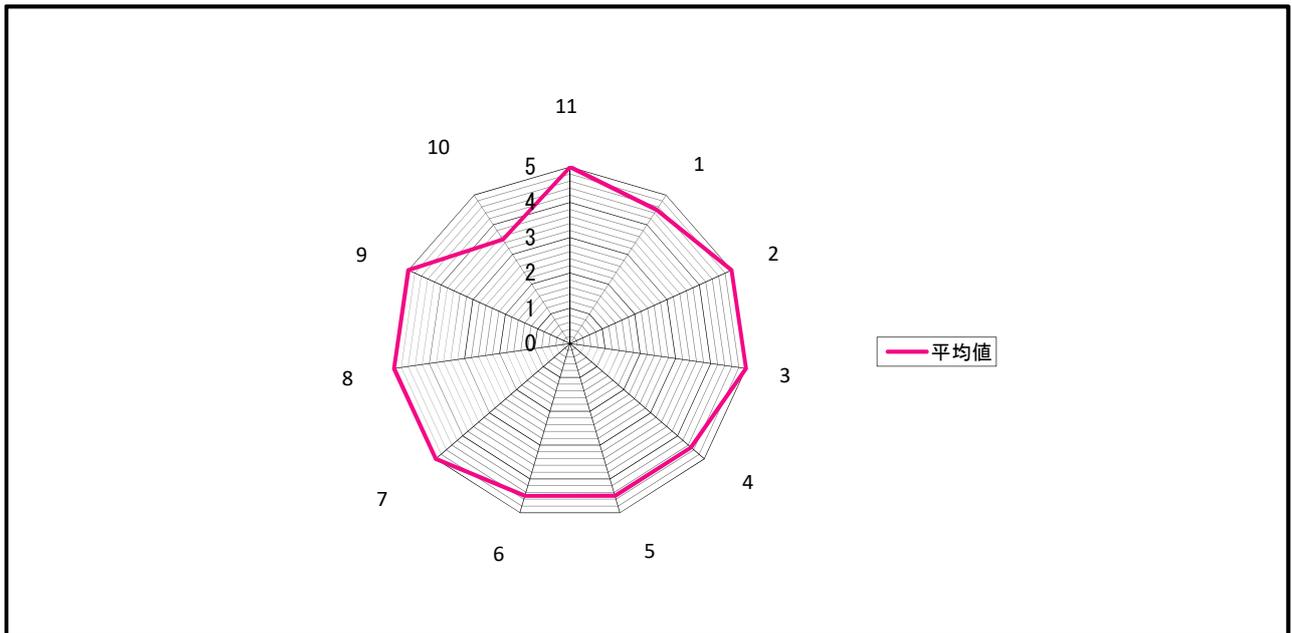
## 教員のコメント

今年度は、授業者が課題研究を指導する音楽コースの院生1名の受講であった。このような事情で、どうしても授業内容が課題研究に近づいてしまったことは確かであり、受講生はさらに幅広い内容を多面的に学習することを希望していたようであった。今後もこのような状況になることは予想されるので、これから授業内容や進め方等については検討する必要があると感じた。

# 結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 山根 秀憲                      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1					4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	1					4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1			1			3.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



## 教員のコメント

受講者が2名であった。二人とも管楽器演奏の経験が豊富である、基本的な事項は十分に理解していた。一人は、専門とする楽器ではなく、現在の学校音楽教育にとって課題である、日本伝統音楽の分野の管楽器である篠笛を通して日本的情緒の表出をいかに行うかについて探求した。もう一人は、バロック時代の管楽器として重要な位置を占めているアルト・リコーダーを用いて、その代表的な作品である、ヘンデルのリコーダー・ソナタの演奏法を概観した。特に、装飾法のあり方に重点をおいた。

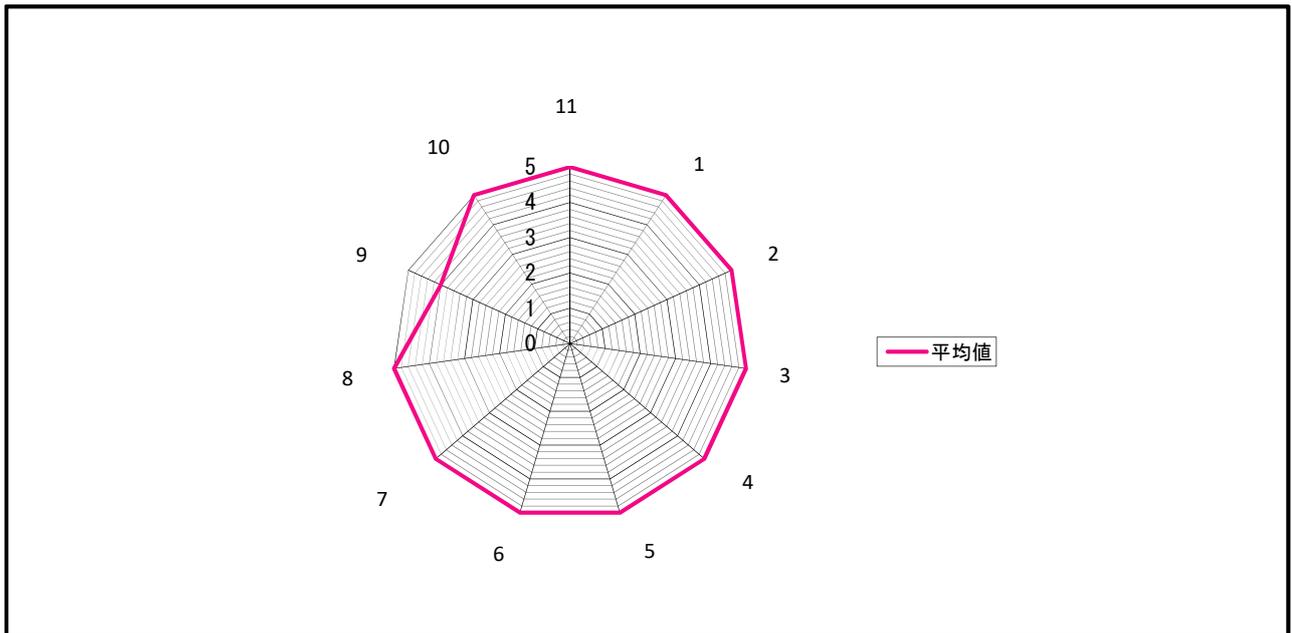
受講者の対象としている分野が異なっているため、アンサンブルを行う機会はなかった。篠笛の受講者に対しては、教師も篠笛を演奏し、曲想の作り方について多様な方法を試みた。リコーダーの受講者に対しては、教師が基礎となる通奏低音を担当し、基礎的な和音とその転回形が生み出す音楽の陰影を解説しながら、ともに演奏した。

二人とも演奏に対して意識が高く、内容の濃い授業であったと思う。

# 結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 山根 秀憲 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

受講者が2名であった。二人とも管楽器を専門とする受講者で、演奏に関する基本事項を十分理解している。しかし、和音を構成する各音の音程の取り方に関する理解が不十分であったため、その特性について、実際に音を出しながら説明した。一人は、課題研究との関連から研究対象として作曲家の楽曲を概観する形をとった。調性、通奏低音との対話性を中心に探求した。もう一人は、課題研究との関連からヘンデルのリコーダー・ソナタの演奏法を概観した。緩徐楽章の自由装飾法やダンス・タイプに関連する楽章ごとの差異を中心とした。

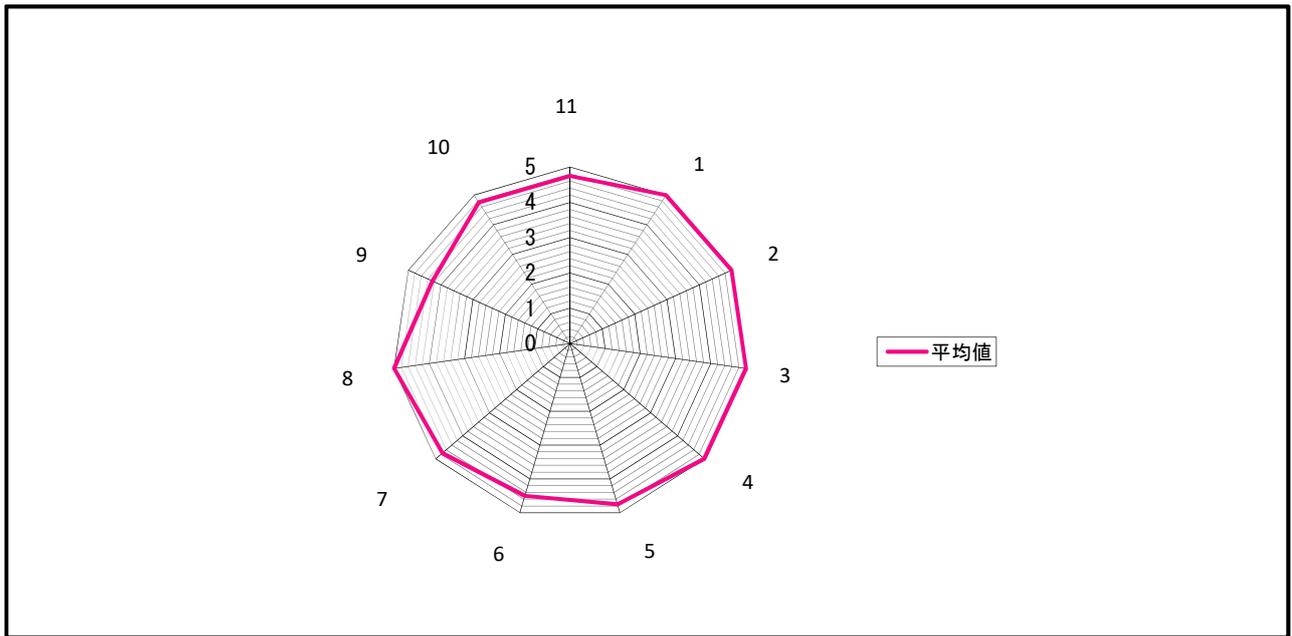
質問項目「(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」については、授業の性質上、楽曲の大枠から細部に渡って受講者と教師の対話を通して進めるため、板書や視聴覚機器を使用する必要はない。

二人とも演奏に対して意識が高く、内容の濃い授業であったと思う。

# 結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 山田 啓明      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3		1			4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



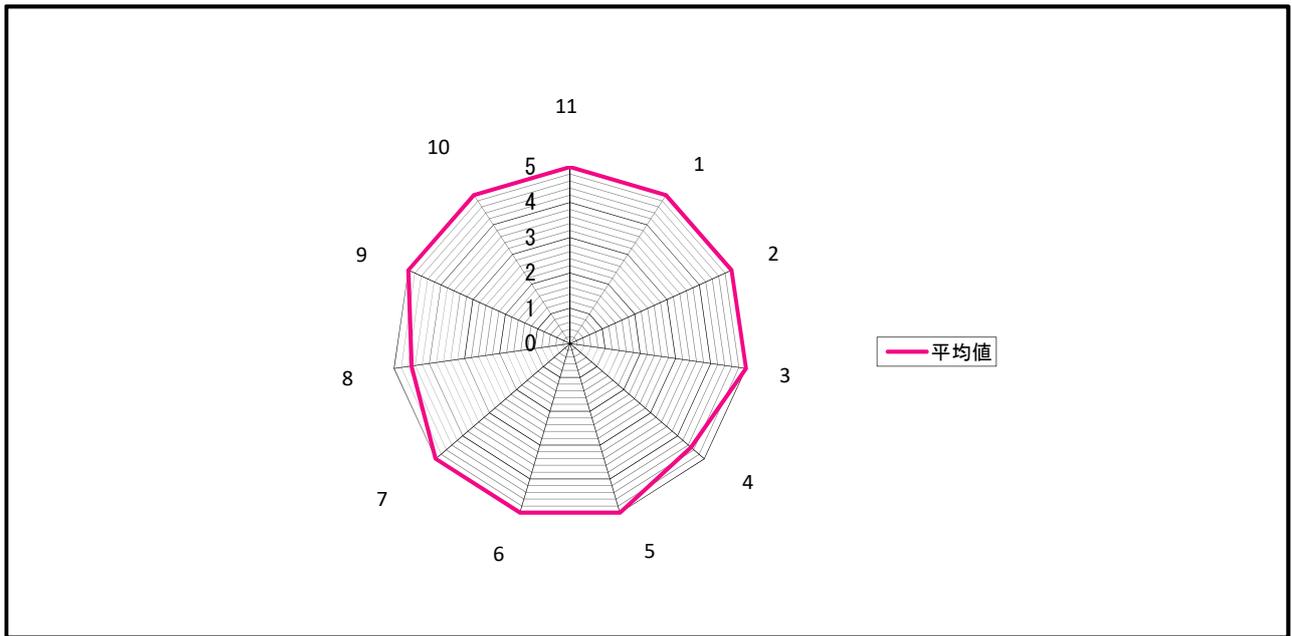
## 教員のコメント

この授業は、ピアノや声楽といった他の実技科目と比べ、授業における表現活動の指導法に直結する実技なので、学生たちの関心も高く、例年高い評価をしてもらっている。授業の進度については、一人一人の習熟度の違いに関わらず、同一の課題を与えるので、ややついてこれない学生がいたのかもしれない。

# 結果報告書

授業科目名 絵画制作研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 鈴木 久人      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



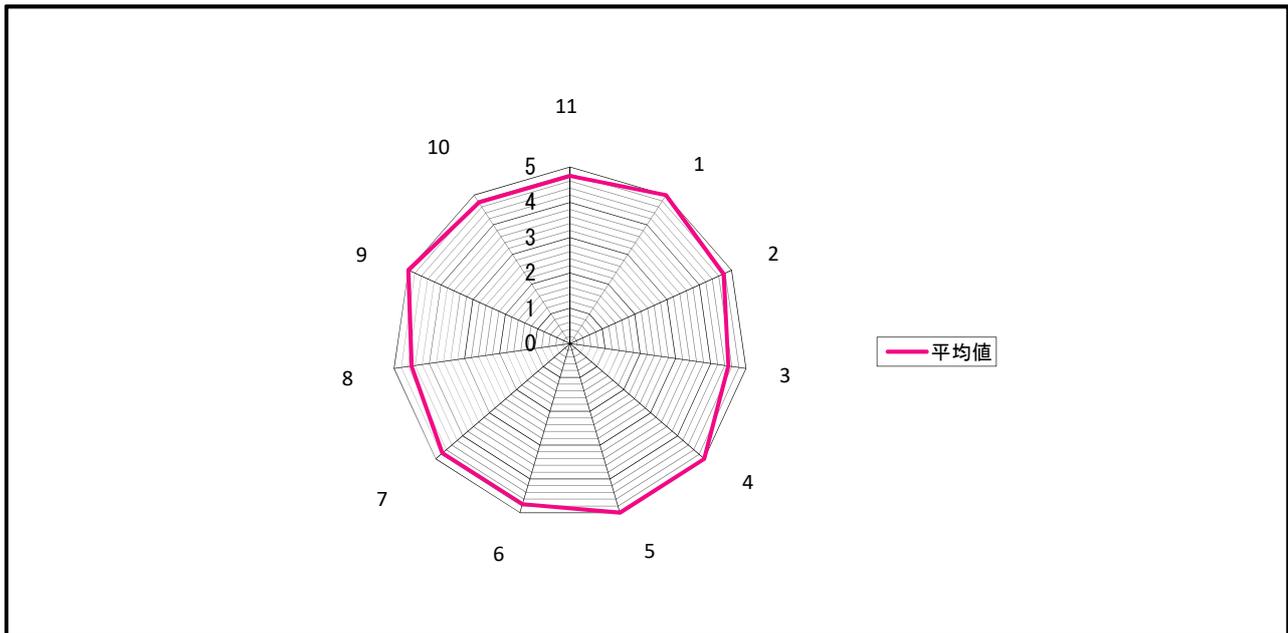
## 教員のコメント

評価選択の項目は5.0あるいは4.5の平均値であり、「総合評価」の項目も5.0であったことは、この授業について学生は満足しているものと判断する。特定の項目に低い評価がなく、4.5以上の平均値である点も授業について理解があったものと思う。ただし、受講生は2名でありデータとして満足なものかは考える必要がある。また自由筆記欄も好意的なものであった。

# 結果報告書

授業科目名 石彫制作演習  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 野崎 窮                      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		1			4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3		1			4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



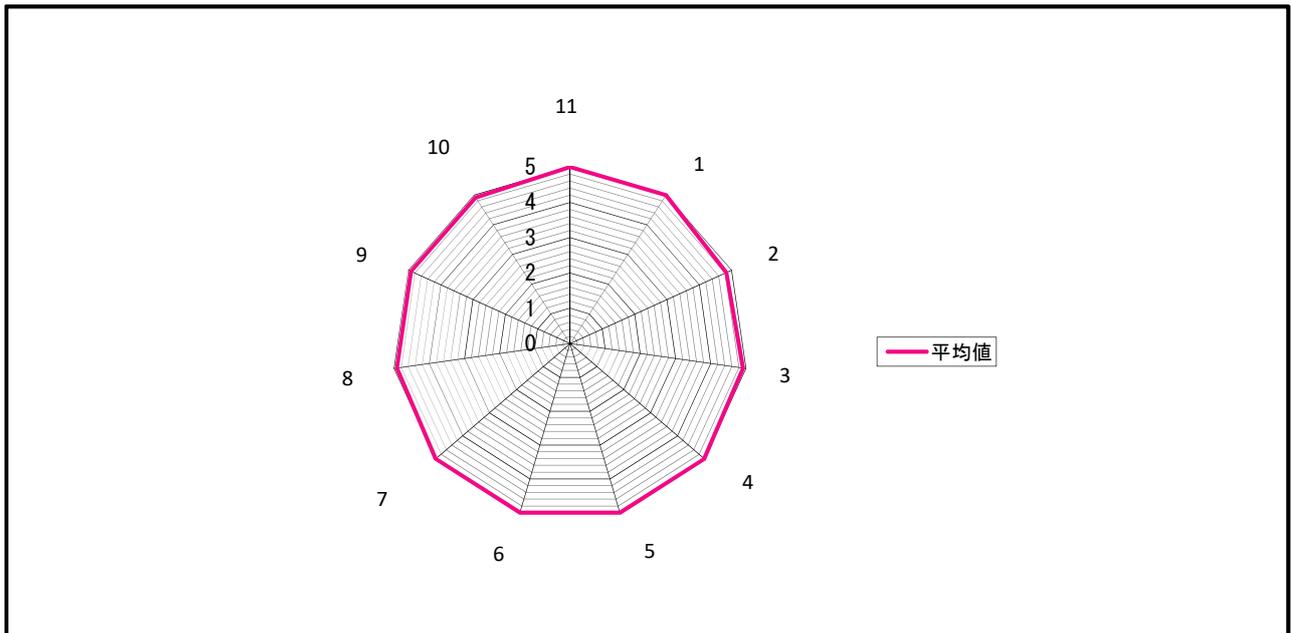
## 教員のコメント

アンケート回答者の4人中、3人がすべての項目に5であったし、総合評価として4.8になっているので特に反省点はないと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 栗原 慶                      回答者数 12 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1					4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	12						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	12						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	1					4.9
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	1					4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12						5.0



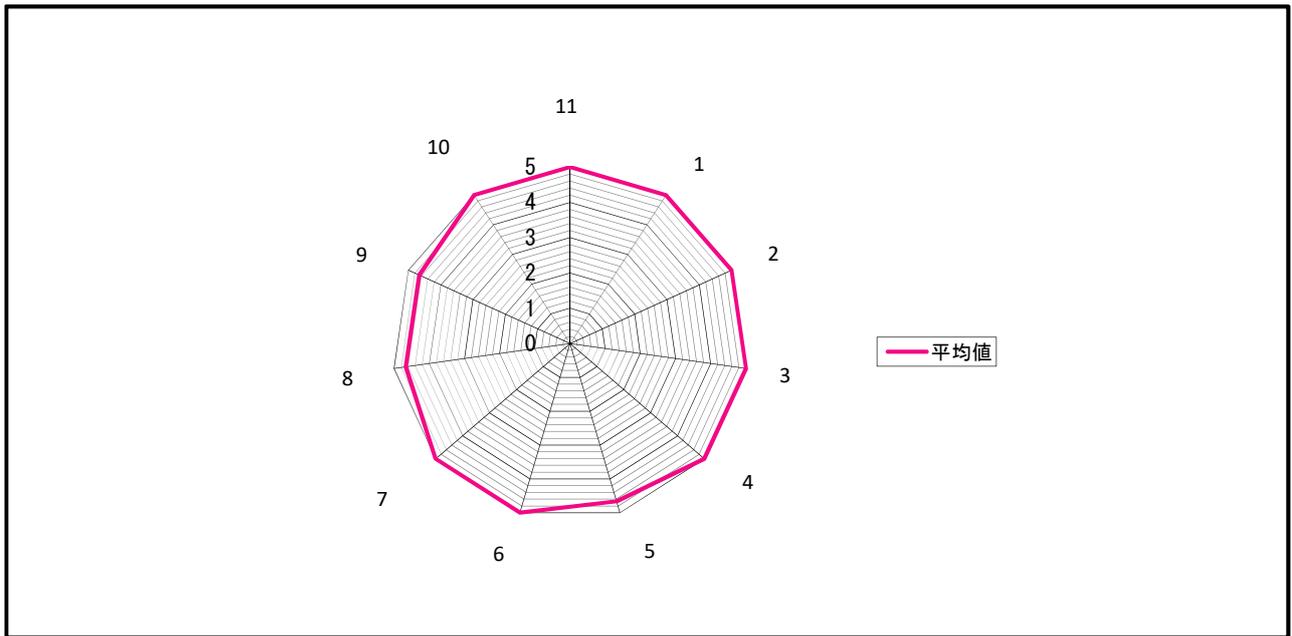
## 教員のコメント

総合評価が5.0ということで、受講生の理解や満足度はほぼ得られたと考える。留学生が多く受講し、日本の陶芸文化に対する関心の高さが伺えた。(2)の専門的知識を深めるのに役立つ内容については、4の評価が2名で平均値が4.8であった。ろくろの技法や釉薬作りなど専門的な内容についても可能な限り取り入れたつもりだが、時間内に終わることや、全くの初心者への対応も考慮すると調整が難しいところであった。この評価結果は、陶芸自体の興味深さに助けられ、学生が主体的に取り組んでくれたことが要因だと考える。

# 結果報告書

授業科目名 芸術学研究  
 評価実施日 平成30年7月31日  
 担当教員名 小川 勝                      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



## 教員のコメント

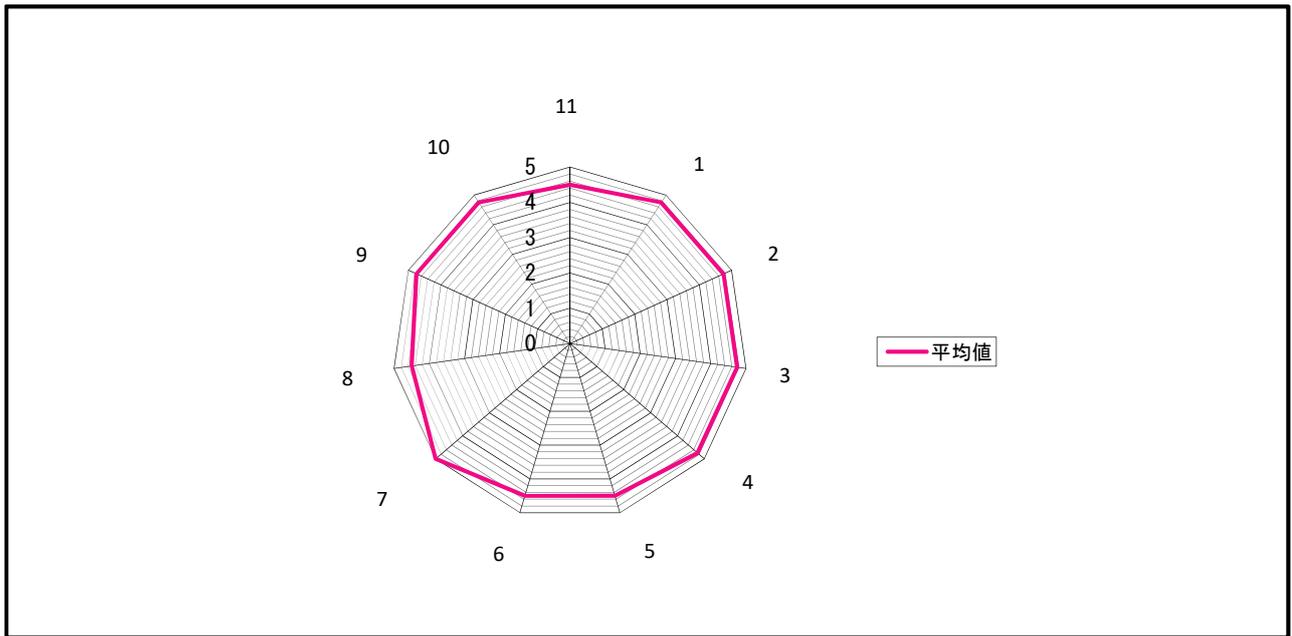
担当者として、現在研究している最新の成果を受講者と一緒に考えることを目指したが、概ね、その主旨は受け入れていただいたのではないかと考えている。しかし、まだまだ、評価などに満点をいただけていないので、今後とも受講生とのコミュニケーションを豊かにして、よりよい授業を構築してゆきたいと考えている。



# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(美術科)  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 山田 芳明,小川 勝,鈴木 久人,野崎 蔚,山木 朝彦,栗原 慶,内藤 隆 回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1			4.5
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	2				4.5



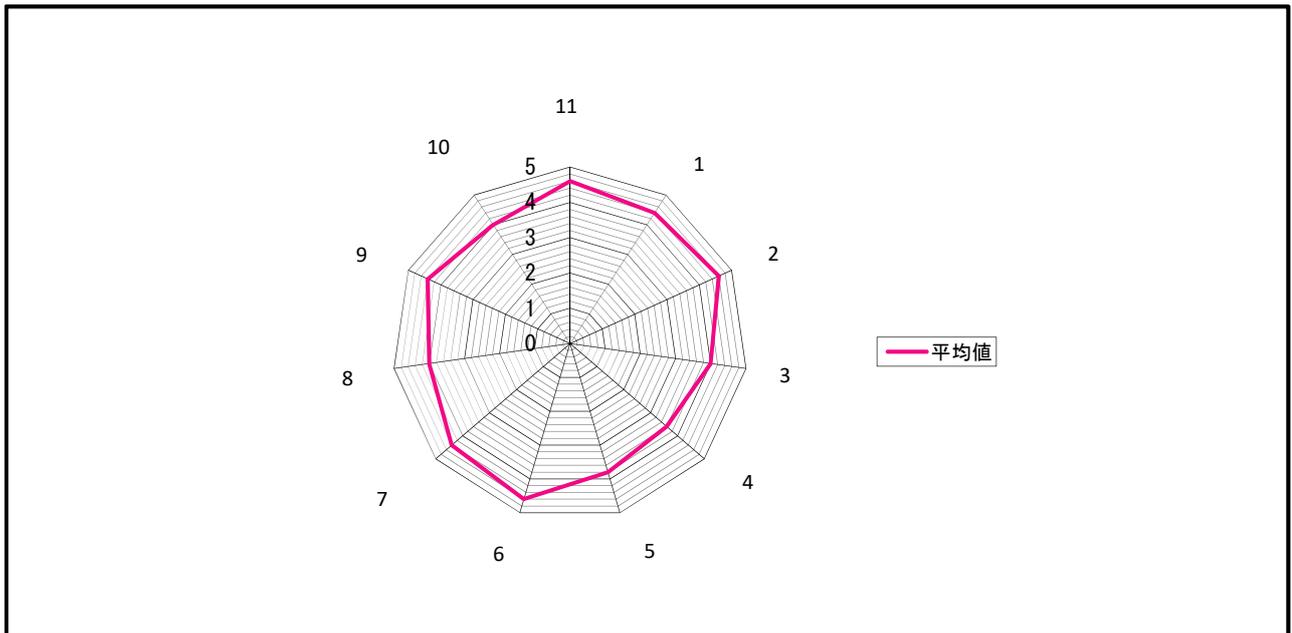
## 教員のコメント

本年度は受講生は4名と少数であるため、統計的な分析は適当ではないものの、全ての項目にわたって受講生全員が高い評価をして  
 くれたことから、学生にとって、意義のあるものであったと判断する。  
 学生の肯定的なコメントには、次のようなものがあった。  
 「芸術の中の様々な分野の指導案、授業案を考えることができたので、勉強になった。」  
 「実践的な教材研究ができたこと」「授業案を考える課題がほとんどだったため、実践力が身につくそうだと感じた」  
 一方で、次のような改善点の指摘もあった。  
 「課題で精一杯だった」「各分野で、課題の統一感が薄かったり、重要度に違いがあるように感じた」「実技と、教材研究や指導法の繋がりが  
 むずかしいのではないか」  
 次年度から大学院が改変されるため、本授業は本年度が最後となる。  
 現場の中学校、小学校では次年度から新しい学習指導要領が全面実施されることもあり、今回の改善への指摘をもとに、新課程での授  
 業においても、学生にとって有意義な授業となるよう今後も授業改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 木原 資裕      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	1			4.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1	3			1	3.6
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3		1		3.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4		1			4.6
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	1			4.4
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2		1		4.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3	1			4.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



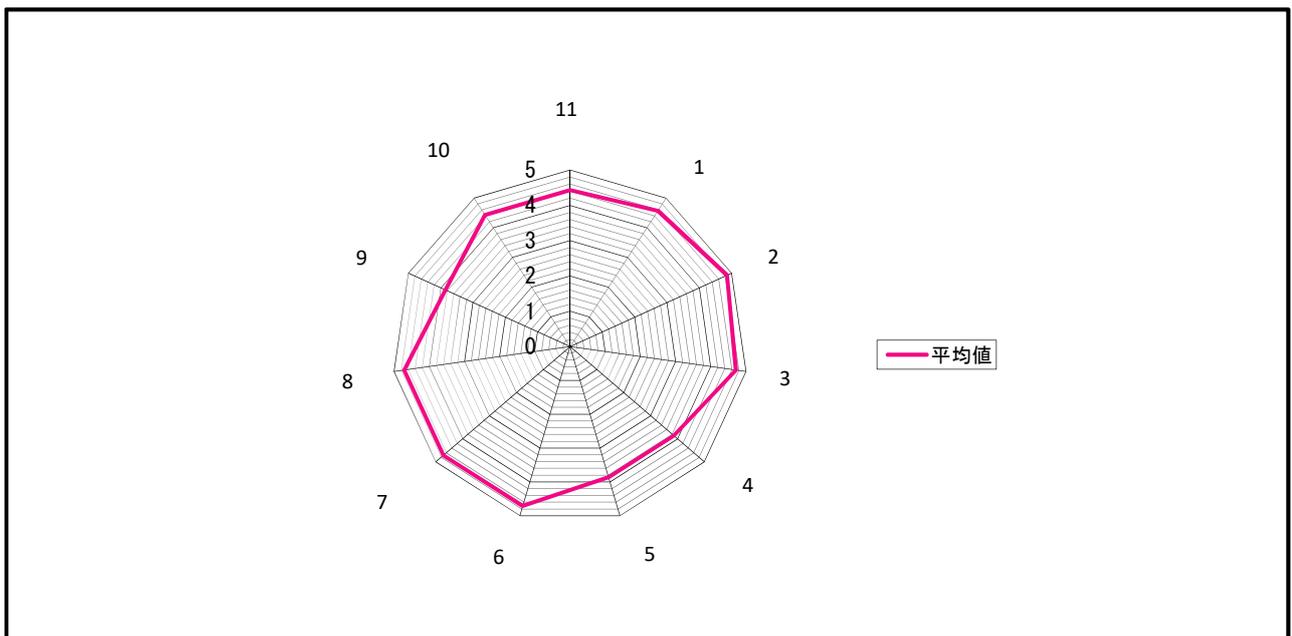
## 教員のコメント

「(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」は平均値4.6であり、受講生よりはますますの評価を得ていると思われる。ただし、「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」「(5)成績評価の方法の説明は適切であった」の項目が、平均値3点台であり、大いに授業内容・方法を検討すべきであることを示している。次年度には受講生が納得いく授業展開を実施したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究  
 評価実施日 平成30年7月31日  
 担当教員名 藤田 雅文      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	2	1		1	3.9
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	3			3.9
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	6		1			4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3	1	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2	1			4.4



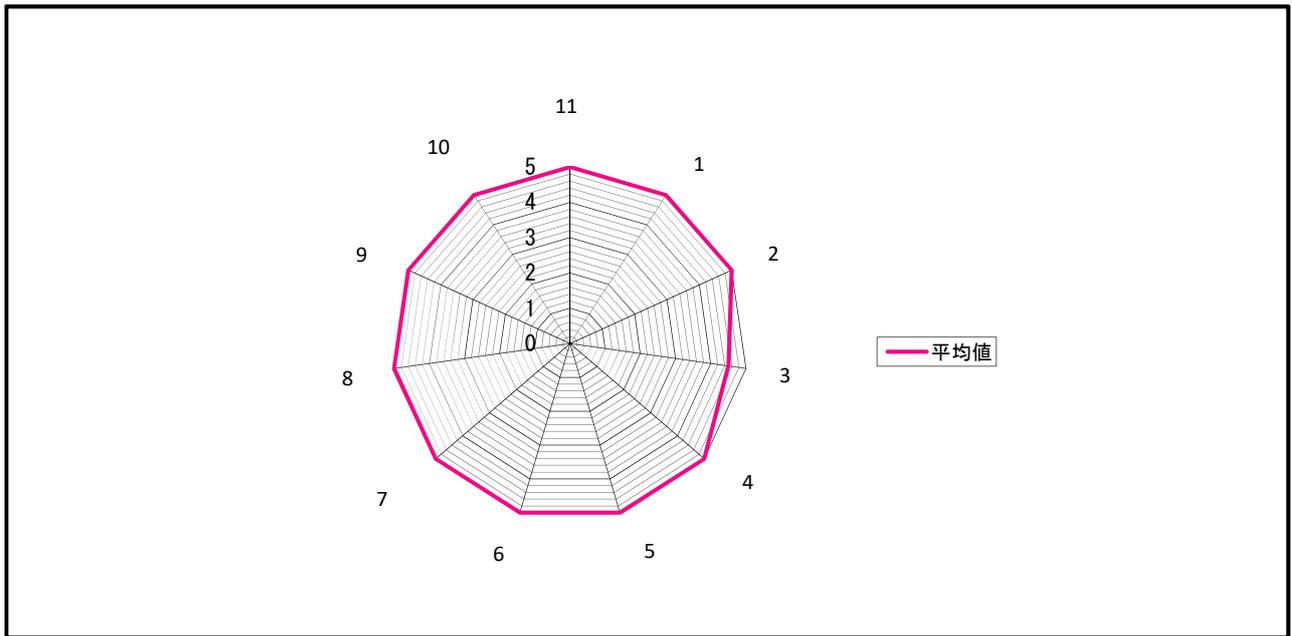
## 教員のコメント

総合評価の平均評価点は4.4であり、高い評価を得たと考えている。  
 アクティブラーニング、成績評価の説明、視聴覚機器の使用に関する評価が低いため、来年度以降は改善していきたいと考えている。  
 良かった点について、6名から以下の回答があった。  
 1. 資料が多く配布され、内容が具体的であった。  
 2. 体育施設の管理の仕方がよくわかった。  
 3. 学校体育経営の進め方や体育祭などの体育的行事の運営の留意点を深く学べた。  
 4. 学校現場で重要な体育経営について深く学べた。  
 5. 質疑応答など、意見交換の機会があつてよかった。  
 6. き学校体育経営について、教師になった時に注意すべき点がよくわかった。  
 改善点についての記述は、以下の通りである。  
 1. ICTやアクティブラーニングをもっと活用してほしい。

# 結果報告書

授業科目名 運動学研究  
 評価実施日 平成30年7月20日  
 担当教員名 乾 信之                      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



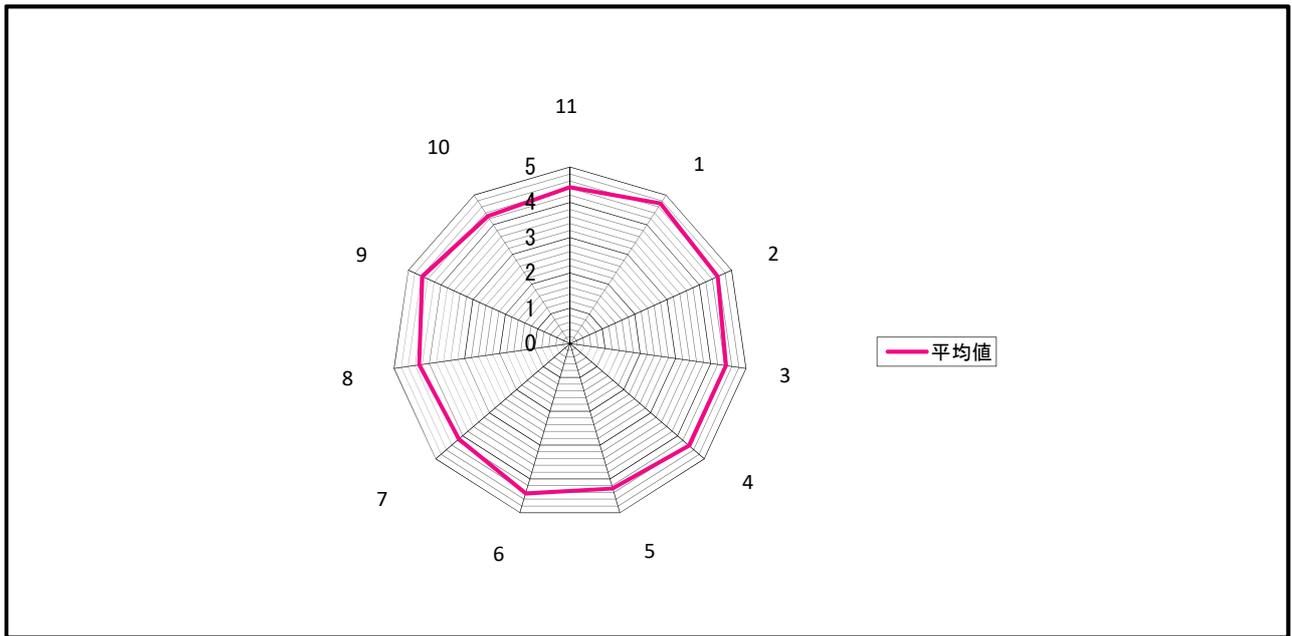
## 教員のコメント

2人の受講生が時間ごとに交互に発表を行う形式で行った。一人は剣道の授業研究、もう一人は器械体操の授業研究について発表と討論を行い、数回の修正を経て、最終的にレポートにまとめてもらった。文字通り、受講生は毎時間能動的に課題遂行に関わり、少人数のメリットが活かされた授業となった。

# 結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 松井 敦典                      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	1			4.4
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	5	1		1		4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2		1		4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1			4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	3		1		4.1
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	2			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5		1	1		4.3
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2	1			4.4



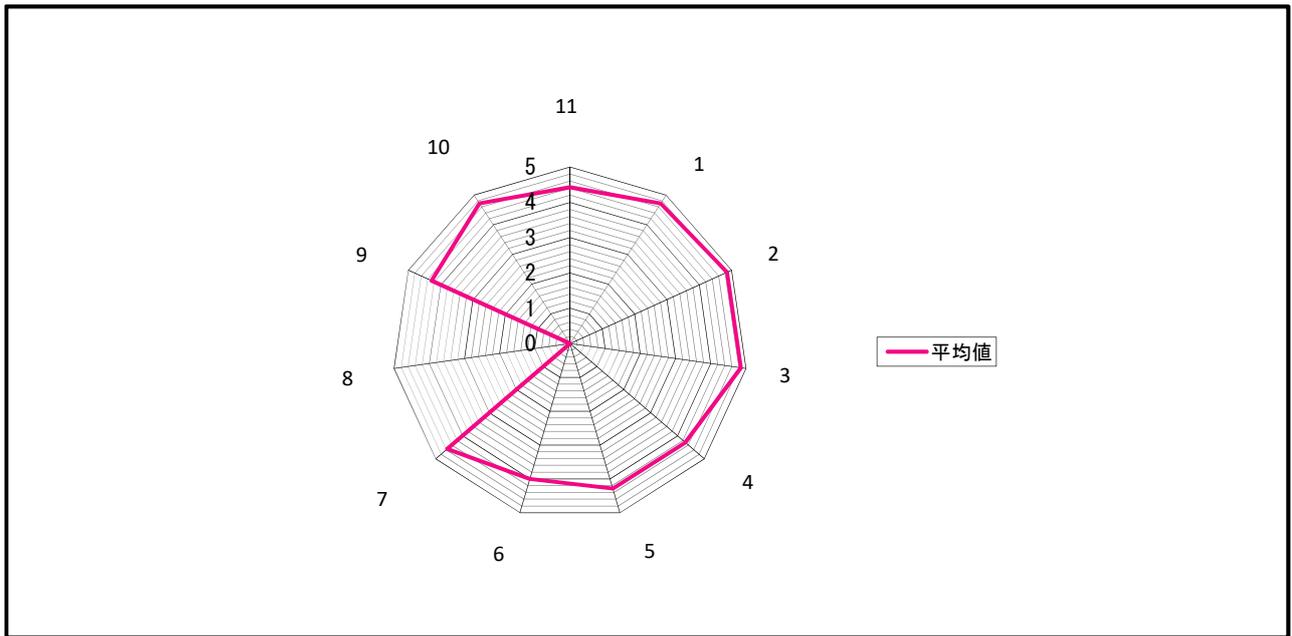
## 教員のコメント

本年度の授業評価の結果は、得点評価に関しては例年並みであった。  
 しかし、自由記述形式の回答を求める問いについては、授業内容が論理的でわかりやすい、実践的でスポーツの指導等に活用できる、などの記述が見られ、概ね好評を得ているようである。  
 また、授業方法としてミニ実験や課題に対するプレゼンテーション、それに対する討議を含めた。このことについてもアクティブラーニング的であったとの評価が多かった。  
 本授業は修士課程の専門授業であるため、来年度が最後の開講年になる。最後の受講生に対しても最善の授業を提供していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 運動生理学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 田中 弘之                      回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	2		1			4.3
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	1				4.3
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	2			1		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	6			1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。							#####
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1		1			4.4



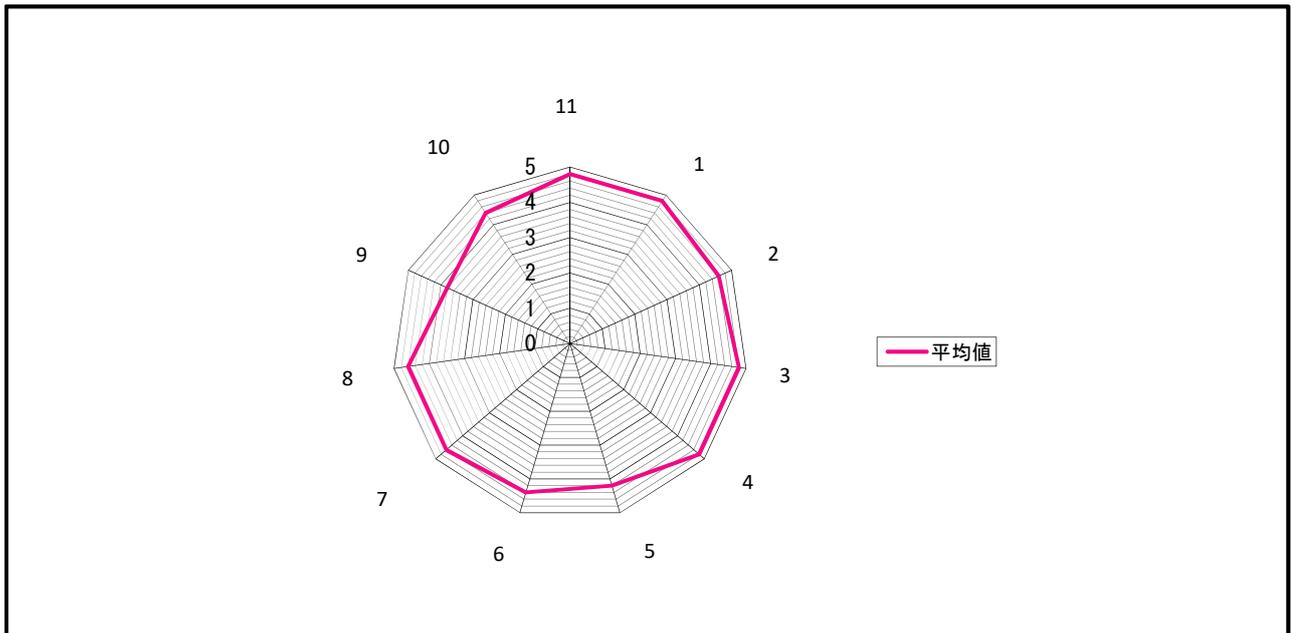
## 教員のコメント

評価の平均値は4.5であり、総合評価においても4.4と判断されていることから、例年通り、当初の講義目的は概ね達成されたと考えられる。  
 【授業に主体的・積極的に取り組んだ。】について、『課題に積極的に取り組んだ。』『他の受講生と話し合う機会があり良かった。』『授業内容は知識を得られたとともに、活用方法が分かるものであった』など、主体的、能動的な学修意識の昂揚があり、授業改善の一定の成果が得られたと思われる。  
 その他の自由記述欄の概観では、『学びながら楽しいと思えたことは、教師としてのあるべき姿を示していただけた。』『大変勉強になった。』『ありがとうございました。』など、概ね好評であった。  
 改善すべき点として、『(6)授業の進む速さは、適切であった。』の項目において、“1”の評価者が1名おり、受講者間における基礎学力の差異への配慮が重要であると思われる。また、『(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。』の項目において、“2”の評価者が1名いたが、他の受講生からは『アクティブ・ラーニングがとても多く授業に参加できた。』との自由記述もあり、今後も受講生の反応を確かめながら、有益な授業実践に一層の創意工夫を重ねたい。

# 結果報告書

授業科目名 保健体育科教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月23日  
 担当教員名 湯口 雅史      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	4		1			4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	2			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



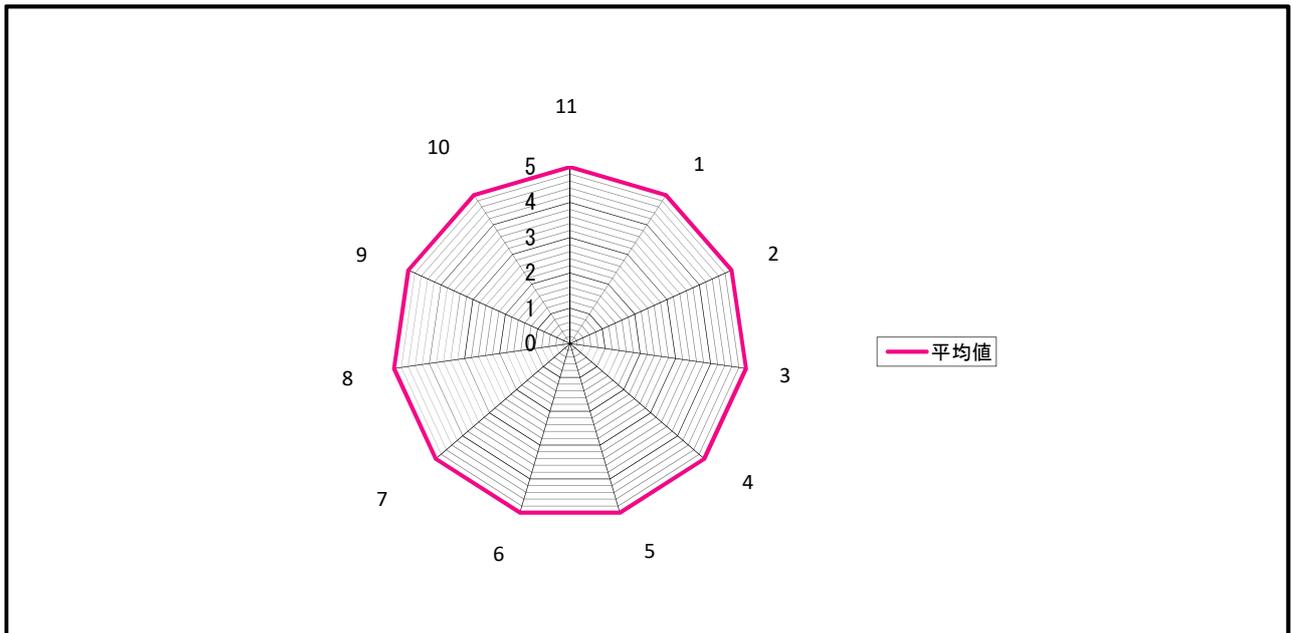
## 教員のコメント

本授業は、日本における最新の体育理論の文献を読み解く中で、学生の思いや考えを引き出しながらディスカッション形式授業を展開した。毎回、分担したページのレポートを授業資料として提出しその内容に付いての説明、自分なりの解釈を加えながらレポーターが主となり話題を提供した。学生は、今自分もっている体育観を文献を参考に、確認したり再構成したりしていた。レポートを媒介にしたディスカッション形式だったため、情報機器の活用や板書の値が低いのではないかと考える。レポートとプレゼンの選択で話題提供をさせてもよかったのかもしれない。来年度の課題としたい。

# 結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 宮本 賢治      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



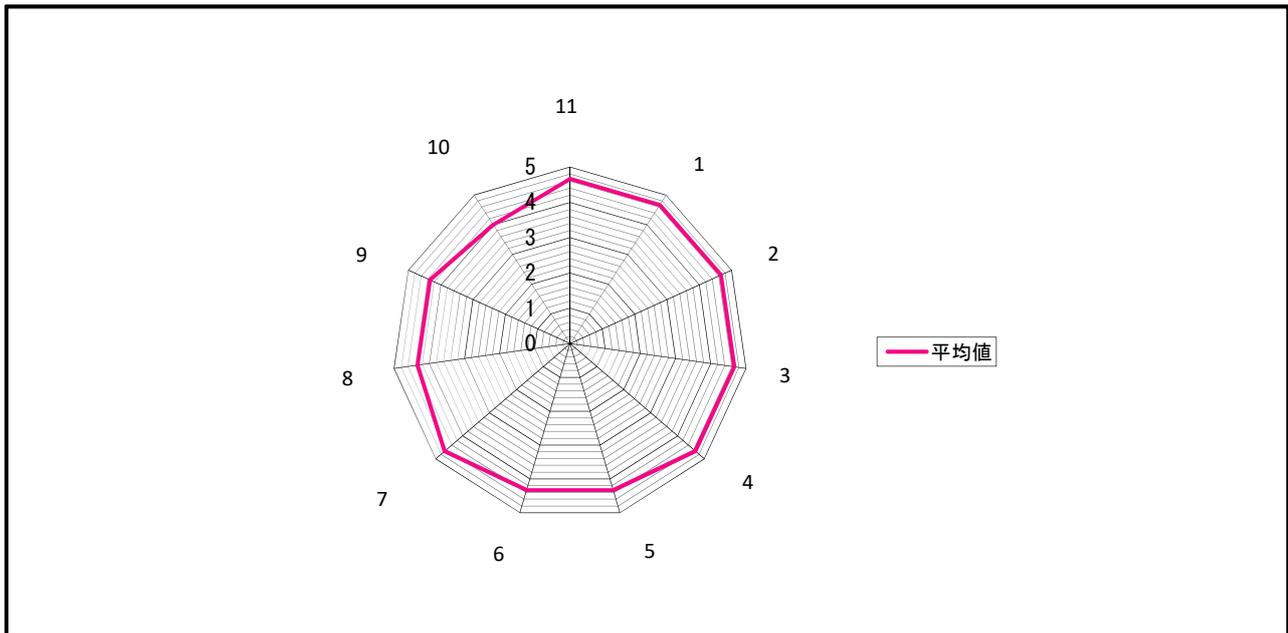
## 教員のコメント

受講者が2名で統計的には不十分であるが、すべての項目で5.0という高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 機械工学研究  
 評価実施日 平成30年7月25日  
 担当教員名 宮下 晃一      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3				4.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



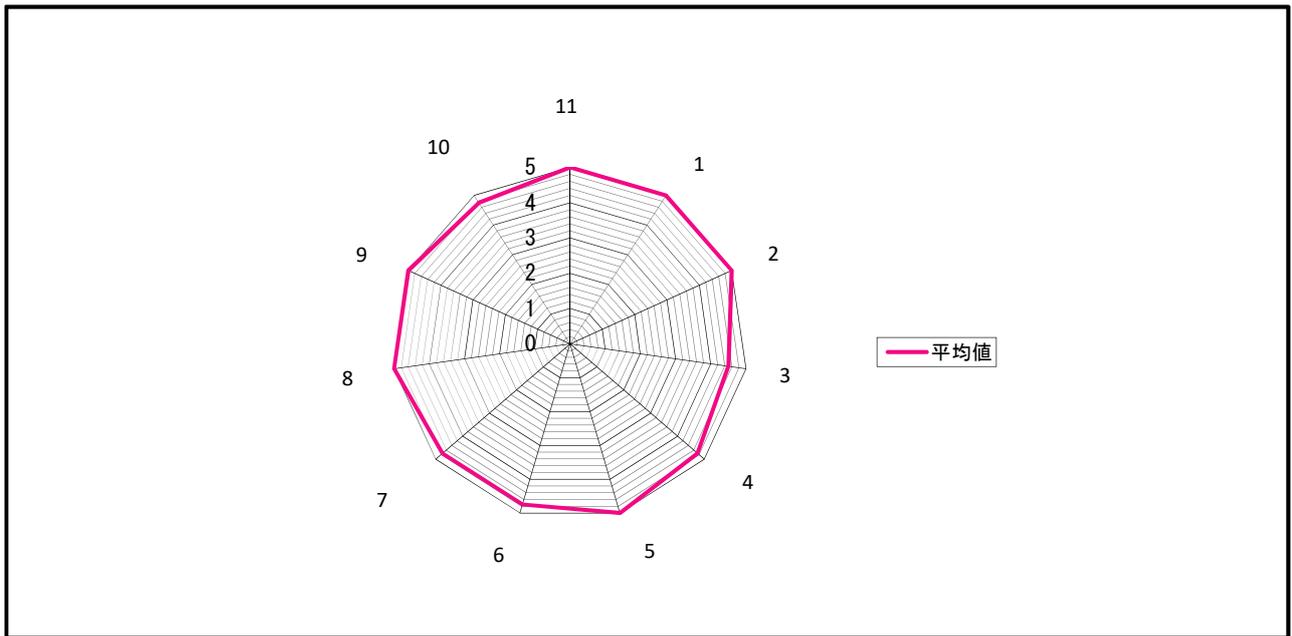
## 教員のコメント

概ね高い評価を得た。今回の授業では、個々の受講生が自分の理解と進度に合わせて課題にアクティブに取り組めるように授業を工夫した点が高い評価につながったものと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 情報科学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 伊藤 陽介      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



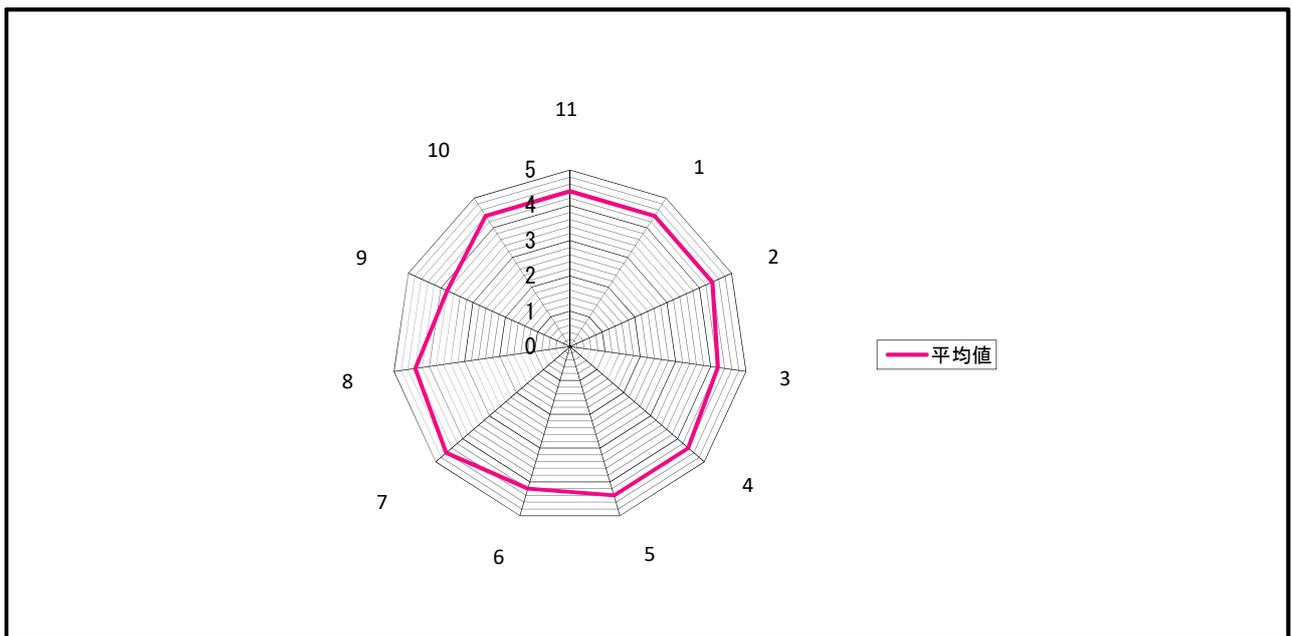
## 教員のコメント

授業内容に関する評価や総合評価、受講生からのコメントなどから、本授業はほぼ満足されていると考えられる。今後、授業内容と学校教育の関連性についてよりわかりやすく解説する必要がある。

# 結果報告書

授業科目名 技術科教育研究  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 尾崎 士郎,宮下 晃一      回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3					4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3					4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4					4.2
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	3					4.4
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3					4.4
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1	4					4.2
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3	2					4.6
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3					4.4
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	2				3.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3					4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	3					4.4



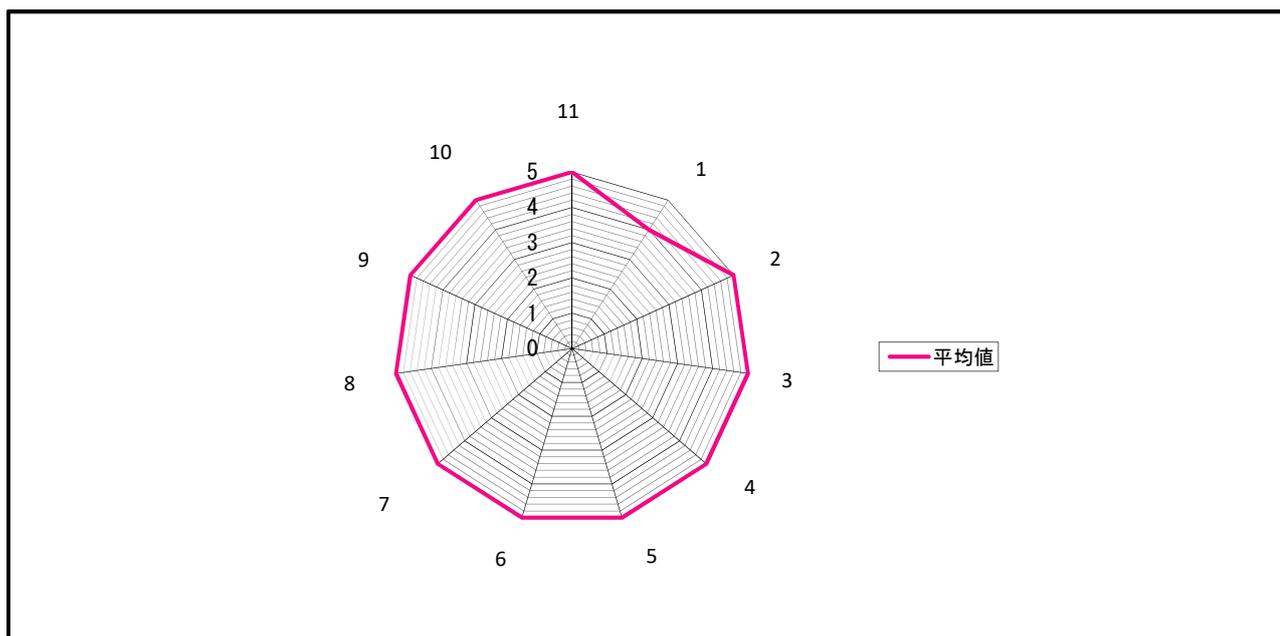
## 教員のコメント

ほぼ例年と同じ評価か、相対的に少し低い評価であった。ゼミ形式による授業で、特に担当者のほうから一斉授業を行う方式を少なくして、発表や討論形式で行った。また視聴覚機器については、受講者が発表内容を説明する際にPCほかを利用して行い、授業担当者はオリエンテーションで利用したのにとどまったことを反映しているように感じる。当面は、同じ方式で継続したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 情報科教育研究Ⅱ  
 評価実施日 平成30年9月14日  
 担当教員名 森山 潤 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		1				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



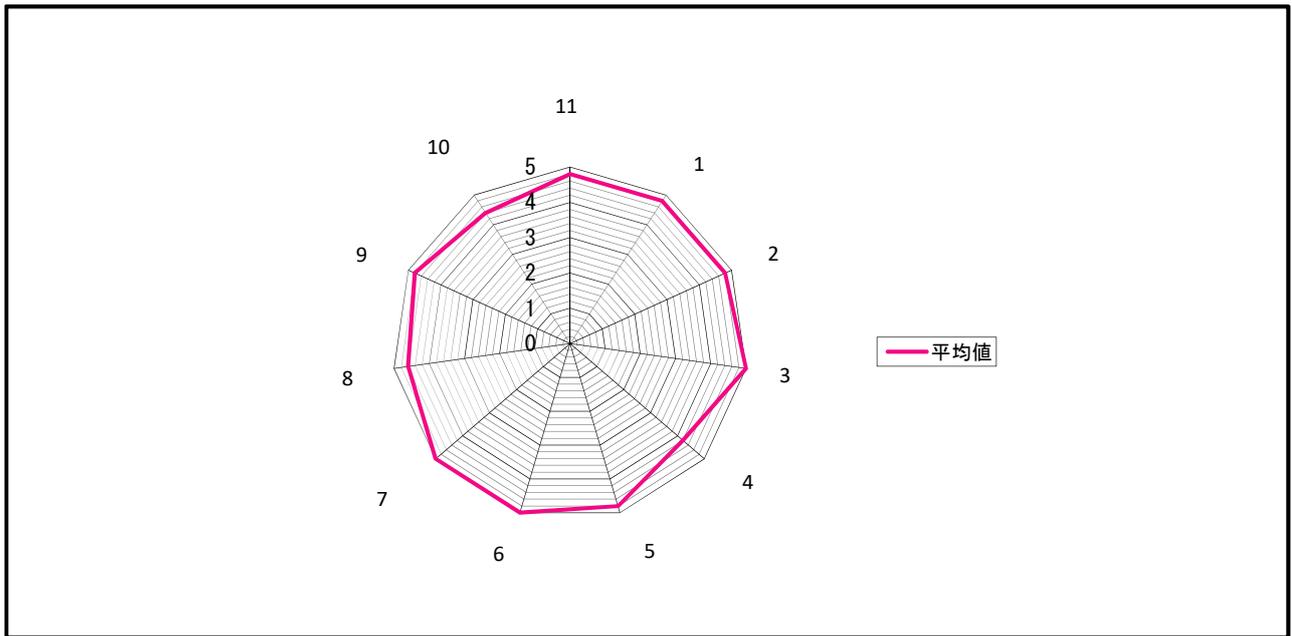
## 教員のコメント

概ね良好な評価を頂きました。今回の結果に慢心せず、引き続き教材や学習活動のデザインについて改善を進めていきたい思います。

# 結果報告書

授業科目名 教育と情報活用  
 評価実施日 平成30年9月23日  
 担当教員名 益子 典文      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2	1			4.2
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



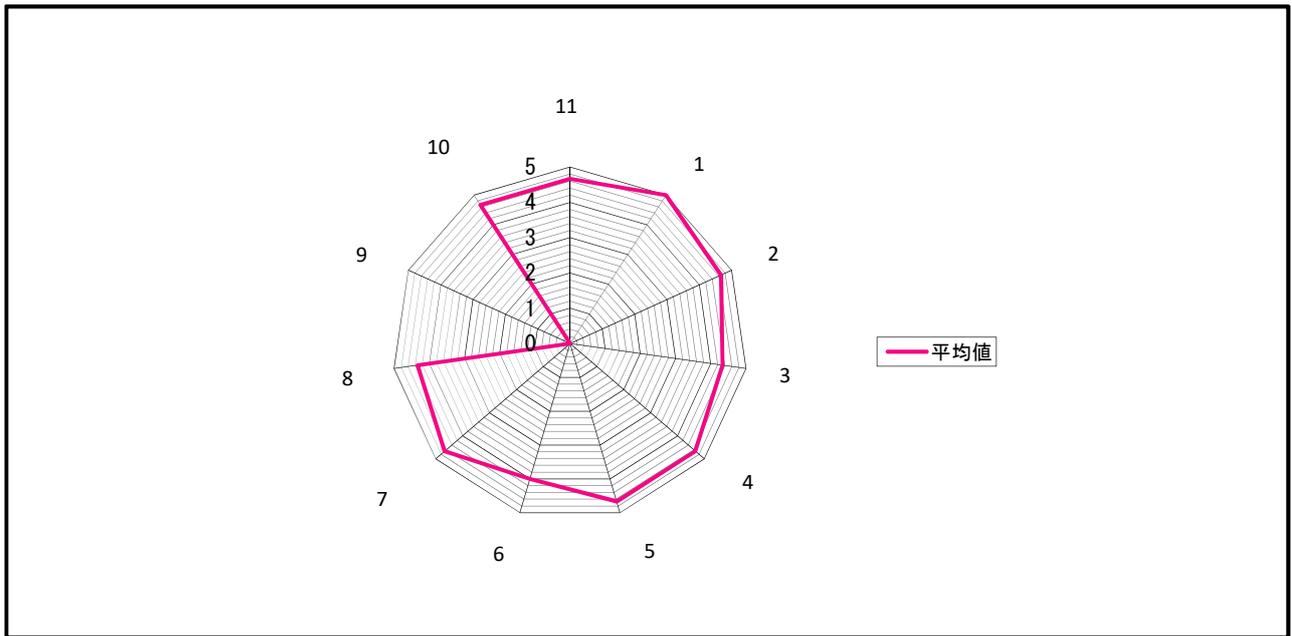
## 教員のコメント

受講生5名でしたので、私と受講生がそれぞれ対話しながら進めることができました。  
 アクティブラーニングについてはやや低い評価ですが、受講生同士の対話活動をあまり設定しなかった点が反映したのと思われます。  
 個別課題に加え、1つの課題に集団で取り組むような工夫が必要と考えています。

# 結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究  
 評価実施日 平成30年7月26日  
 担当教員名 黒川 衣代      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2		1			4.3
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2			1		4.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						#####
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



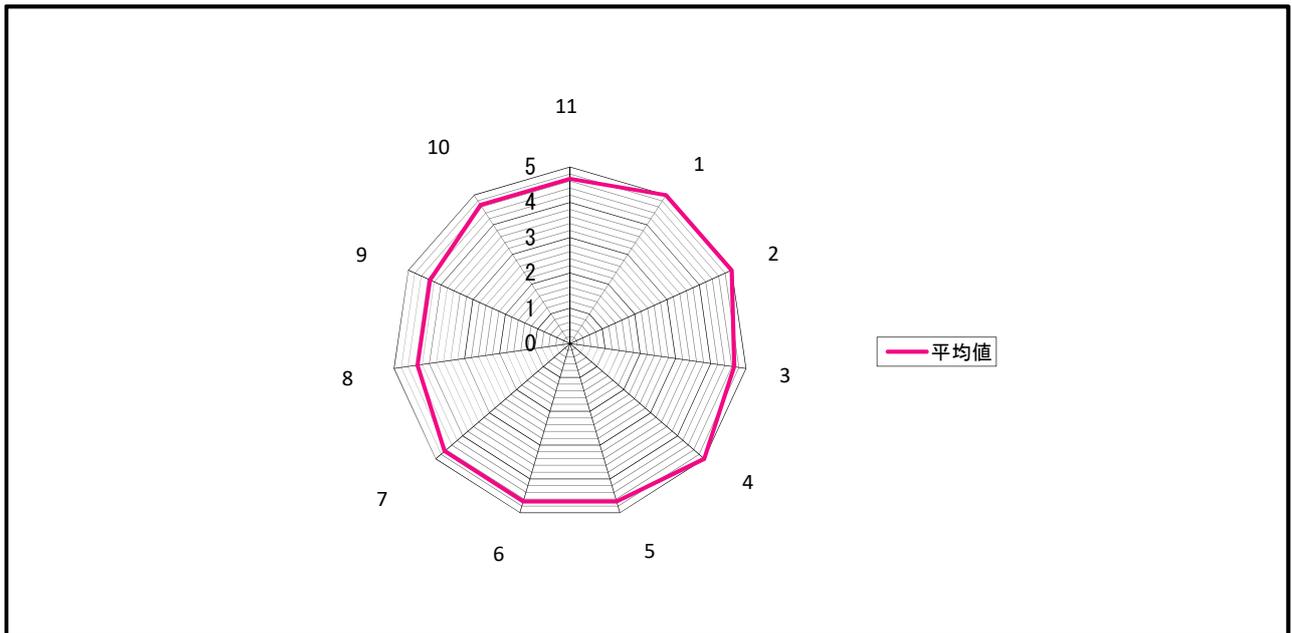
## 教員のコメント

授業内容は『ライフコースとジェンダーで読む家族』(岩上真珠著)をテキストに用い、戦後の日本家族の変化を中心に構成した。親子関係、夫婦関係、地域と家族の関わりについてジェンダーの視点から説明し、意見交換を行って理解と思考を深めた。受講者は3名であったが、学部での専攻、現在の専攻、年齢等が異なるため、授業内容の設定レベルに苦慮した。

# 結果報告書

授業科目名 生活経営学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 坂本 有芳      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1				4.3
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2		1				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



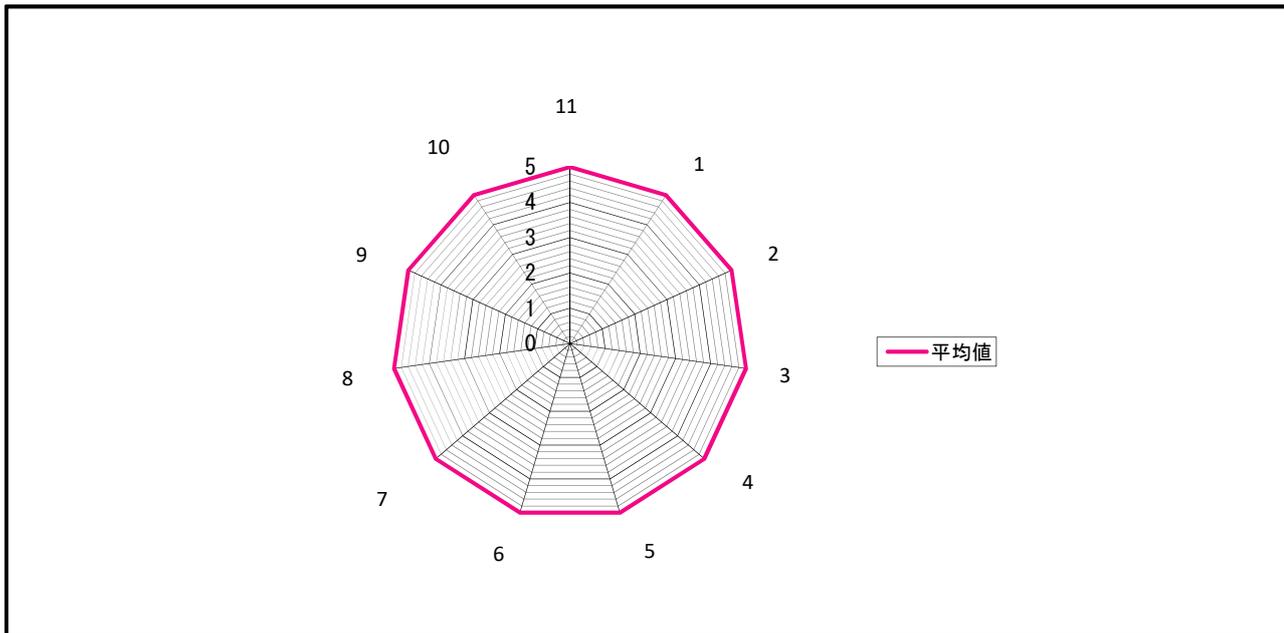
## 教員のコメント

専門分野の基本的知識を養う目的で教科書に基づいた授業を実施した。事前学習シートの提出を義務付け、学生による発表を中心とした授業を実施するとともに、多様な関連資料・教材を用いて具体的な事例の補足説明を行うことにより理解をうながすようにした。教科書は複数の候補から学生に選択してもらったものの、基礎知識を有する学生にとっては物足りない内容だったことも考えられる。今後も主体的な学習をうながしながら、多くの知識を習得できるような授業方法を改めて考えてゆきたい。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 衣生活学研究  
 評価実施日 平成29年7月25日  
 担当教員名 福井 典代      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



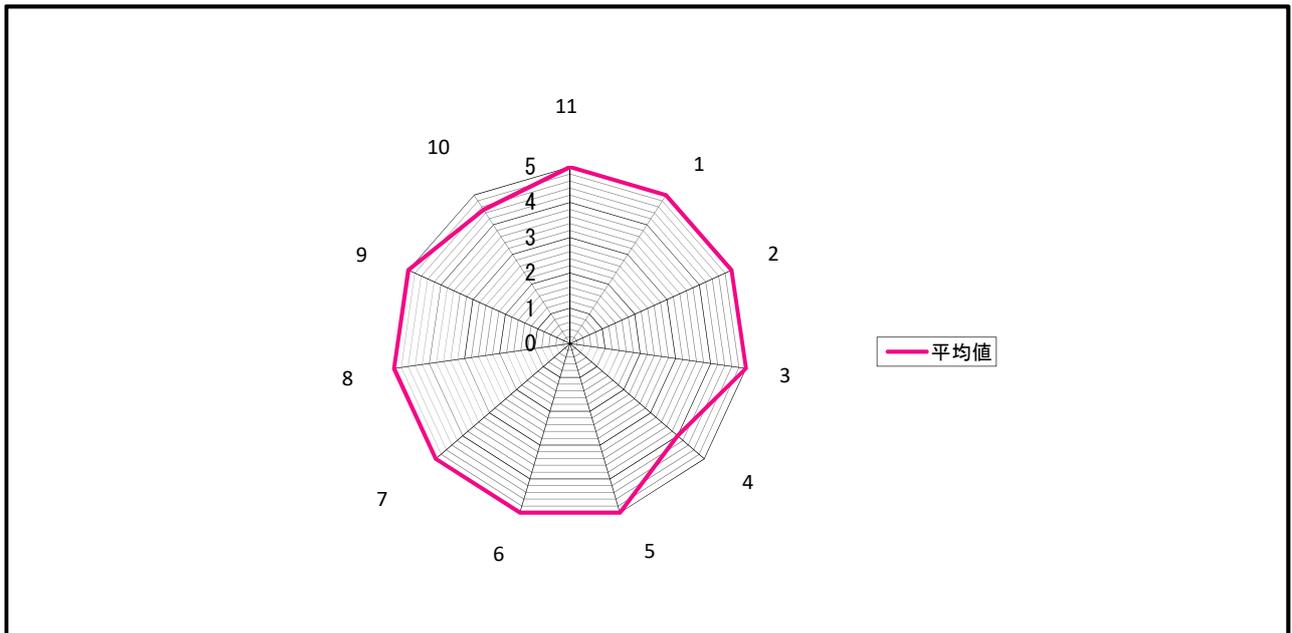
## 教員のコメント

この授業では、被服に関する基本的な知識を理解するために、簡単な実験や実習を授業の中で取り入れている。本学で開発した教材も活用しながら、単調になりやすい座学の授業の中で体験的な活動を行っている。  
 学生による授業評価の結果から、「授業の内容」、「教員の授業の進め方」、「授業への取り組み」、「総合評価」のすべての項目において高い評価が得られた。現在実施している授業内容と活動について高い評価が得られたことから、実施する実験・実習内容を見直しなが、今後も学生に合わせた授業を実施していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 食生活学研究  
 評価実施日 平成30年8月22日  
 担当教員名 西川 和孝,西川 章江      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



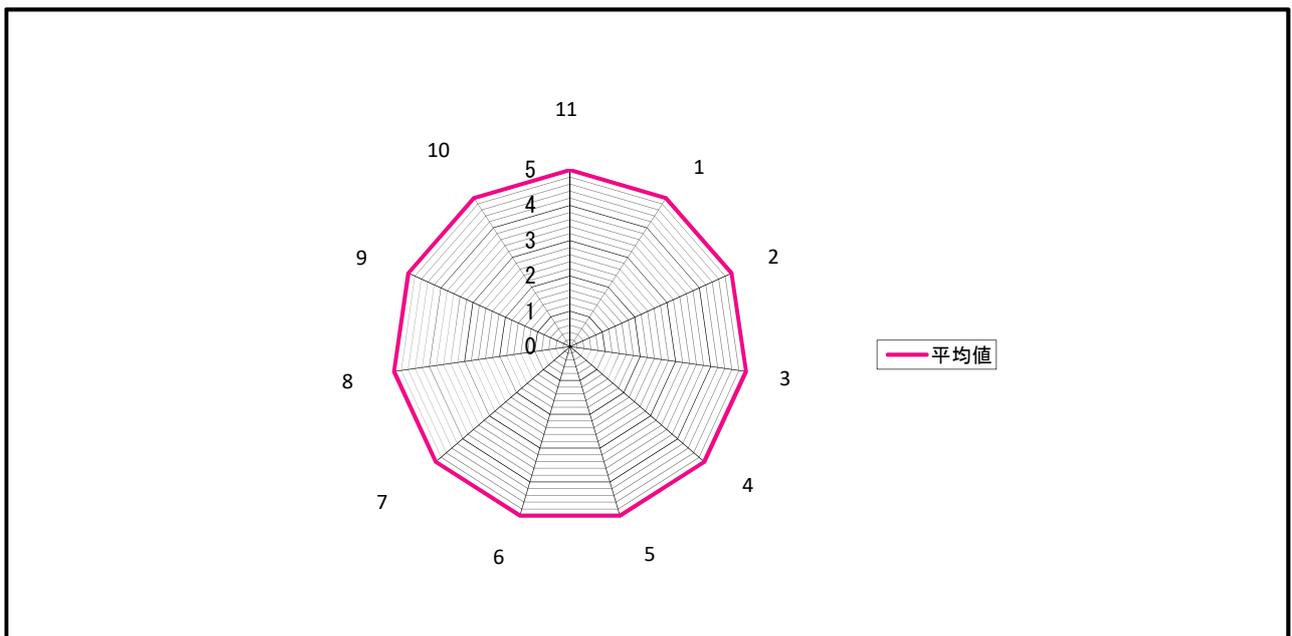
## 教員のコメント

総合評価はすべての評定が5とされており、総合的な満足度は高い科目であったと考えられる。質問項目「(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。」については、アクティブ・ラーニングの一例である実験も何回か実施した。「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」については評定が一人4であったが、それ以外は5であった。当該科目は食生活学の専門的な内容の理解に主眼が置かれているが、今後も教育との関連も続けていきたいと考えている。全体的に見直しが必要な点は見当たらないが、履修生を見ながら改善していきたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 住生活学研究  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 金 貞均 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



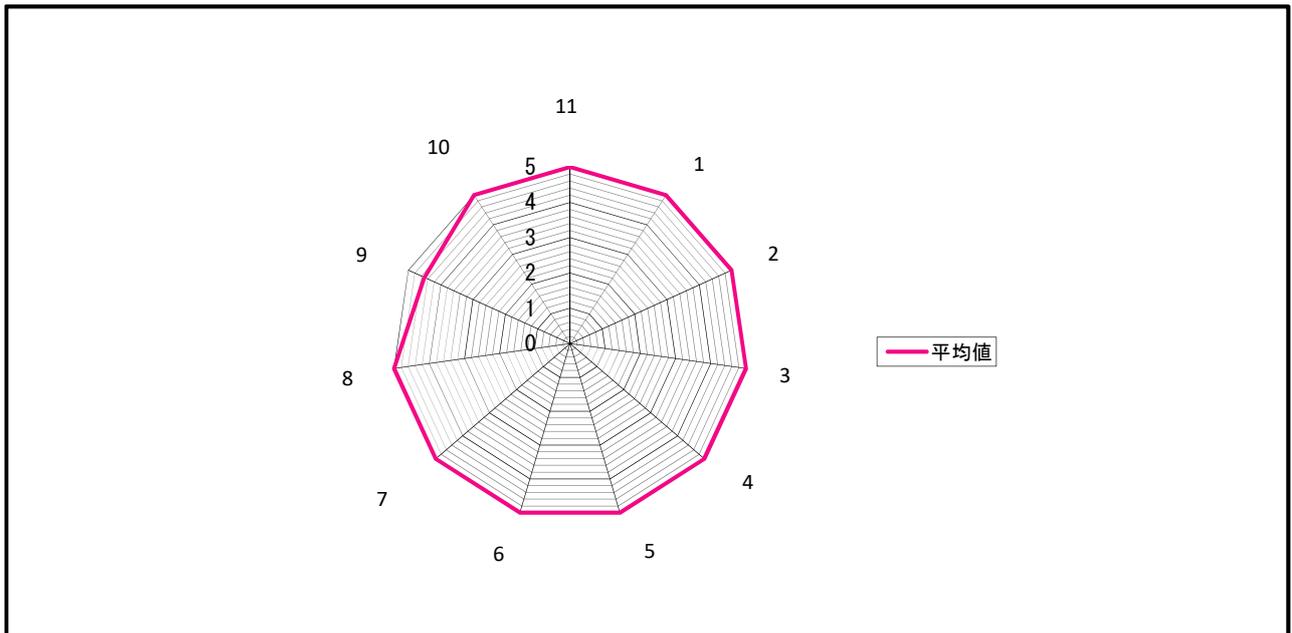
## 教員のコメント

本授業では少人数授業の利点を生かして、授業テーマに対して課題発表と意見を述べる時間をできるだけ設ける努力をした。本授業に対する総合評価は5.0で、すべての項目においてポジティブな評価をしていた。特に受講生自身の授業への取り組み姿勢について、「(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」と5.0の自己評価をしたのは、授業者として大変うれしい評価点である。受講生が各授業テーマに対して積極的に文献や資料を読み、授業に積極的に臨んだことで、より授業効果は高まるし、これで授業の目標は達成されたと考える。以上の授業評価の結果は受講生が受け身にならない授業の成果と捉え、これからも受講生が主体的にかかわる授業を工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究  
 評価実施日 平成30年7月19日  
 担当教員名 速水 多佳子      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2						5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2						5.0
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



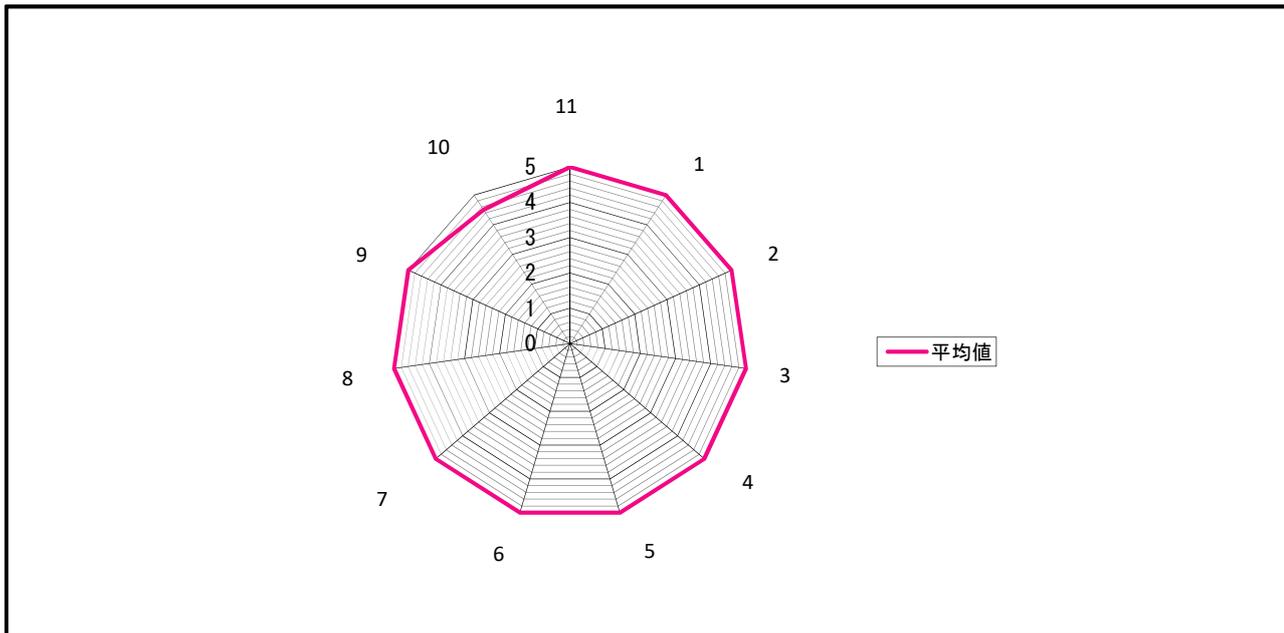
## 教員のコメント

本授業の受講生は、中学校と高等学校の家庭科教員志望の学生が各1名ずつの計2名であった。授業は教科教育学シリーズ「家庭科教育」(一藝社)をテキストとして用いた。学生がテキストの内容をまとめて発表し、その後に意見交換をするという形で授業を進めた。授業づくりにあたっての基礎的な内容から、指導方法などについても具体的に扱うことができた。また、学習指導要領の改訂についても十分に触れるよう心掛けた。教員を目指している学生のニーズに応じた授業となり、その結果、授業の総合評価が5.0となったと思われる。今後も、教員としての実践力育成につながるよう、内容をさらに深めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 教科内容構成(家庭科)  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 坂本 有芳, 速水 多佳子, 黒川 衣代, 福井 典代, 西川 和孝, 金 貞均 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



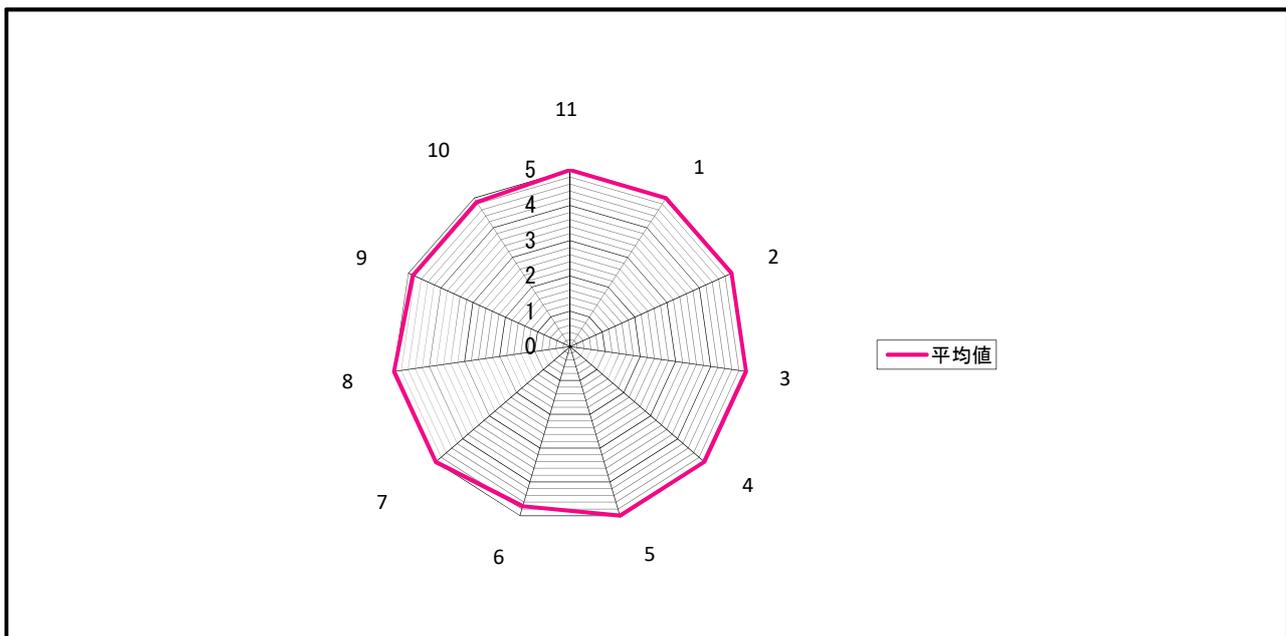
## 教員のコメント

小学校、中学校、高等学校の家庭科の教科内容について、家庭科の学問的基盤である家政学や、その他の関連する学問から考察すること、また教科内容についての理解を深めた上で、教育実践との関連を学ぶことを目的とした。2名と少人数の授業であり、適宜、質疑応答や話し合い活動の時間を十分に取り、内容に対する理解を確認しながら進めることができた。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 教育研究・調査  
 評価実施日 平成30年7月27日  
 担当教員名 石坂 広樹,小澤 大成      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



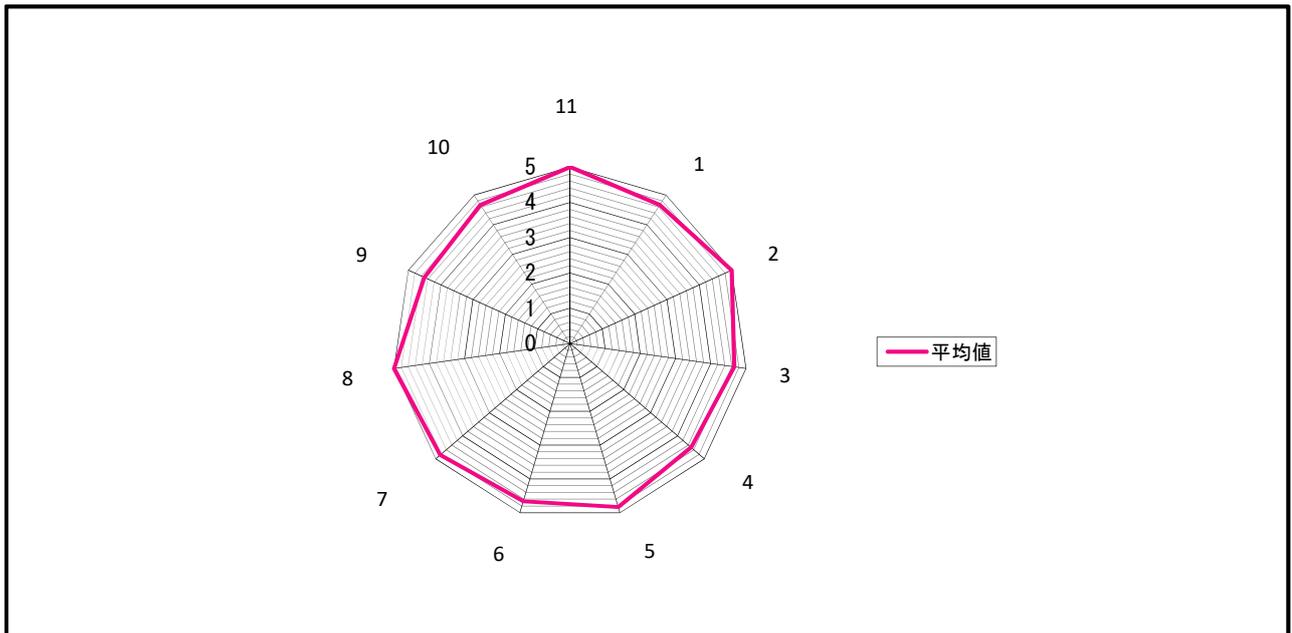
## 教員のコメント

本件授業では、学生の習熟度に合わせた個別指導も行っており、その成果が評価結果に表れていると思われる。今後も継続した個別指導などのきめ細かな対応を心掛けたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論 I  
 評価実施日 平成30年7月30日  
 担当教員名 小澤 大成,近森 憲助 回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
	(4)授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(6)授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(8)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(11)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

総合評価5.0と高い評価であった。「英語と日本語で授業を行うこと」「図を描きながら説明すること」「多くの情報を得ることができたこと」「国際理解教育がどのようなものであるかわかった」ことを好意的に捉えている。アクティブラーニングおよび板書・視聴覚機器の評価がやや低く、来年度では改善コメント「もっとグループワークを取り入れると学びが深まる」を反映した改善を予定している。